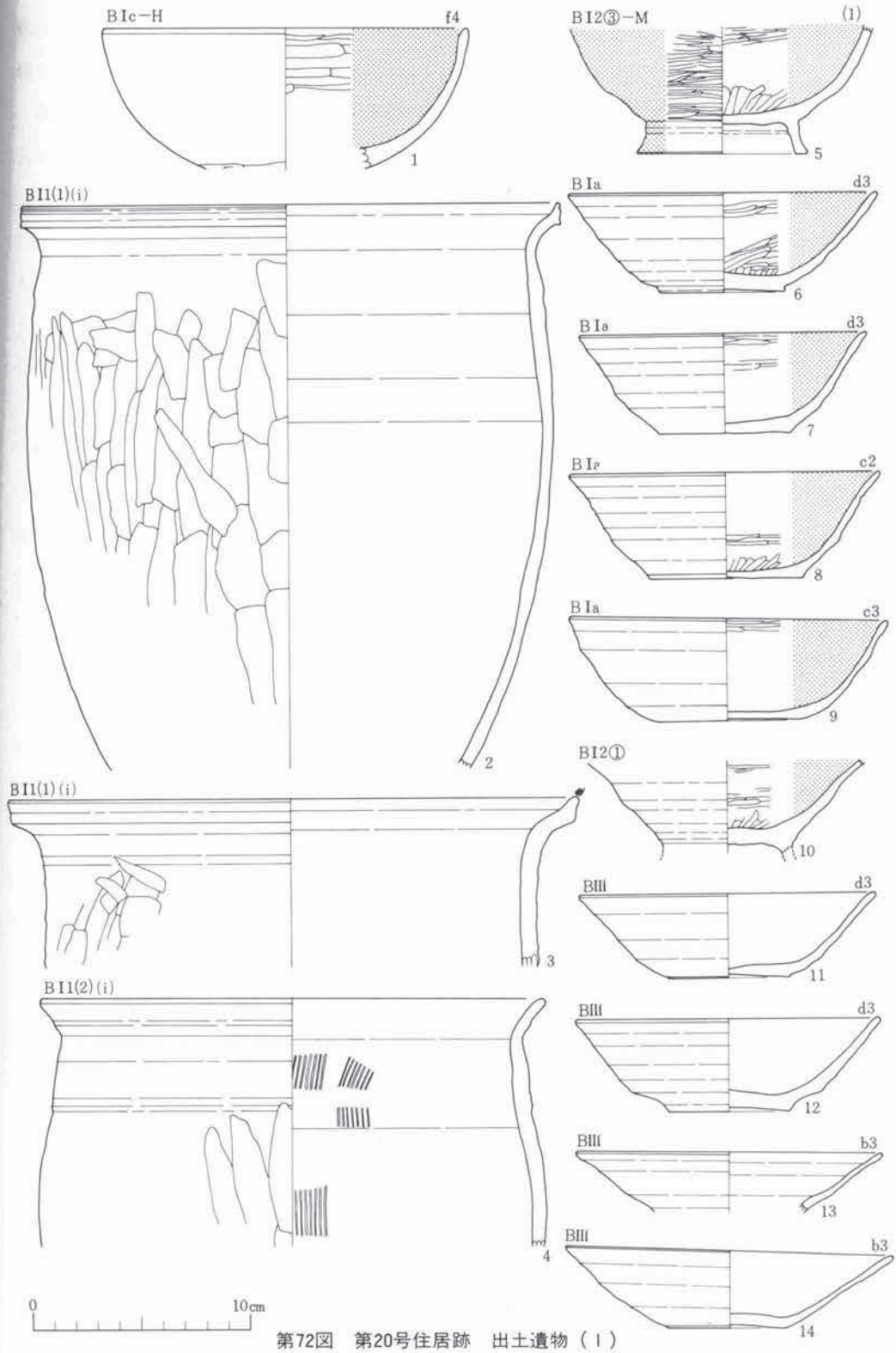
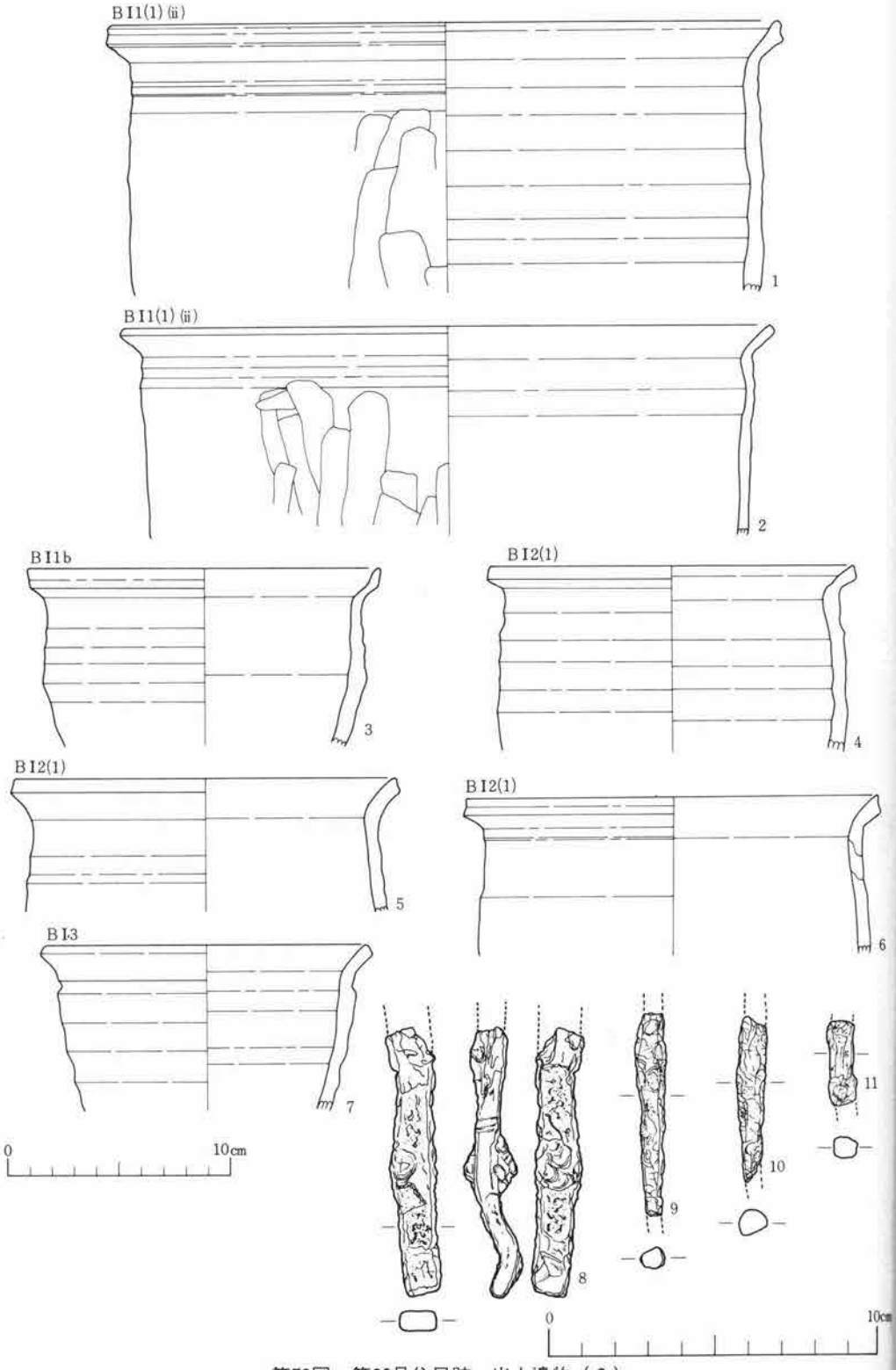



第72図　第20号住居跡　出土遺物（Ⅰ）




第73図　第20号住居跡　出土遺物（２）

体部が大きく開いて外傾するもの（13・14）と器高が普通で底径が小さく、体部が直線的に外傾するもの（11・12）とに分けられる。

**高台付坏形土器**（第72図）　高台付坏は、ＢＩ類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属するものとＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものとに類別される。

**〈高台付坏ＢＩ類〉**（第72図５・10）　高台部が長く外傾し、底部周縁をロクロ調整したもの（ＢＩ２③類）と高台部が長く外傾し、底部に菊花状のヘラ刻みを施して周縁をロクロ調整したもの（ＢＩ２①類）とに分かれる。

ＢＩ２③類の高台付坏(５)は、坏部の形態が器高の高い埦形を呈し、体部から口縁部までかなり丸味をもって立ちあがるものである。内外両面にヘラミガキを施し、黒色処理を加えている。

ＢＩ２①類の高台付坏(10)は、坏部が体部より口縁部まで大きく開いて外傾するものである。

**甕形土器**　甕はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものに限られる。

**〈甕ＢＩ類〉**（第72図２～４、第73図１・２、４～６）、ＢＩ類の甕は器形の大小と最大径の位置によって細分され、口縁部に最大径をもつ大形のもの（ＢＩ１(1)類）と体部に最大径をもつ大形のもの（ＢＩ１(2)類）、および口縁部に最大径をもつ小形のもの（ＢＩ２(1)類）とがある。

ＢＩ１(1)類の甕（第72図２・３、第73図１・２）は、体部がゆるく脹むもの（第72図２）とほとんど脹まず直線的に底部へと移行するもの（第72図３、第73図１・２）とがある。口縁部は、短くゆるく外反し口唇部を上下に弱く挽き出すもの（第72図２）、短く強く外反し口唇部を強く上方へ挽き出すもの（第72図３）、極端に短く外反し口唇部は単純に丸めてあるもの（第73図２）、極端に短く外反し口唇部を上方へ弱く挽き出すもの（第73図１）などに分けられる。器面調整は共通しており、体部下半外面にヘラケズリを施すほかはロクロナデで整えている。

ＢＩ１(2)類の甕（第72図４）は、口縁部が極端に短くゆるく外反するもので、体部の中央付近に最大径をもつ。体部下面外面にヘラケズリが施されており、体部内面にはロクロナデの前段階の調整である刷毛目痕が観察される。

ＢＩ２(1)類の甕（第73図４～６）は器形が共通している。口縁部は短くゆるく外反し、体部はゆるく脹むもので、中央付近に最部最大径をもつ。全面ロクロナデで調整している。

**壺形土器**　ＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属するものが破片で出土している。肩部で大きく張り出すもので、広口壺の破片と思われる。図示不能である。

**鉢形土器**（第73図３・７）　ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものである。３は口縁部が短く外反し、口唇部は上方へ強く挽き出している。体部は上半付近でやや脹むものである。７は口縁部が極端に短く直立ぎみに外反するもので、体部は直線的に底部へと移行する。体部最大径は上端付近にもつ。いずれも全面ロクロ調整である。

**鉄製品**（第73図８～11）８は細長い板状のものである。平のみ等の木工具の基部とも考えら

れるがはっきりしない。現存長で16.1cm、幅2.2cm、厚さ1.1cm±を計る。9～11は角針と思われる。いずれも細長い角棒で、現存長はそれぞれ12.2cm・10.0cm・5.1cmを計測する。

**第21号（ＦＤ50）住居跡**

**〔遺構確認面〕** 当地区は桑の木等による耕作がかなりの深さまで及んでいる。したがって、IIa層の上部もかなり攪乱を受けており、遺構は耕作土を除去して確認されている。

**〔保存状況〕** 木根等による攪乱を随所にうけており、保存状況はあまり良くない。全体のプランは確認可能である。

**〔重複関係〕** 当住居と重複する遺構は検出されていない。

**〔平面形・長軸方向〕** 南北方向に若干長いが正方形を意図したものであろう。長軸方向はN—22°30′—Wである。

**〔規模〕** 南北長で4.74m・4.55m、東西長が4.40m・4.22mとなり、床面積は約19.20 m²である。

**〔堆積土〕** 住居内堆積土は次下の2層に分けられる。

第1層：褐色のシルト層である。住居の上部全面を覆う。かたくしまっており、焼土粒・木炭粒を少量含む。

第2層：褐色のシルト層である。壁際を中心に床面上に分布する。第1層に比べてやわらかく、やや粘性もある。焼土粒・木炭粒を少量含む。

第1層、第2層とも住居廃絶後に自然的営力によって堆積したものと思われる。

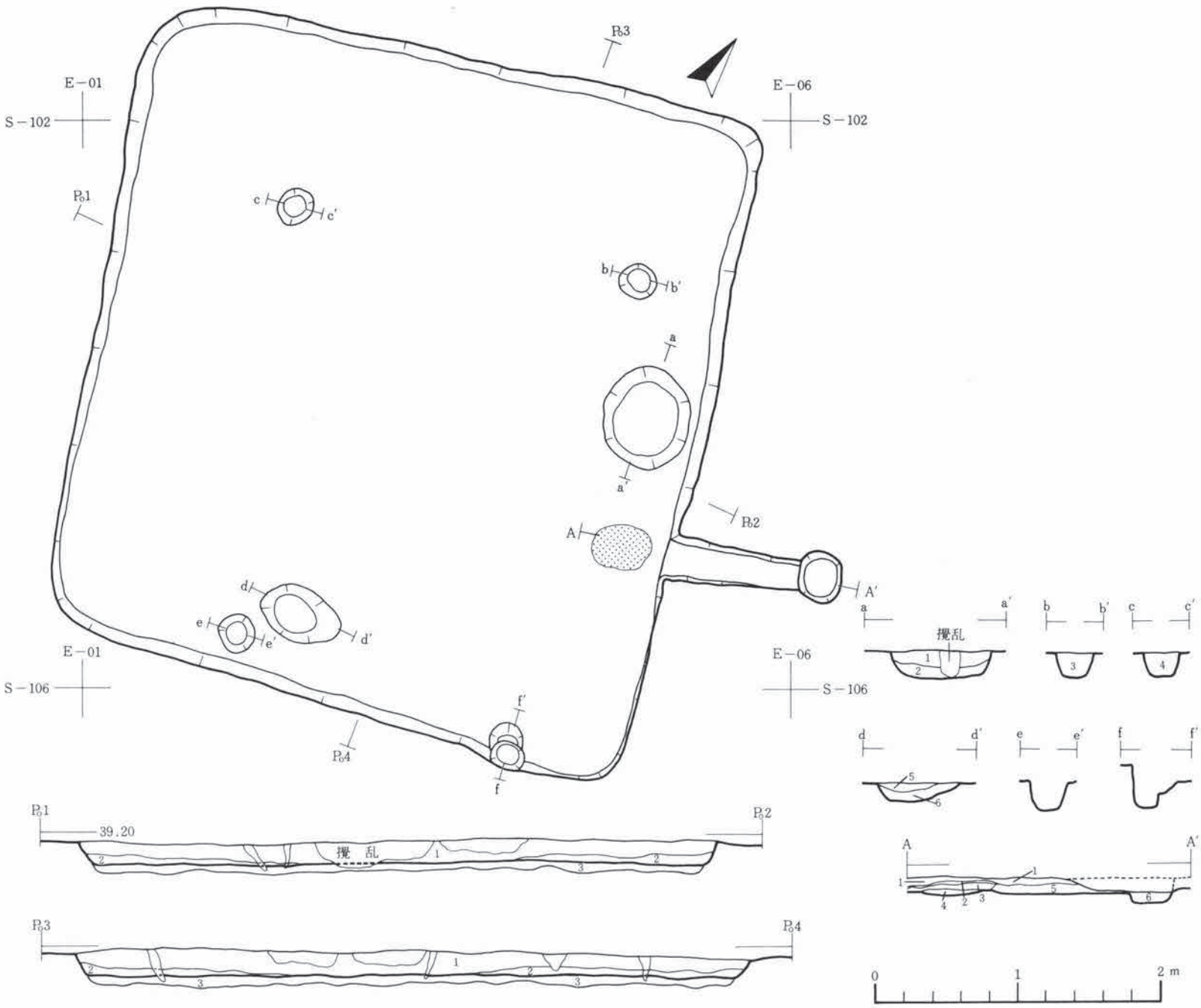
**〔壁〕** 地山を壁としている。床面からの立ち上がり角度は緩やかである。遺存状況は不良でほとんど消滅する個所もみられる。現存する壁高は東壁で2～21cm、西壁が11～23cm、南壁4～18cm、北壁18～21cmとなり、かなりのばらつきがある。

**〔床〕** 床面はほぼ完全に遺存しており、ほとんど凸凹はみられない。とくに叩き締めた痕跡はみられず、比較的やわらかい。床面上よりは大小6個のピットが検出されている。

最後に床面を掘り下げたところ、3～10cmの厚さをもつにぶい黄褐色土が検出された。掘り方の埋土と思われる。

**〔柱穴〕** 柱穴と考えられるものには$P_2$、$P_3$、$P_4$、$P_6$の4個のピットがあり、大きさ、深さともほぼ一定している。深さは20cm内外であり比較的浅い。これらのピットを結んだ線はほぼ整った長方形を呈する。配置位置は住居の方形プランからやや南西方向に寄っており、うち2本は南壁に接近している。

**〔カマド〕** 東壁やや南寄りに付設されている。煙道部から煙出部にかけて部分的に削平されているほか、袖部はほとんど遺存していない。主軸方向はE—28°30′—Nである。




| | 層No. | 土　　色 | 土　　性 | そ　の　他 |
|---|---|---|---|---|
| 第　1　層 | 1 | 褐　　色(10Y R4/6) | シ　ル　ト | 焼土粒・木炭粒を少量含む |
| 第　2　層 | 2 | 〃　　(10Y R4/4) | 〃 | 〃 |
| 埋り方埋土 | 3 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | 地山塊・褐色土粒の混合土 |
| | | | | |
| カ　マ　ド | 1 | | | 住居内堆積土No. 2 層と同じ |
| | 2 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シ　ル　ト | 焼土粒がかなり含まれる |
| | 3 | 褐　　色(7.5Y R4/6) | 〃 | 粒～塊状の焼土を多量に含む |
| | 4 | 明 赤 褐 色(2.5Y R5/8) | 〃 | 火床部 |
| | 5 | にぶい黄褐色(10Y R5/4) | 〃 | 焼土粒・木炭粒をかなり含む |
| | 6 | 褐　　色(7.5Y R4/4) | 〃 | 〃 |
| | | | | |
| P　1 | 1 | 褐　　色(10Y R4/4) | シ　ル　ト | 緻密でかたい |
| 〃 | 2 | 〃　　(10Y R4/4) | 〃 | 焼土粒・木炭粒を少量含む |
| P　2 | 3 | 暗　褐　色(10Y R3/4) | 〃 | |
| P　3 | 4 | 〃　　(　〃　) | 〃 | 上部に木炭粒を多く含む |
| P　5 | 5 | 褐　　色(10Y R4/4) | 〃 | |
| 〃 | 6 | 〃　　(　〃　) | 〃 | 細砂を含みやわらかい |

**第74図　第21号住居跡**

燃焼部底面は床面とほぼ水平になっている。火床部と思われる焼土面が41×31cmの範囲で確認されている。支脚と思われるものは発見されていない。袖部は完全に崩壊している。

煙道部は燃焼部奥壁に作られており、入口は燃焼部底面より２cmほど低くなっている。長さは約94cmあり、底面はほぼ水平に移行して煙出部と接続している。煙出部には直径約36cmのピットが掘られており、煙道端との比高は約６cmになっている。

燃焼部底面下の掘り方の有無はカマドの掘り下げを行なっておらず、不明である。

**〔貯蔵穴状ピット〕**　貯蔵穴の可能性をもつものにP1がある。カマドの左脇に位置しており、大きさは76×61cmで、深さは18cmとなる。埋土は２層に分けられる。上層は褐色のシルト層で混入物はみられない。下層は褐色のシルト層でややねばりがある。焼土粒・木炭粒を少量含む。

**〔出土遺物〕**　当住居跡の出土遺物には土器と鉄製品とがあり、土器は坏・高台付坏・甕・壺の器種に分けられる。遺物は住居の南東隅付近から出土したものが多い。

**坏形土器**（第75図）　坏には、ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）、およびＢIII類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とがある。

**〈坏ＢＩ類〉**（第75図１～３）　ＢＩ類の坏には、底部を回転糸切りで切り離した後、再調整を加えないもの（ＢＩａ類）と再調整を施すもの（ＢＩｃ類）とがある。

ＢＩａ類の坏（３）は破片をも含め、１点しか出土していない。器高が普通で底径が小さく、体部がややふくらみをもって外傾するものである。

ＢＩｃ類の坏（１～２）は、体部下端より底部全面に手持ちヘラケズリを施すもの（$H_1$手法）である。体部がやや丸味をもって外傾するもの（２）と、器高が高くて底径が大きく、体部がやや丸味をもって立ちあがるもの（１）とに分けられる。

**〈坏ＢII類〉　〈坏ＢIII類〉**　いずれも回転糸切り無調整のもので、図示不能の細片である。

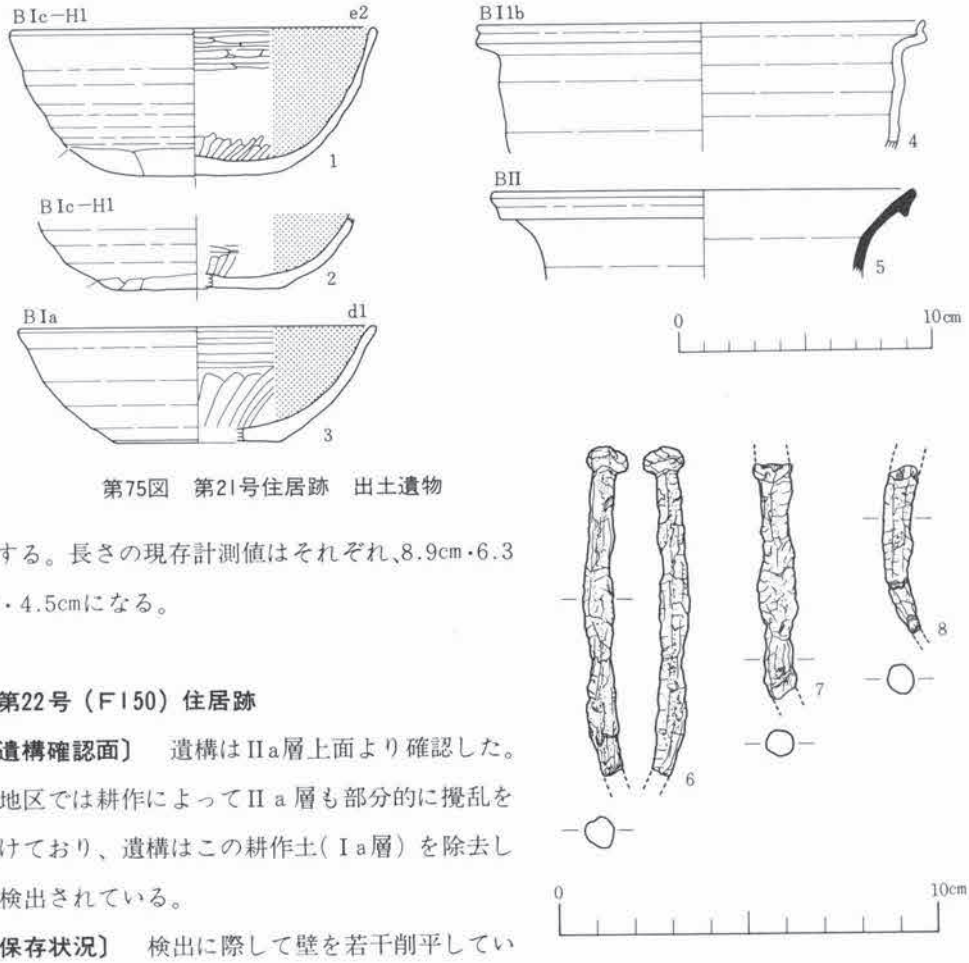
**高台付坏形土器**　ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）のものが破片で出土している。高台部は長く外傾し、底部に菊花状のヘラ刻みを施して周縁をロクロ調整したもの（ＢＩ２①類）である。坏部の形態は全く不明である。

**甕形土器**　ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すものが少量出土している。器形の大小によって二分されるがいずれも体部の少片のため図示不能である。

**壺形土器**（第75図５）　ＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すものである。口縁部の細片のため全体の器形は不明である。一応広口壺として分類した。

**鉢形土器**（第75図４）　ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に類別される。口縁部は短く強く外反し、口唇部は上方へ強く挽き出している。体部はほとんど脹まず上端付近に体部最大径をもつ。全面ロクロナデで整えている。

**鉄製品**（第75図６～８）　いずれも細長い角棒状のもので、釘と思われる。６には頭部も残




第75図　第21号住居跡　出土遺物

存する。長さの現存計測値はそれぞれ、8.9cm・6.3cm・4.5cmになる。

**第22号（F150）住居跡**

**〔遺構確認面〕**　遺構はIIa層上面より確認した。当地区では耕作によってIIa層も部分的に攪乱を受けており、遺構はこの耕作土（Ia層）を除去して検出されている。

**〔保存状況〕**　検出に際して壁を若干削平しているが全体的にほぼ原形をとどめており、保存状況は比較的良好である。

**〔重複関係〕**　当住居と重複する遺構は検出されていない。

**〔平面形・長軸方向〕**　南北方向にやや長い長方形を呈する。長軸方向はN－1°－Wである。

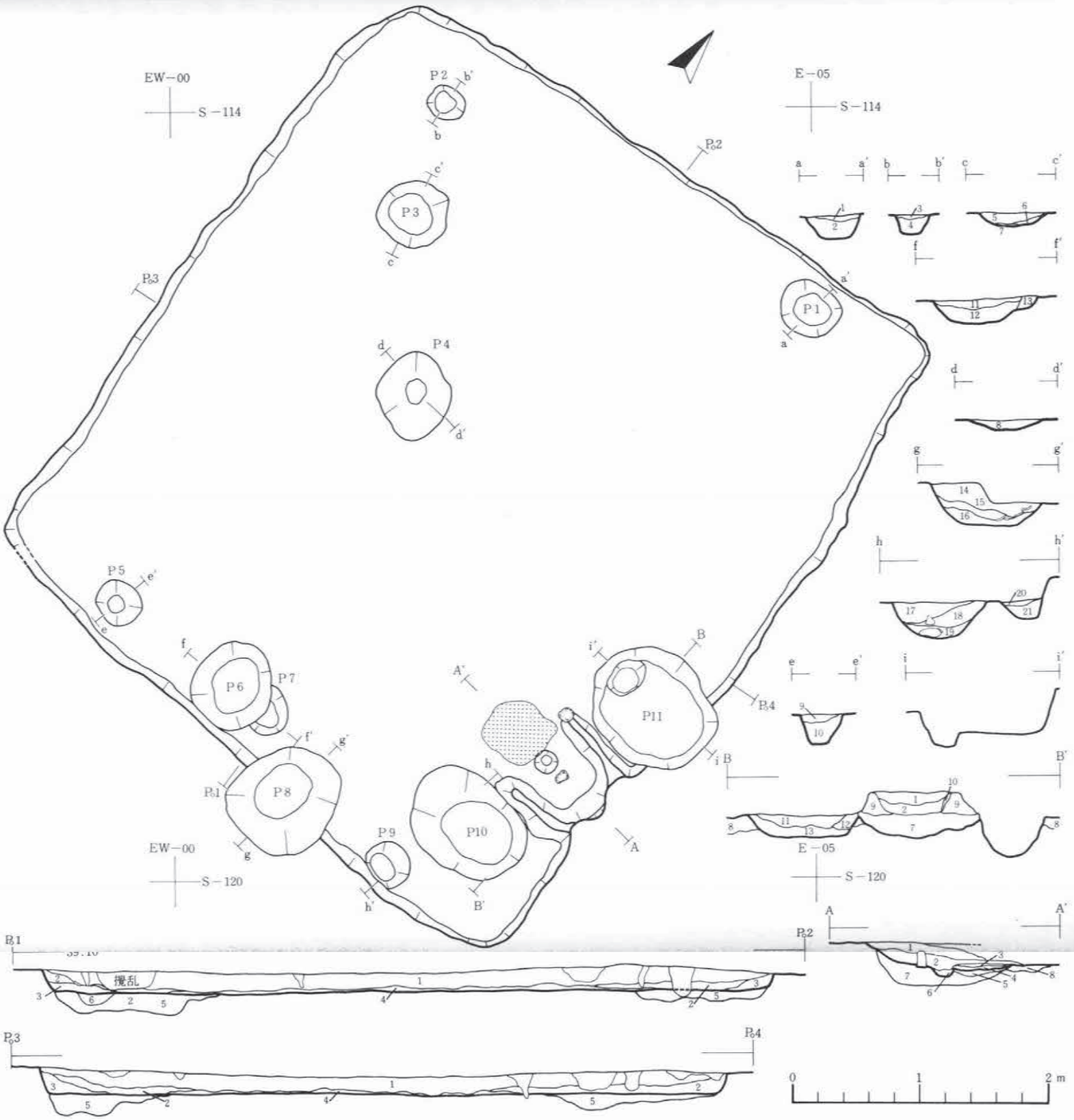
**〔規模〕**　長軸（南北）長で5.74m・5.59m、短軸（東西）長が5.44m・5.26mとなり、床面積は約29.40m²である。

**〔堆積土〕**　遺構内堆積土は基本的には以下の3層に大別される。

第1層：にぶい黄褐色のシルト層である。最も厚い層で住居のほぼ全面に分布する。少量の焼土粒・木炭粒を含む。

第2層：にぶい黄褐色のシルト層である。壁際を中心に分布する。第1層に比べてあらい堆積でややぼさぼさしている。少量の焼土粒・木炭粒を含む。

第3層：褐色のシルト層である。床面上に薄く堆積する。他の層に比べてやや粘性が強く、かなりの焼土粒・木炭粒を含む。




| | 層No. | 土色 | 土性 | その他 | | 層No. | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1層 | 1 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | シルト | 焼土粒・木炭粒を少量含む | P 1 | 1 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 微量の木炭粒を含む |
| 第2層 | 2 | 〃 (10YR4/3) | 〃 | 〃 | 〃 | 2 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | |
| 〃 | 3 | 〃 (10YR5/4) | 〃 | 壁の剝落土 | P 2 | 3 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | 〃 | 微量の木炭粒を含む |
| 第3層 | 4 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | 焼土粒・木炭粒をかなり含む | 〃 | 4 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | |
| 埋り方埋土 | 5 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | 〃 | 塊状堆積 | P 3 | 5 | にぶい黄褐色(10YR5/4) | 〃 | 木炭粒をかなり含む |
| P 7 | 6 | 〃 (10YR4/3) | 〃 | 微量の焼土粒を含む | 〃 | 6 | 黒褐色(7.5YR2/2) | 粘土質シルト | 木炭の集積層 |
| | | | | | 〃 | 7 | 赤褐色(2.5YR4/6) | シルト | 焼きの弱い焼土 |
| カマド | 1 | にぶい黄褐色(10YR5/4) | シルト | 焼土粒をかなり含む | P 4 | 8 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 〃 | 多量の木炭を含む |
| | 2 | 暗赤褐色(2.5YR3/2) | 〃 | やわらかな焼土 | P 5 | 9 | 〃 (10YR5/3) | 〃 | 少量の木炭粒を含む |
| | 3 | 橙色(5YR7/6) | 〃 | やや硬い焼土 | 〃 | 10 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | |
| | 4 | 赤褐色(2.5YR4/6) | 〃 | 火床部 | P 6 | 11 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 焼土粒・木炭粒をかなり含む |
| | 5 | にぶい赤褐色(2.5YR4/3) | 〃 | 熱の浸透部 | 〃 | 12 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | 〃 | 少量の木炭粒を含む |
| | 6 | 暗赤灰色(2.5YR3/1) | 粘土質シルト | ぼさぼさしている | P 7 | 13 | | | 第1表No.6層と同じ |
| | 7 | にぶい黄褐色(10YR5/4) | シルト | 燃焼部掘り方埋土 | P-8 | 14 | 暗赤灰色(2.5YR3/1) | シルト | 灰混りのやわらかい焼土 |
| | 8 | | | 第1表No.5層と同じ | 〃 | 15 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 〃 | |
| | 9 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | シルト | | 〃 | 16 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 焼土粒を含みやわらかい |
| | 10 | 赤褐色(10YR4/6) | 〃 | | P 10 | 17 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 焼土粒・木炭粒を少量含む |
| P 11 | 11 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 〃 | 焼土粒・木炭粒を少量含む | 〃 | 18 | 〃 (10YR5/3) | 〃 | 袖の崩壊土(?) |
| 〃 | 12 | 〃 (10YR5/3) | 〃 | 袖の崩壊土(?) | 〃 | 19 | 褐色(10YR4/4) | 砂質シルト | 焼土粒・木炭粒をかなり含む |
| 〃 | 13 | 褐色(10YR4/4) | 砂質シルト | 焼土粒・木炭粒をかなり含む | P 9 | 20 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 微量の木炭粒を含む |
| | | | | | 〃 | 21 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | |

第76図　第22号住居跡

第1層、第2層とも自然的営力による堆積層である。第3層は住居が営まれた過程で形成された生活層と想定される。

**〔壁〕** 地山を壁としている。床面より急角度で立ち上がる。上面は若干削平されているが、現存する壁高は東壁で12～19cm、西壁が17～21cm、南壁12～17cm、北壁12～21cmとなっている。

**〔床〕** 床面はほぼ平坦な面をなしている。壁際を除き比較的かたくなっている。床面上からは大小あわせて11個のピットが検出されている。

なお、床面下には掘り方があり、壁に沿って約90～140cmの幅で掘り込まれている。深さは5～19cmとなり、にぶい黄褐色土が塊状に充填する。壁沿いを除いては地山をそのまま床面としている。

**〔柱穴〕** 床面上から検出された11個のピットのうち柱穴とすることのできるものには$P_1$、$P_2$ $P_3$、$P_9$がある。これらは深さが16～21cmと浅く、大きさは若干のばらつきがみられるが、4個を結んだ配置形はほぼ整った長方形(台形)を呈する。配置位置は北壁・南壁に近接しており、$P_1$、$P_9$は壁に接している。

**〔カマド〕** 東壁南寄りの部分に付設されている。主軸方向はE—8°—Sである。

燃焼部は床面とほぼ水平になっており、段差はもたない。焚口付近に51×47cmの範囲で火床部と思われる厚さ2～4cmの固い焼土面をもつ。焼土面の奥には深さ8cmの小ピットを持ち、さらに奥には支脚に使用したと思われる石が立っている。露出部分の高さは11cmになる。袖は地山のシルト質土を素材としており、芯材として利用したと思われる石が内部より数個発見されている。

煙道部、煙出部は地山面上からは検出されていない。おそらく急角度で立ちあがる構造をもつものであろう。

なお、燃焼部底面下より掘り方が検出されている。これは床面下の掘り方とは埋土が異なっており、カマド燃焼部に限定された掘り方と想定される。

**〔貯蔵穴状ピット〕** 貯蔵穴と思われるものには $P_{10}$ と $P_{11}$ がある。$P_{11}$ はカマド右脇に位置し、大きさは100×73cmで深さは32cmとなる。埋土は3層に分けられる。上層は緻密なにぶい黄褐色のシルト層で、少量の焼土粒・木炭粒を含む。中層はぼさぼさしたにぶい黄褐色土層で、袖・天井部の崩壊土と思われる。下層は褐色の砂質シルトで、かなりの焼土粒・木炭粒を含む。$P_{11}$はカマド左脇に位置し、約4半分が東壁外に出ている。大きさは108×89cmで深さは20cmである。埋土は3層に分けられ、$P_{10}$とほぼ共通した堆積状況を示している。

**〔その他のピット〕** 南壁と交差して$P_8$が検出されている。これが当住居に伴うものであるかは確証に欠ける。当住居の構築以前に掘り込まれたピットとなる可能性もある。

**〔出土遺物〕**　当住居跡の出土遺物には土器と土錘とがあり、土器は坏・高台付坏・甕・壺の器種に分けられる。遺物はカマドの周囲より出土するものが多い。

**坏形土器**（第77図～第78図～第79図）　坏には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）、とＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）、およびＢIII類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とがある。

**〈坏ＢⅠ類〉**（第77図４～12）　ＢⅠ類の坏には、底部を回転糸切りで切り離し、再調整を加えないもの（ＢⅠa類）と再調整を施すもの（ＢⅠc類）とがある。

ＢⅠc類の坏（４・５）は体部下端より底部全面に手持ちヘラケズリを施すもの（$H_1$手法）である。器高が普通で底径が小さく、体部が直線的に外傾するもの（４）と器高が普通で底径が大きく、ややふくらみをもって外傾するもの（５）とがある。

ＢⅠa類の坏（６～10）は、形態上の特徴によっていくつかに分けられる。いずれも器高は普通のもので、底径が大きく体部が直線的に外傾するもの（７）、底径が小さく体部がやや丸味をもって外傾するもの（８～９）、底径が小さく体部が直線的に外傾するもの(10)などがある。

**〈坏ＢII類〉**（第79図７・８）　回転糸切り無調整のもの（ＢIIa類）に限られる。８は底径が小さく、体部が直線的に外傾するものである。

**〈坏ＢIII類〉**（第78図６～13、第79図４～６）　回転糸切り無調整のものである。形態上の特徴によっていくつかに細分される。器高が低くて底径の大きなものには、体部がややふくらみをもって外傾するもの（第78図６・７）と体部がやや丸味をもって外傾するもの（８）とがある。器高が普通で底径の大きなものには、体部が直線的に外傾するもの（９）と体部がややふくらみをもって立ちあがるもの（10・11）とがある。また、器高が低くて底径が小さく、体部がやや丸味をもって外傾するもの（第78図12・13、第79図５・６）と器高が普通で底径が小さく、体部がやや丸味をもって外傾するもの（第79図４）とがある。

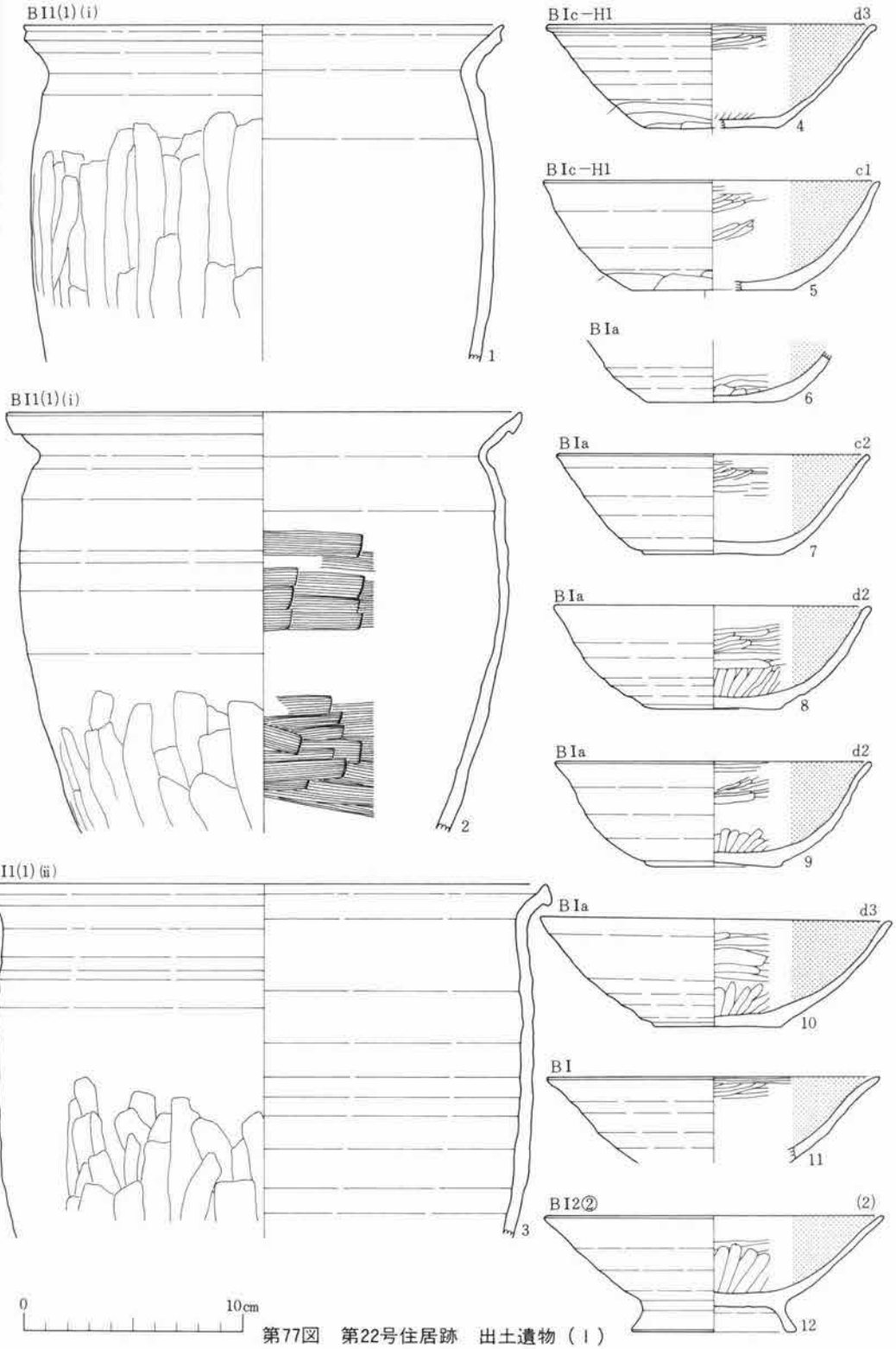
**高台付坏形土器**（第77図）　高台付坏形土器には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）に属するものとＢIII類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものとがある。

**〈高台付坏ＢⅠ類〉**（第77図12）　高台部が長く外傾し、底部はナデを施して周縁をロクロ調整したもの（ＢⅠ２②類）である。坏部の形態は器高が低くて底径が小さくなり、体部は大きく開いて外傾する。ほかに、破片のなかには高台が長く外傾し、底部に菊花状のヘラ刻みを施して周縁をロクロ調整するものも出土している。なお、第77図11は高台付坏の坏部と思われる。

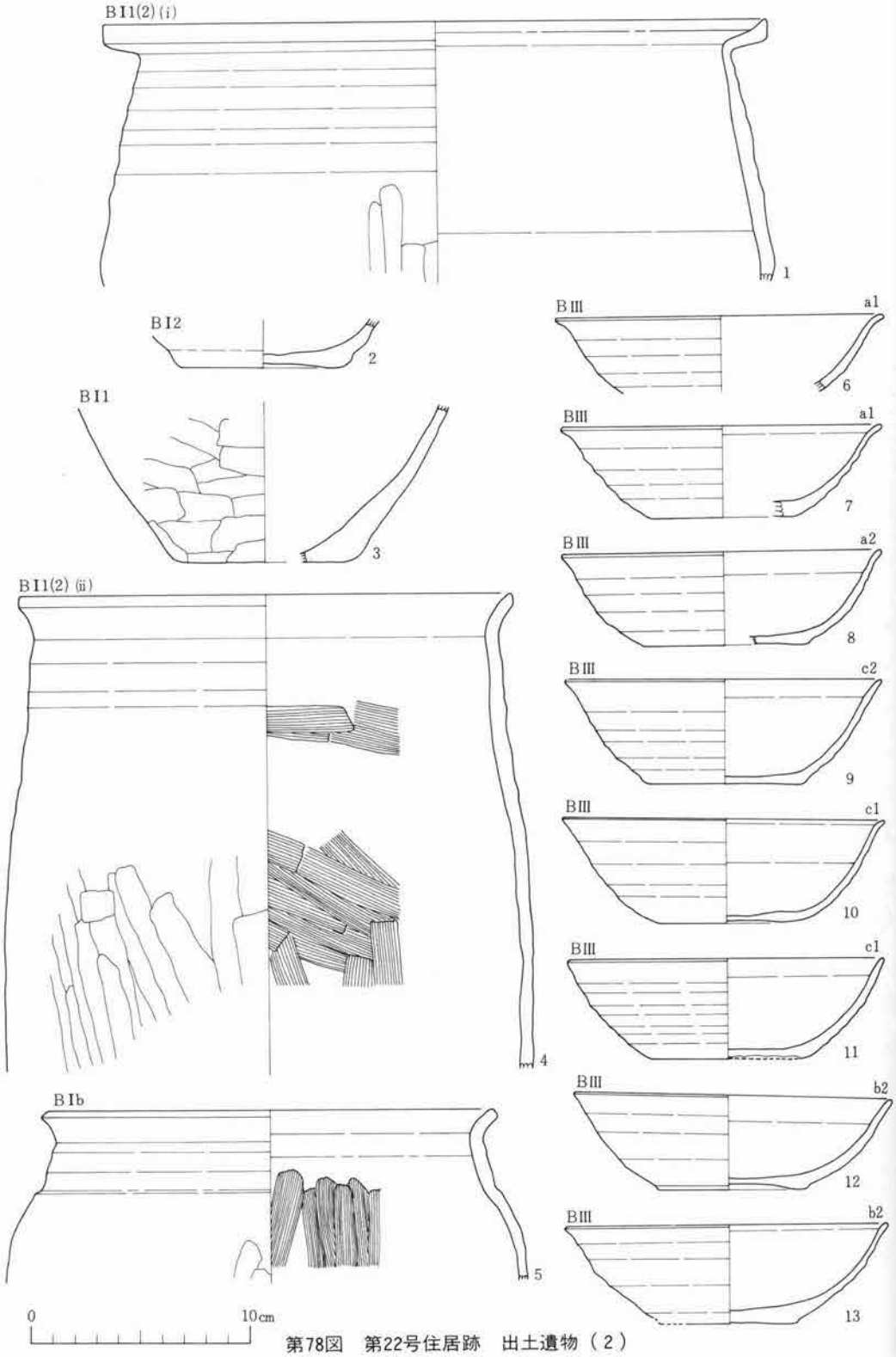
**〈高台付坏ＢIII類〉**　図示不能の細片で少量出土している。高台部が長く外傾し、底部周縁をロクロ調整するもの（ＢIII２③類）である。

**甕形土器**（第77図・第78図・第79図）　甕には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものとＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属するものとがある。

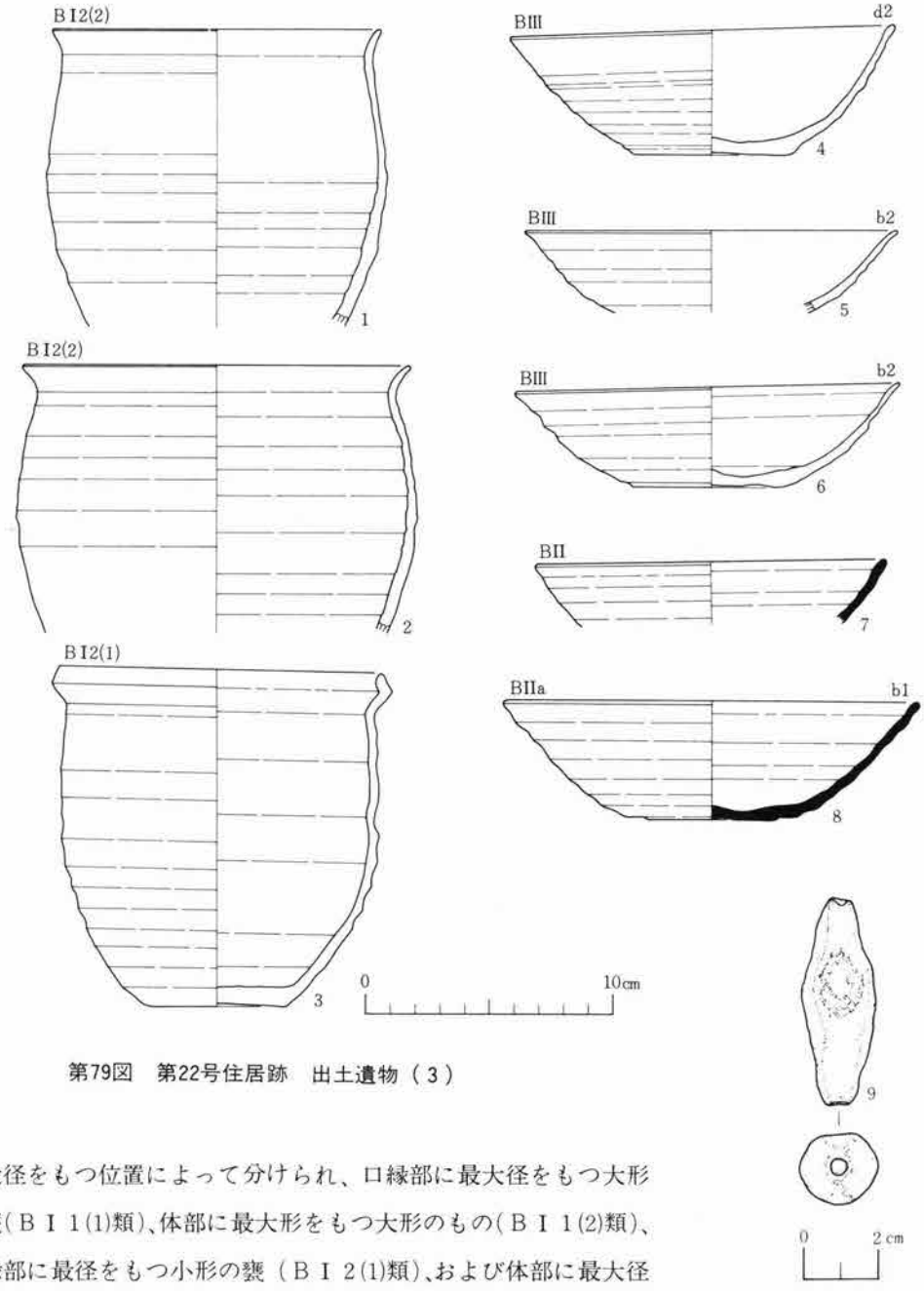
**〈甕ＢⅠ類〉**（第77図１～３、第78図１～４、第79図１～３）　ＢⅠ類の甕は、器形の大小と




第77図　第22号住居跡　出土遺物（Ⅰ）




第78図　第22号住居跡　出土遺物（２）




第79図　第22号住居跡　出土遺物（３）

最大径をもつ位置によって分けられ、口縁部に最大径をもつ大形の甕（ＢＩ１(1)類）、体部に最大形をもつ大形のもの（ＢＩ１(2)類）、口縁部に最径をもつ小形の甕（ＢＩ２(1)類）、および体部に最大径をもつ小形のもの（ＢＩ２(2)類）などに細分される。

ＢＩ１(1)類の甕（第77図１～３）は、体部が脹むもの（１・２）と体部が直線的なもの（３）とに分けられる。１は口縁部が短く外反し、口唇部は上方外側へ挽き出している。体部はゆるく脹み中央付近に体部最大径をもつ。２は口縁部が短く外反し、口唇部は下方内側へ挽き出し

ている。体部は肩部から大きく膨らみ、上端付近に体部最大径をもつ。３は口縁部が極端に短く外反し、口唇部は上下に弱く挽き出している。体部はほぼ直線的に底部へと移行する。器面調整は体部下反外面にヘラケズリが施され、２は体部内面にヘラナデが施されている。

ＢＩ１(2)類の甕（第78図１・４）は、それぞれの器形がかなり異なっており、１は口縁部が短く強く外反し、口唇部は上方へ挽き出している。体部は大きく膨み中央付近に最大径をもつものと思われる。４は口縁部が短くゆるく外反し、体部は下膨れ気味にゆるく張り出す。器面調整は体部下半外面には双方ともヘラケズリが施され、４の体部内面にはヘラナデが施される。

ＢＩ２(1)類の甕（第79図３）は、口縁部が短く外反し、口唇部は上方内側へ強く挽き出すものである。体部はほとんど膨まず中央付近に体部最大径をもつ。全面ロクロ調整である。

ＢＩ２(2)類の甕（第79図１・２）はともに器形が近似している。口縁部が短くゆるく外反し、体部がかなり膨むもので、中央付近に最大径をもつ。全面ロクロナデで調整している。１は、第18号（ＥＪ50）住居跡出土の破片との接合資料である。

なお、第78図２・３は甕の底部片である。２は小形のもの（ＢＩ２類）で３は大形のもの(ＢＩ1類)に類別される。３は体部下半より底部にかけて外面にヘラケズリが施されている。

**〈甕ＢII類〉**　図示不能の細片で小量出土している。器形には大小がみられる。

**壺形土器**（第78図５）　ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すもので、頸部は内傾ぎみに立ちあがり、口縁部は極端に短く外反する。体部は肩部付近で大きく張り出している。器面調整は体部外面にヘラケズリ、体部内面にヘラナデを施している。

**土錘**（第79図９）　中央で膨む管状のものである。計測値は、長さが5.7cm、最大復径2.0cmになり、径約0.4cmの貫通孔が入る。

**第23号（ＧＦ50）住居跡**

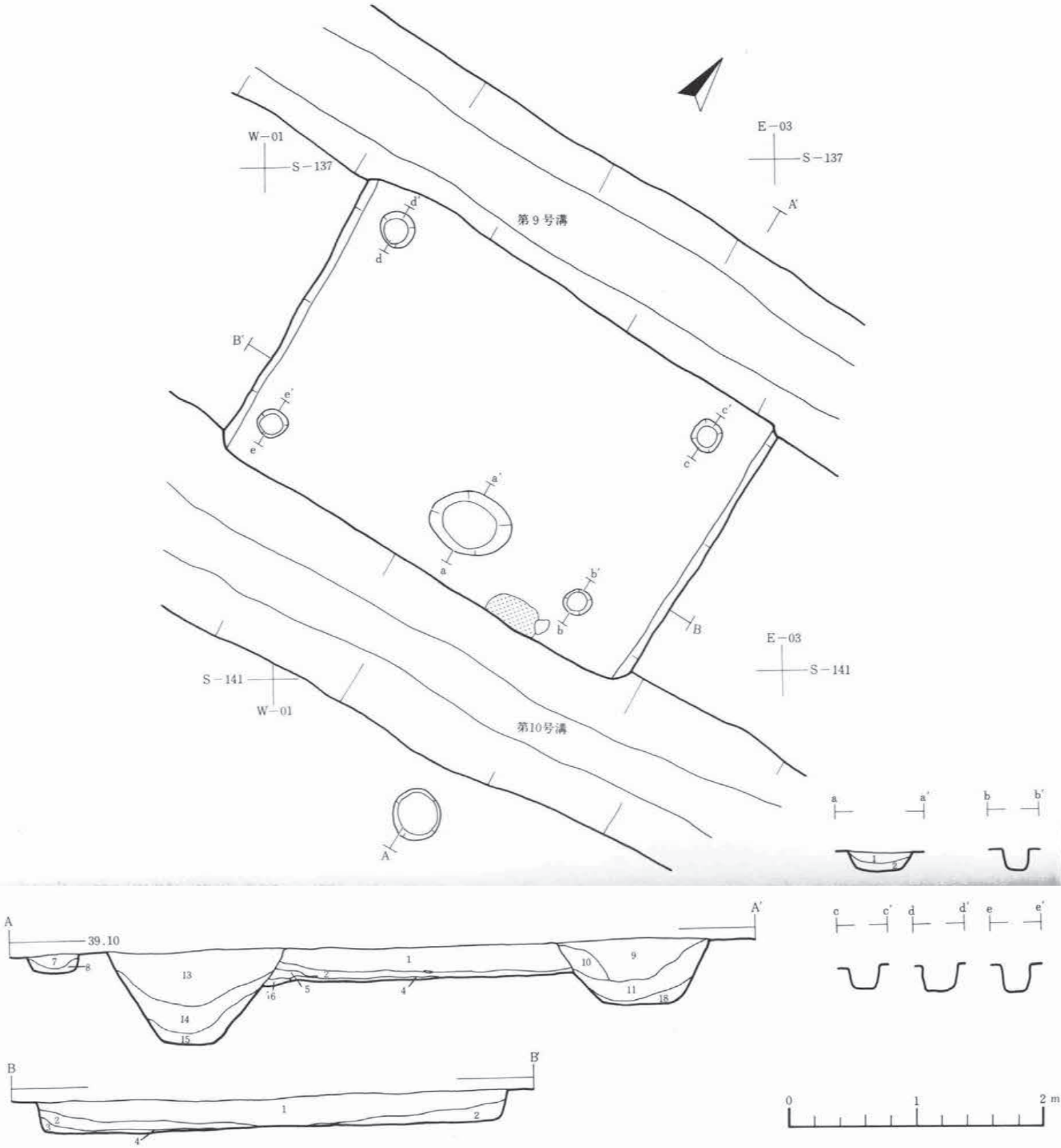
**〔遺構確認面〕**　遺構はIIa層のにぶい黄褐色土層上面より確認している。なお、確認面の上層は耕作土になっている。

**〔保存状況〕**　遺構相互の重複により、かなりの削損をうけている。保存状況は不良である。

**〔重複関係〕**　第９号溝・第10号溝と重複関係にある。当住居の北壁が第９号溝によって切られ、南壁が第10号溝によって切られている。南壁・北壁ともまったく遺存しない。当住居は第９号溝・第10号溝よりも旧い。溝相互の新旧関係は不明である。

**〔平面形・長軸方向〕**　北壁、南壁を欠くため断定はできないが、平面形は東西に長い長方形を呈するものと推定される。長軸方向はＮ―103°30′―Ｗである。

**〔規模〕**　長軸(東西)長で3.73ｍ・3.60ｍ、短軸(南北)長は不明である。床面積は残存値で8.75㎡である。




| | 層No. | 土色 | 土性 | その他 | | 層No. | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１層 | 1 | にぶい黄褐色(10Y R5/3) | シルト | 焼土粒・木炭粒を少量含む | | 10 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | |
| 第２層 | 2 | 〃 (10Y R4/3) | 〃 | 〃 をかなり含む | 第２層 | 11 | 暗褐色(10Y R4/3) | 〃 | 地山塊・木炭粒をかなり含む |
| 〃 | 3 | 〃 (10Y R5/4) | 〃 | 壁の剥落土 | 第３層 | 12 | 褐色(10Y R4/4) | 砂質シルト | ややねばりがあり、細砂を含む |
| 第３層 | 4 | 褐色(10Y R4/4) | 〃 | 焼土粒・木炭粒を少量含む | 第10号溝 | | | | |
| | | | | | 第１層 | 13 | 暗褐色(10Y R3/3) | シルト | 焼土粒・木炭粒を少量含む |
| カマド | 5 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | 粒～塊状の焼土を多量に含む | 第２層 | 14 | 〃 (10Y R3/4) | 〃 | 地山塊・木炭粒を少量含む |
| 〃 | 6 | 明赤褐色(2.5Y R5/6) | 〃 | 火床部 | 第３層 | 15 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | 地山土と細砂土の混合土 |
| 〃 | 7 | にぶい黄褐色(10Y R5/4) | 〃 | 粒～塊状の焼土を多量に含む | | | | | |
| 〃 | 8 | 褐色(10Y R4/4) | 粘土質シルト | 焼土・木炭・灰を含む | P 4 | 16 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | |
| 第９号溝 | | | | | 〃 | 17 | 褐色(10Y R4/4) | 粘土質シルト | 灰・焼土・木炭をかなり含む |
| 第１層 | 9 | 暗褐色(10Y R4/3) | シルト | 緻密でかたい | | | | | |

第80図　第23号住居跡

〔堆積土〕　住居内堆積土は以下の３層に分けられる。

第１層：にぶい黄褐色のシルト層である。住居の上部全面に厚く堆積する。緻密でかなりかたい。少量の木炭粒・焼土粒を含む。

第２層：にぶい黄褐色のシルト層である。住居中央に薄く、壁際に厚く堆積する。第１層に比べてやや疎で粘性も若干強い。木炭粒・焼土粒をかなり含む。

第３層：褐色のシルト層である。床面直上に薄く堆積し、分布範囲は限定される。少量の木炭粒・焼土粒のほか細砂を混入する。

第１層、第２層は住居廃絶後に自然的な営力によって堆積したものである。第３層は住居が営まれる過程で堆積した生活層と考えられる。

〔壁〕　地山を壁としている。現存する壁は東壁と西壁に限られる。床面より急角度で立ち上がる。壁高は東壁で19～21cm、西壁が21～24cmとなる。

〔床〕　南西部で若干低くなっているがほぼ平坦な面をなしている。とくに叩き締めた痕跡はみられず比較的やわらかい。床面上からは５個のピットが検出されている。

最後に床面を部分的に掘り下げたが掘り方等は検出されていない。地山をそのまま床としている。

〔柱穴〕　柱穴には$P_1$、$P_2$、$P_3$、$P_5$の４個のピットがあてられる。これらは大きさ、深さとも斉一性が認められ、その配置形は整った長方形を呈する。埋土はどれもが褐色のシルト質土の単一層であり、混入物はみられない。

〔カマド〕　南壁東寄りの部分に構築されている。第10号溝によって破壊されており、燃焼部の一部と煙出部のみが遺存する。主軸方向はＳ－10°－Ｅである。

燃焼部は床面より若干掘り凹められている。火床部と思われるかたい焼土面が部分的に検出されている。焼土面の厚さは４～５cmで大きさは(22.5)×53cmになっている。

煙出部には40×38cmのピットが掘り込まれており、検出面よりの深さは15cmとなる。煙道部は検出されていない。

〔貯蔵穴状ピット〕　貯蔵穴と思われるものにはカマド右脇に位置する$P_4$がある。大きさは23×21cmで深さは17cmである。埋土は２層に分けられる。上層はにぶい黄褐色のシルト層で、混入物はみられない。下層は褐色の粘土質シルト層で灰・焼土・木炭をかなり混入する。

〔出土遺物〕　当住居跡の出土遺物には、土器・鉄製品・土錘とがある。土器は坏・高台付坏甕の各器種がある。カマドの周囲より集中して出土している。

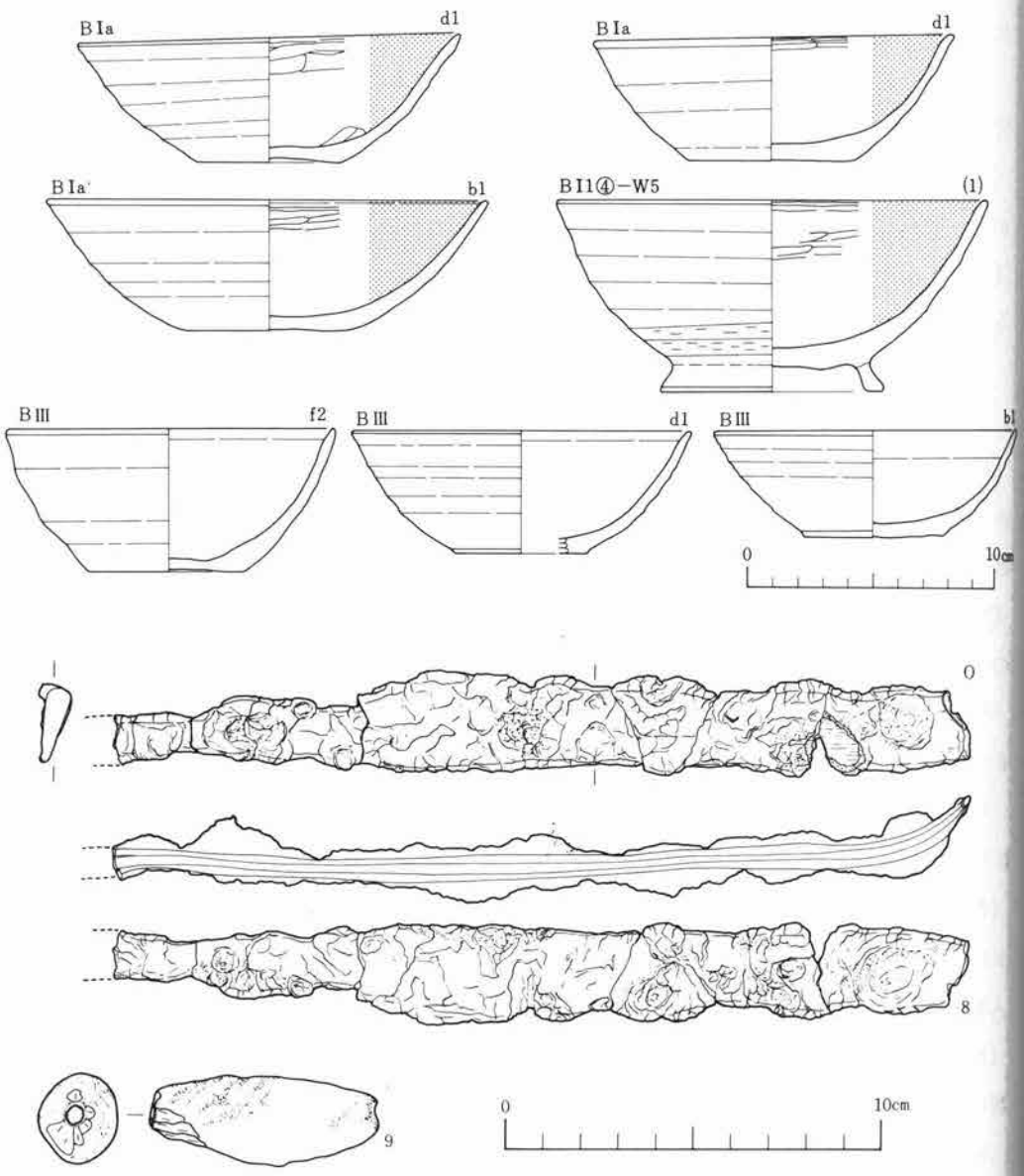
**坏形土器**（第81図）　坏には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成)、およびＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とがある。

〈坏ＢⅠ類〉（第81図１～３）　ＢⅠ類の坏はすべて回転糸切り無調整のもの（ＢⅠａ類）であ

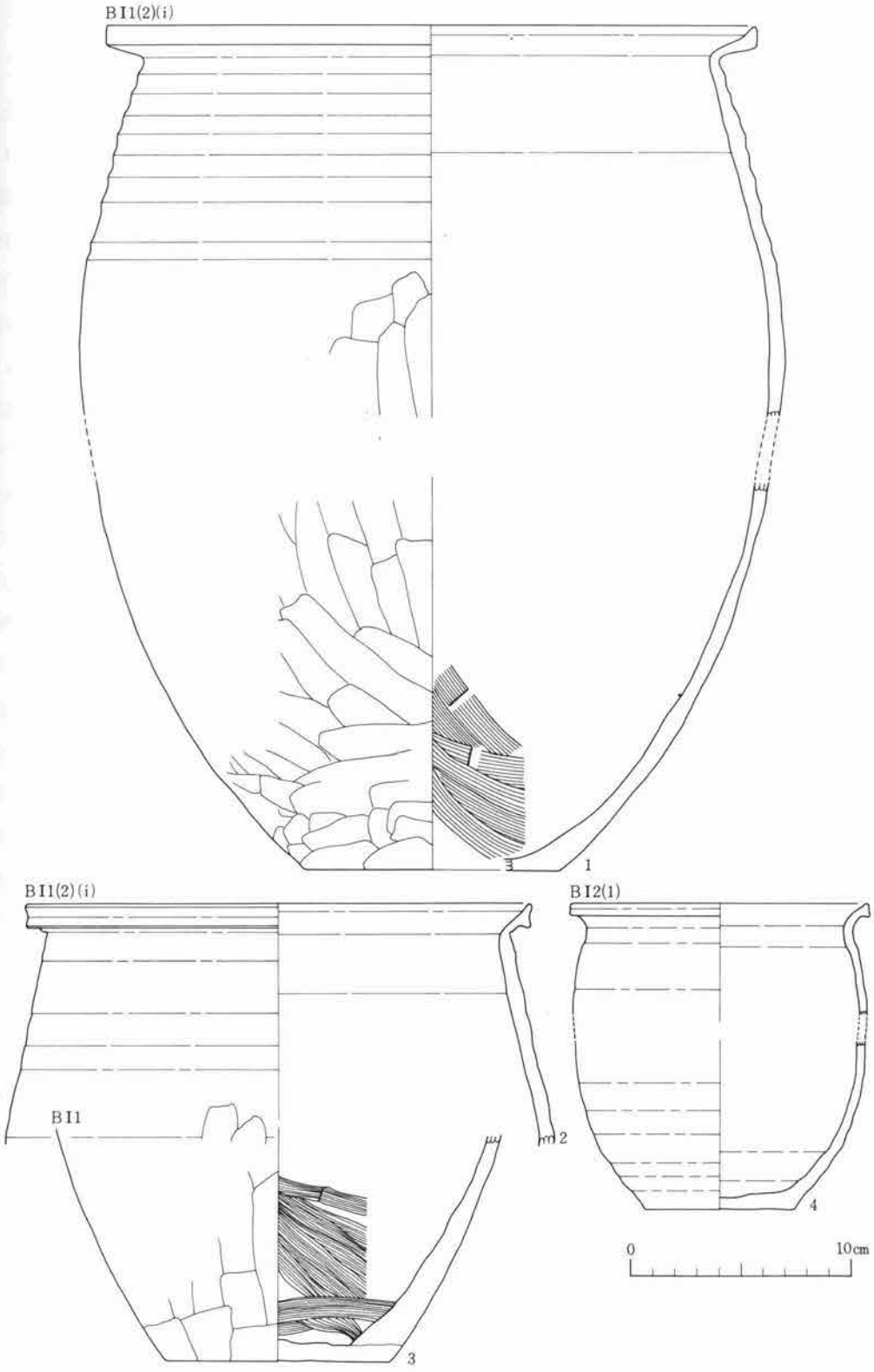
る。器高が普通で底径が小さく、体部がややふくらみをもって外傾するもの（１・２）と器高が低くて底径が小さく、体部がややふくらみをもって外傾するもの(３)とがある。

**〈坏ＢⅡ類〉** 図示不能の細片で少量出土している。回転糸切り無調整のものに限られる。

**〈坏ＢⅢ類〉** （第81図５～７） 回転糸切り無調整のものである。器高が高くて体部がやや丸味をもって外傾するもの(５)、器高が普通で体部がややふくらみをもって外傾するもの(６)、




第81図　第23号住居跡　出土遺物（１）




第82図　第23号住居跡　出土遺物（２）

器高が低くて体部がややふくらみをもって外傾するもの(７)とに細分される。

**高台付坏形土器**（第81図４）　ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すものが１点出土している。高台部は短く外傾し、底部は全面をロクロ調整したもの（ＢＩ１④類）である。坏部は、体部下端に回転ヘラケズリを施しており（底部は不明）、器高が高くて底径が大きく、体部がややふくらみをもって立ちあがるものである。

**甕形土器**（第82図）　甕には、ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すものとＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すものとがある。

**〈甕ＢＩ類〉**（第82図１～４）　ＢＩ類の甕は、口縁部に最大径をもつ大形のもの（ＢＩ１(1)類）と口縁部に最大径をもつ小形のもの（ＢＩ２(1)類）、および体部に最大径をもつ大形のもの（ＢＩ１(2)類）とに分けられる。ＢＩ１(1)類の甕は図示不能の細片である。

ＢＩ１(2)類の甕（１～３）は２点出土している。１は口縁部が短く強く外反し、口唇部は上方へ弱く挽き出すものである。体部は大きく脹み、中央付近に最大径をもつ。２は口縁部が短く外反し、口唇部は上下に挽き出すものである。頸部には鋭いくびれがみられ、体部の形態は１と共通する。なお、３は２の底部片と思われる。器面調整はともに、体部下半外面にヘラケズリ、体部下半内面にヘラナデが施されている。

ＢＩ２(1)類の甕(４)は口縁部が短く外反し、口唇部は下方へ弱く挽き出している。体部はゆるく脹み、中央付近に体部最大径をもつ。全面ロクロナデで整えている。

**〈甕ＢII類〉**　図化不能の小片で少量出土している。大形で体部が大きく張り出すものである。

**鉄製品**（第81図８）　刀子である。刃部と茎部の先端を欠く。現存長で23.1cmを測る大形のもので、刃部長は16.2cmで、刃部幅2.1cm、背幅0.6cmになる。茎部は刃部に比べてかなり細くなっており、1.1～1.6cmを測る。関は背側にのみ段を有する。

**土錘**（第81図９）　中央部で脹む管状のものである。長さ6.1cm、最大腹径2.4cmを計り、貫通孔の径は約0.4cmになる。オサエで整形するが、部分的にヘラミガキが施されている。

## 2　井戸跡とその出土遺物

### 第1号井戸跡

**〔遺構確認面〕**　遺構はIIa層の上面より確認されている。当地区ではIb層がほとんど検出されず、耕作土の下に部分的に認められるにすぎない。

**〔保存状況〕**　遺構は上面の一部が耕作による攪乱をうけているほかはほぼ原形をとどめており、保存状況は良好である。

**〔重複関係〕**　当井戸跡と重複する遺構は確認されていない。

**〔形状〕**　当井戸跡は2段掘りである。開口部の平面形はほぼ円形を呈し、深さ中央部の傾斜変換点付近では隅丸方形に近い形となる。底部の形状は開口部と同様に円形である。

断面形は、開口部より約60°の角度で井戸枠上部付近に至り、一端やや外側にくびれて狭い平坦面を作っている。そこからは約50°の角度で底部へと移行する。

**〔規模〕**　開口部径455×509cm、中端軸長236×261cm、底部径126×137cmの規模をもち、深さ307cmを計る。

**〔堆積土〕**　遺構内堆積土は以下の10層に大別される。

第1層：黒褐色のシルト層である。3層に細分される。上層は粒～塊状の堆積状況を示し、あまりしまりが良くない。木炭粒・焼土粒をかなり含むほか、多量の小礫を包含する。中層は木炭の集積層で、木炭にはさまれて骨片が出土している。下層は上層とほぼ共通するが、堆積状態が比較的密で黄褐色土が塊状に含まれる。

第2層：暗褐色のシルト層である。第1層と同様に3層に細分される。上層は焼土粒・木炭粒を多く含む緻密な堆積層で、かなりかたい。中層は木炭片を多量に含む層で、骨片を包含する。下層はにぶい黄褐色土を多量に混合する層である。

第3層：にぶい黄褐色のシルト層である。第1層、第2層に比べてやや粘性が強い。木炭粒・焼土粒を含む。

第4層：褐色の粘土質シルト層である。粘性は下方に向うほど強くなる。土の構造はかなり粗で、黄褐色土を大小の塊状に含む。木炭粒・焼土粒の混入はほとんどみられない。

第5層：褐色の粘土質シルト層である。塊状の堆積状況を示しかなりかたくなっている。

第6層：黄灰色のシルト質粘土層である。細砂を小量含み緻密な堆積状況を示す。上面には炭化物の粒子がシマ状に入り込む。

第7層：暗青灰色の粘土層である。木片・焼土粒・木炭粒・礫を包含する。上部には砂分の強い暗灰黄色土層が入る。

第８層：青灰色の粘土層であるが、第７層より粘性が強い。下方に向うほど粘性が強く、色調も灰色味が強くなる。地下の井戸枠の高さとほぼ一致しており、多量の木片を包含する。そのほかに井戸枠内からは、各種植物遺体・骨・土器片・木炭片・焼土粒などが検出されている。第７層と同様に上部には薄い暗灰黄色土層が入る。

第９層：青黒色の泥の層である。遺物は全く含まない。

第10層：褐色の砂層である。砂はやや粗いもので、緻密な堆積状況を示す。

以上の堆積土を要約すると以下のようになる。まず、第１層より第５層まではレンズ状の規則的な堆積状況を示しており、自然的な営力による堆積層として包括される。第６層より第８層までは上面が凸レンズ状に盛りあがっている。これは、水と土圧による変成作用をうけたものと思われ、基本的には上部の層と同様の堆積をしたものと推定される。第９層は井戸として使用する過程で形成されたもので、第10層は人為的に敷いたものとして認定される。

**〔井戸枠〕**　井戸枠は、側板を横にして方形に組みこんでおり、いわゆる井籠（セイロ）組のものである。横板は５段に組まれている。上部の４段は横板の端部上下面に深い切り込みを造って組み合わせ、最下部は入隅に組まれている。上部の３段は１段目と３段目の板でそれぞれの幅を調節し、３段目で高さがほぼ水平になるようにしてつくられる。４段目の板は井戸の掘り方の傾斜に合わせて下方の角を丸めてある。

井戸の横板の長さは上３枚が約147～156cm、４枚目が125～132cm、５枚目が70～83cmとなり、幅は上３枚が広いもので約25cm、狭いもので15cmとなる。４枚目の幅は約25cm、５枚目が25～30cmを計る。厚さは上４枚が約５cm、５枚目が約２cmである。

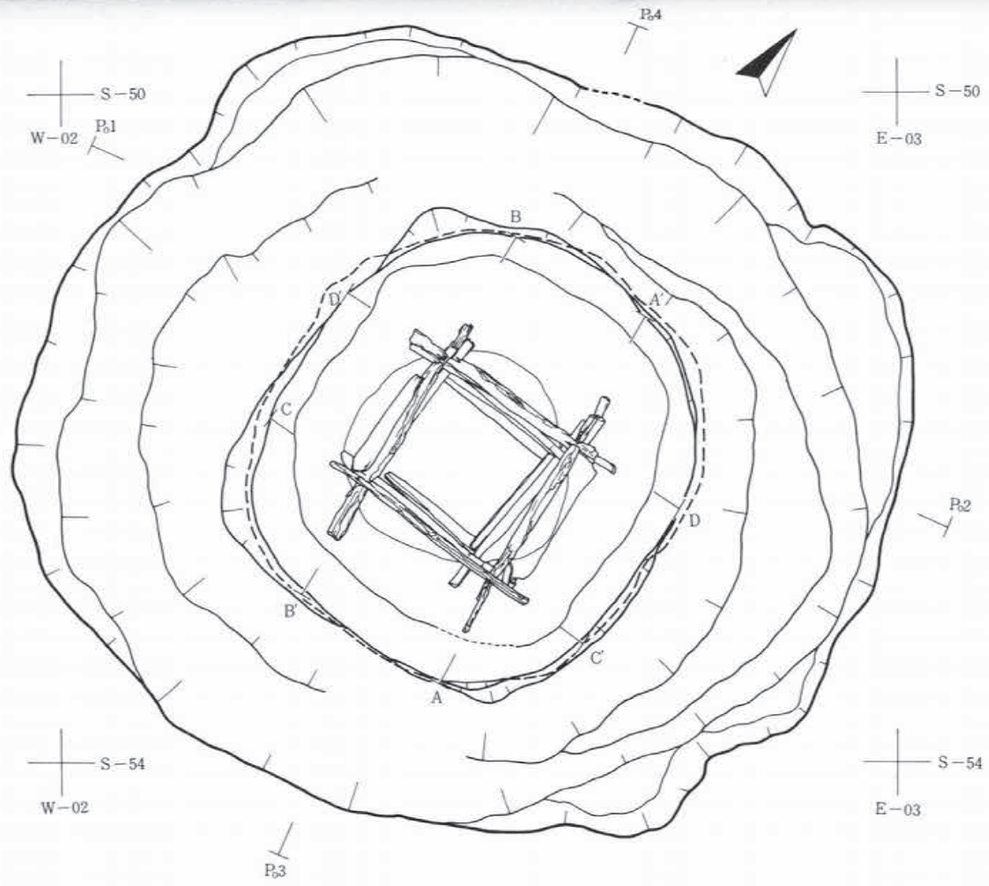
方形に組まれた内側の規模は上部が約90cm、４段目以降が約75cmとなり、井筒全体の高さは約100cmを計る。

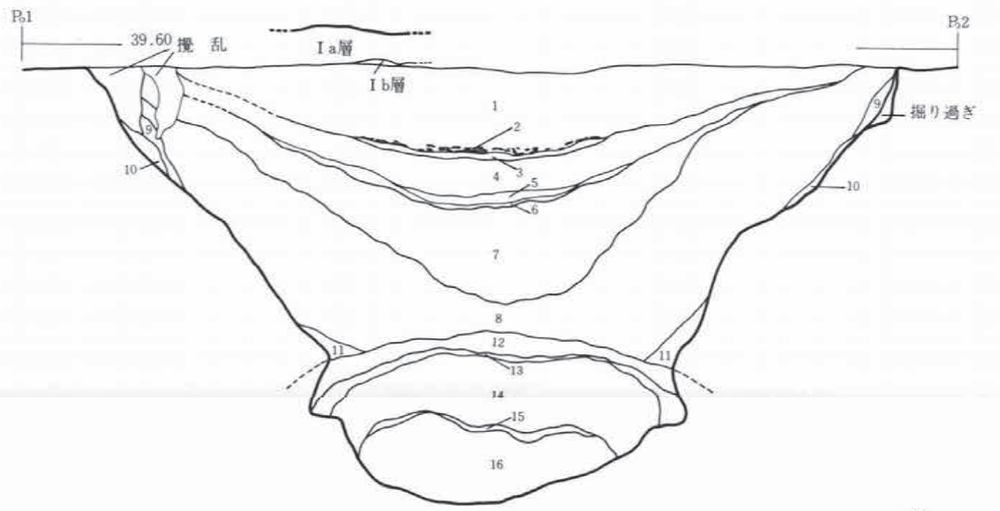
最下部の横板は、井戸掘形底部の砂礫層に薄く砂を敷きつめ、それの直上、ないしはやや下部に埋めて設置されている。さらに、底部より約40cmほど上部までは井戸枠の外側に礫を埋め戻して固定している。

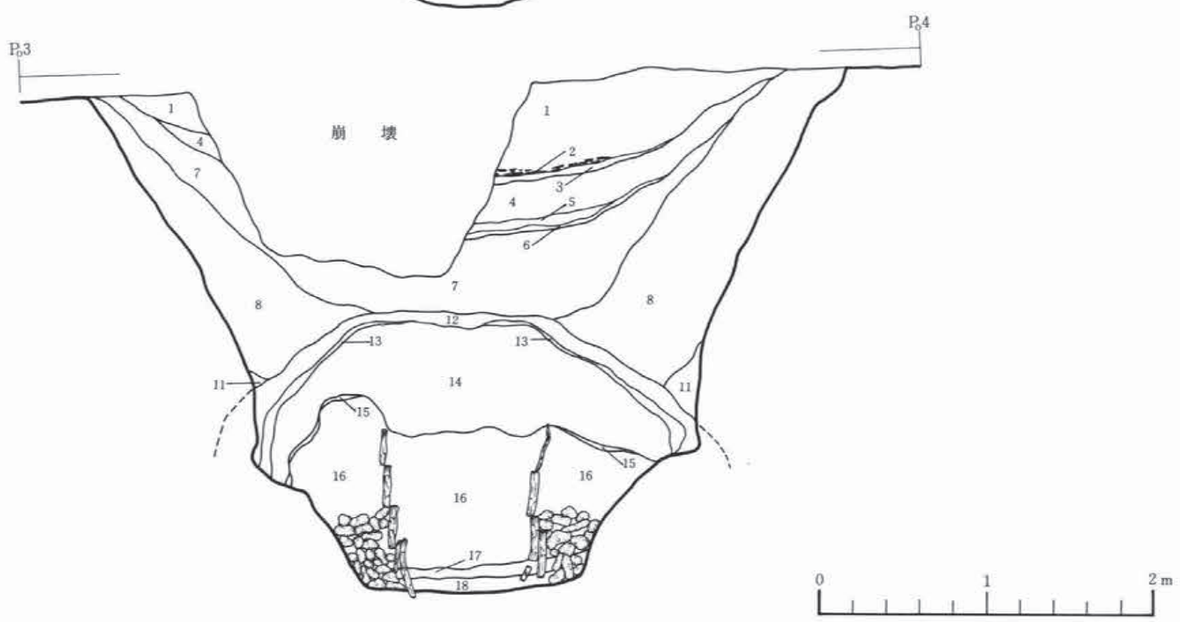
**〔出土遺物〕**　当井戸の出土遺物には、土器・鉄製品・勾玉・土錘などのほか各種植物遺体がある。土器は坏・高台付坏・甕・壺・鉢の器種に分けられる。遺物の出土量は少なく、とくに土器はすべて小片であり、原形の$\frac{1}{2}$以上残存するものは１点も出土していない。層位的には上層より出土するものが多く、中層は相対的に僅少である。当井戸の廃止時期にかかわる最下層の遺物は、図化不能のものが若干出土している。

**坏形土器**（第93図）　坏には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）、およびＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とがある。

**〈坏ＢⅠ類〉**（第93図１～10）　ＢⅠ類の坏には回転糸切り無調整のもの（ＢⅠａ類）、回転糸

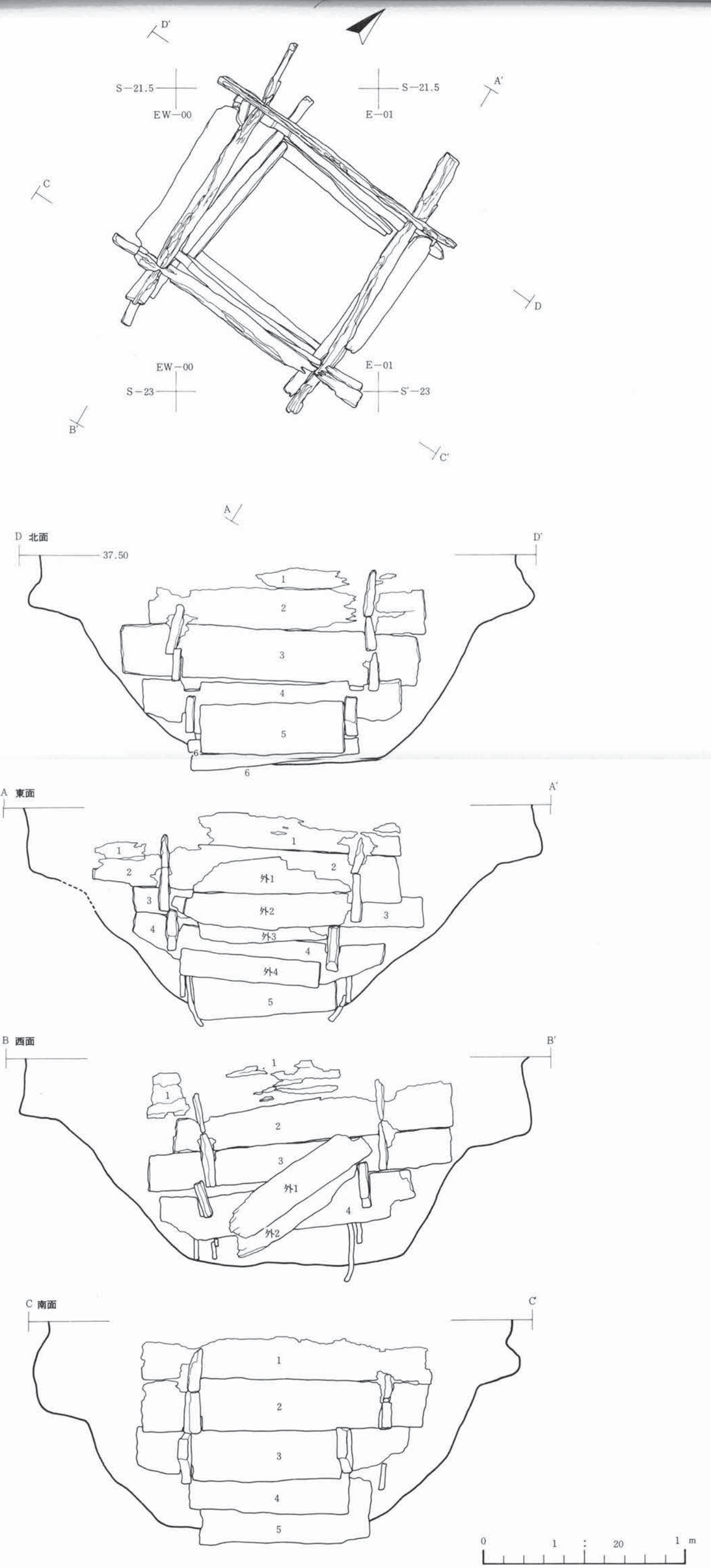


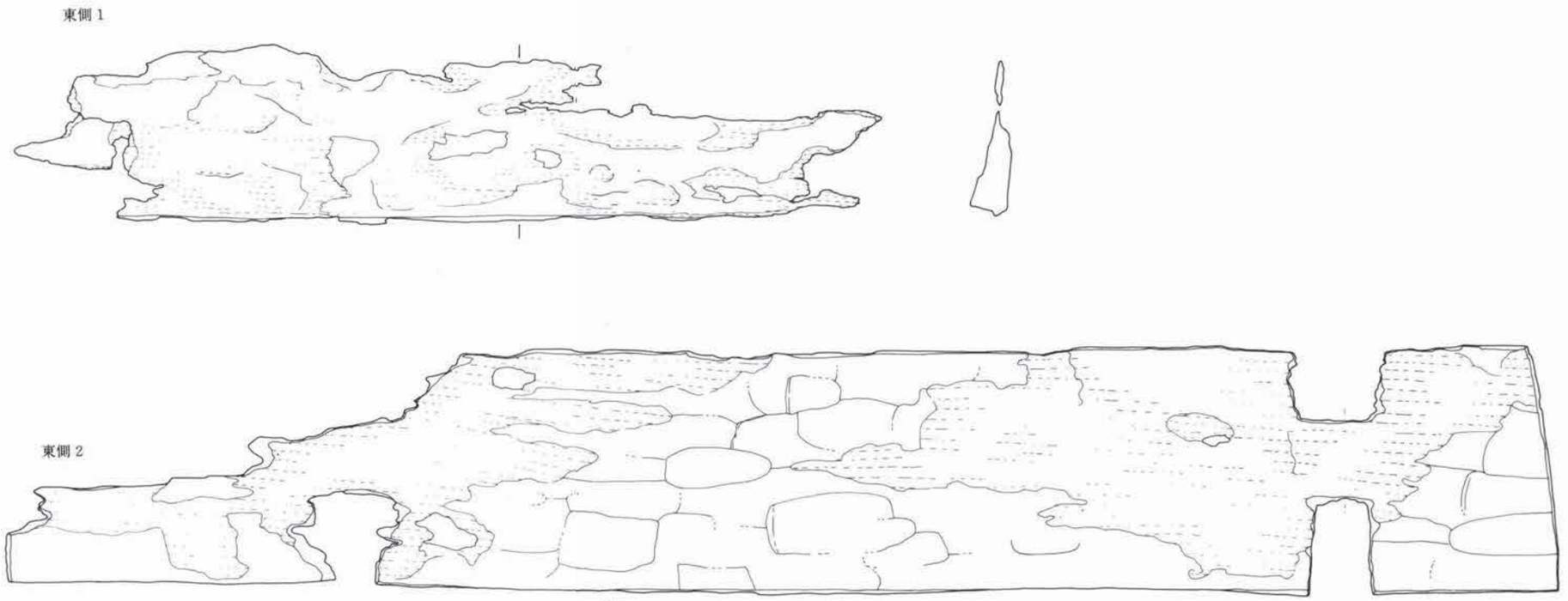




| | 層No. | 土色 | 土性 | その他 | | 層No. | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第 1 層 | 1 | 黒褐色(7.5Y R2/2) | シルト | 小礫・木炭粒・焼土粒を含む | | 10 | 灰黄褐色(10Y R4/2) | シルト | |
| 〃 | 2 | 黒色(7.5Y R2/1) | 粘土質シルト | 木炭の集積層骨片を含む | 第 5 層 | 11 | 褐色(10Y R4/6) | 粘土質シルト | 塊状堆積 |
| 〃 | 3 | 黒褐色(7.5Y R3/2) | シルト | 地山土が塊状に入る | 第 6 層 | 12 | 黄灰色(2.5Y 5/1) | シルト質粘土 | 上面に薄い木炭粒の層が入る |
| 第 2 層 | 4 | 暗褐色(7.5Y R3/3) | 〃 | 木炭粒・焼土粒を含む | 第 7 層 | 13 | 暗灰黄色(2.5Y 4/2) | シルト質粘土 | 細砂を含む |
| 〃 | 5 | 黒褐色(7.5Y R3/1) | 粘土質シルト | 木炭を多量に含む、骨片あり | 〃 | 14 | 青灰色(10B G5/1) | 粘土 | 木片・種子・木炭等を含む |
| 〃 | 6 | 暗褐色(7.5Y R3/4) | シルト | 地山土が塊状に入る | 第 8 層 | 15 | 暗灰黄色(2.5Y 4/2) | シルト質粘土 | 細砂を含む |
| 第 3 層 | 7 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | 木炭粒・焼土粒を含む | 〃 | 16 | 暗青灰色(10B G4/1) | 粘土 | 種子・木片などを多量に含む |
| 第 4 層 | 8 | 褐色(10Y R4/4) | 粘土質シルト | 地山塊を多量に含む | 第 9 層 | 17 | 青黒色(10B G2/1) | | 泥 |
| | 9 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | | 第 10 層 | 18 | 褐色(10Y R4/4) | 砂 | |

第83図　第Ⅰ号井戸跡（Ⅰ）

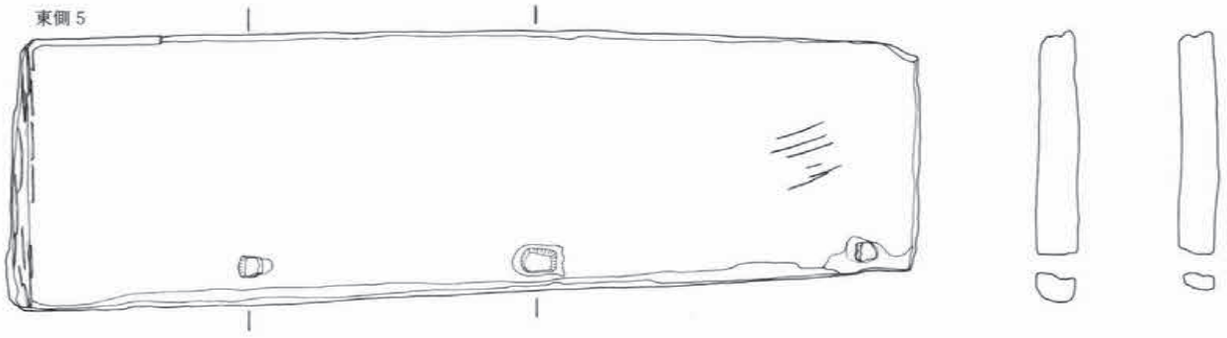



第84図　第１号井戸跡（２）

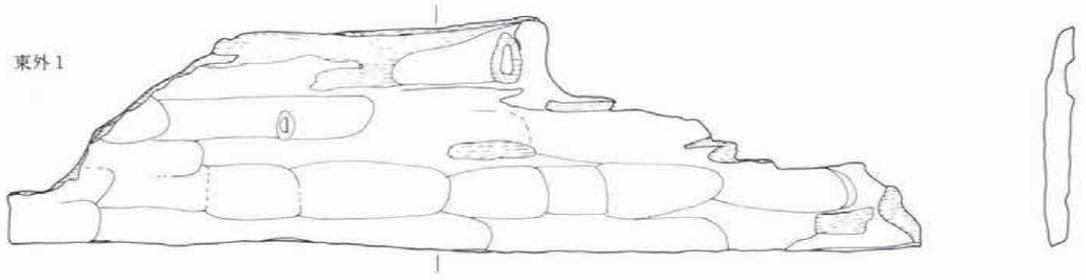



第85図　井戸枠実測図（１）

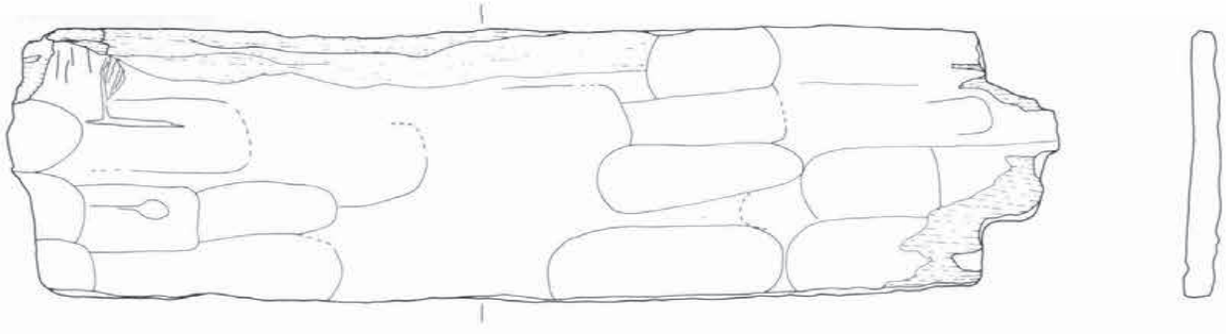
東側5



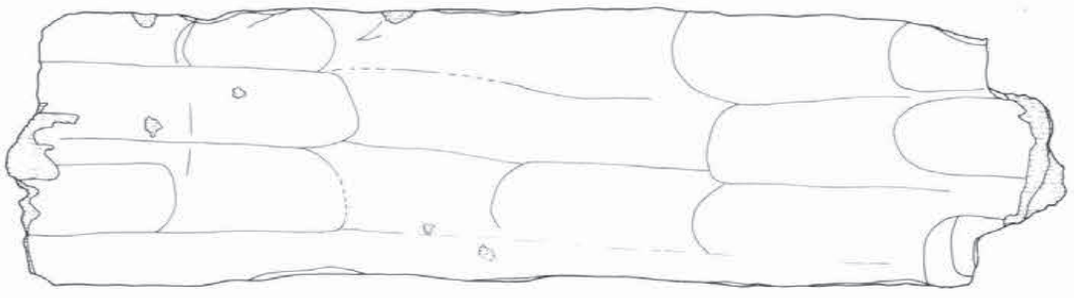
東外1



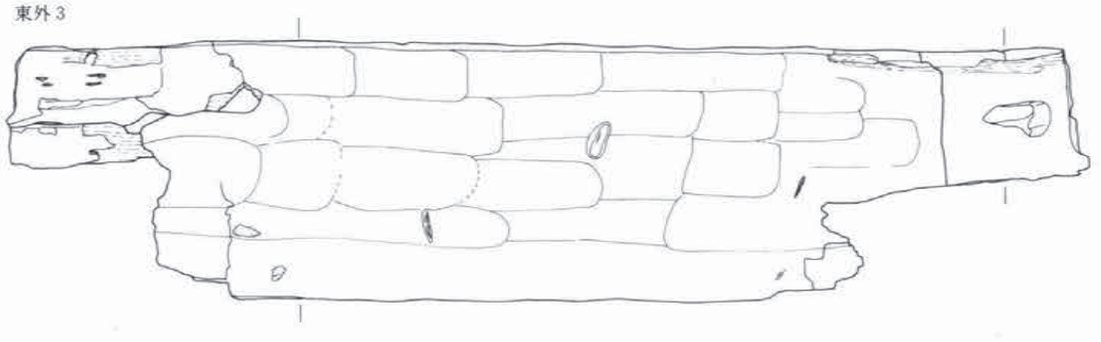
東外2表



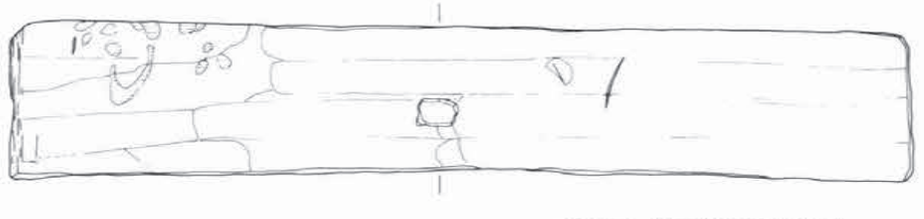
東外2裏



東外3

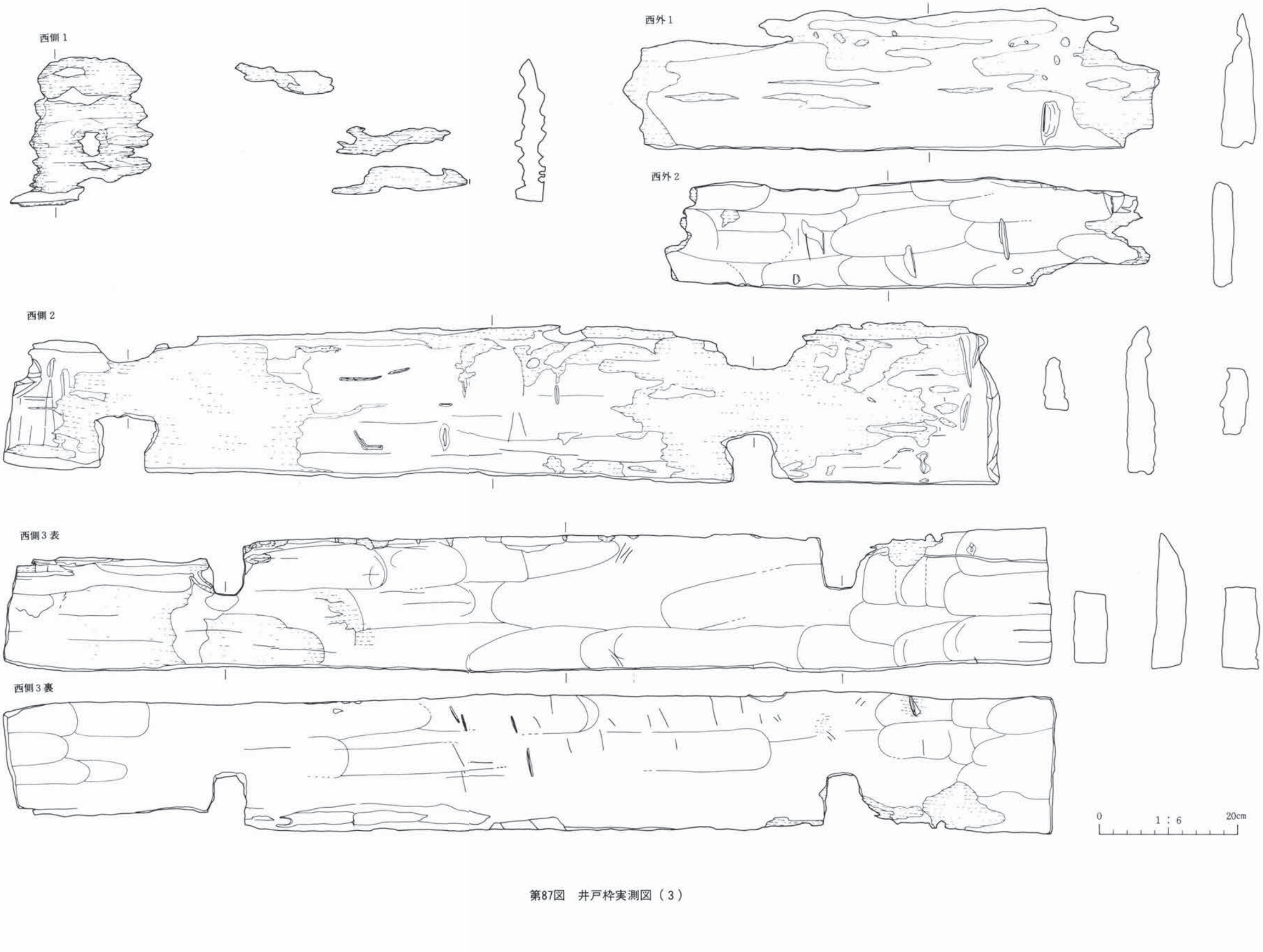


東外4



0　1：6　20cm

第86図　井戸枠実測図（2）

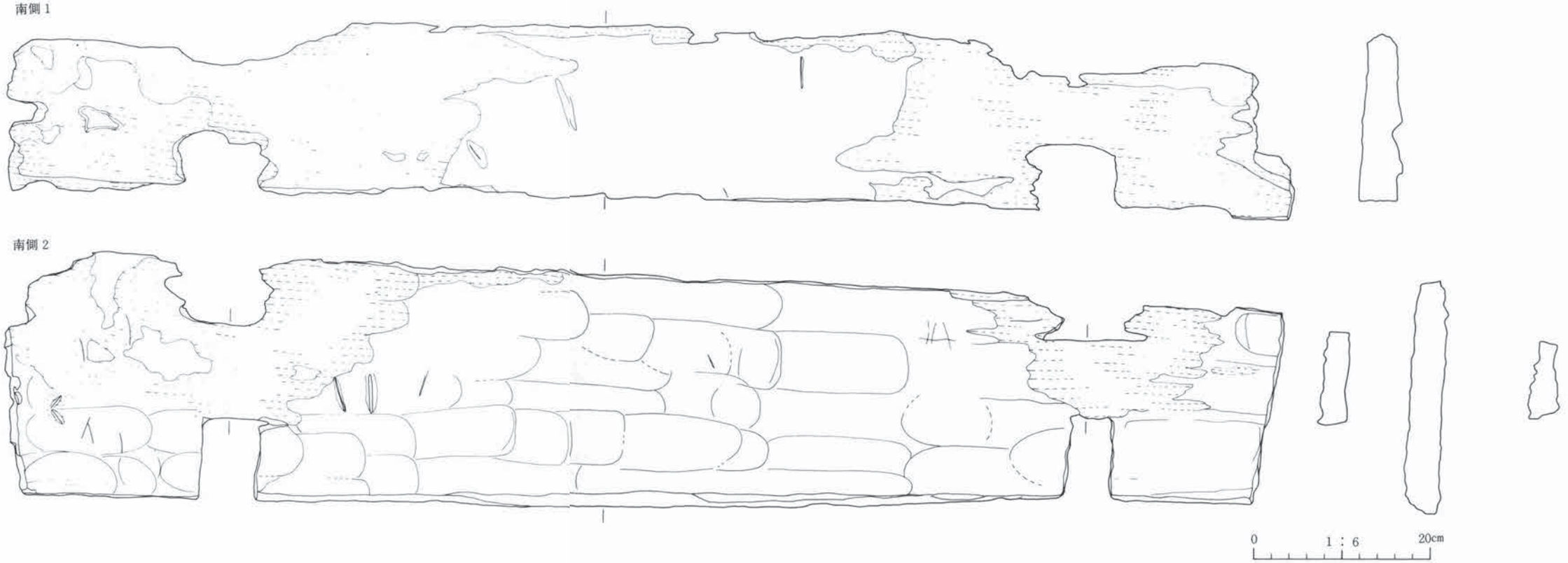



第87図　井戸枠実測図（３）

西側 4

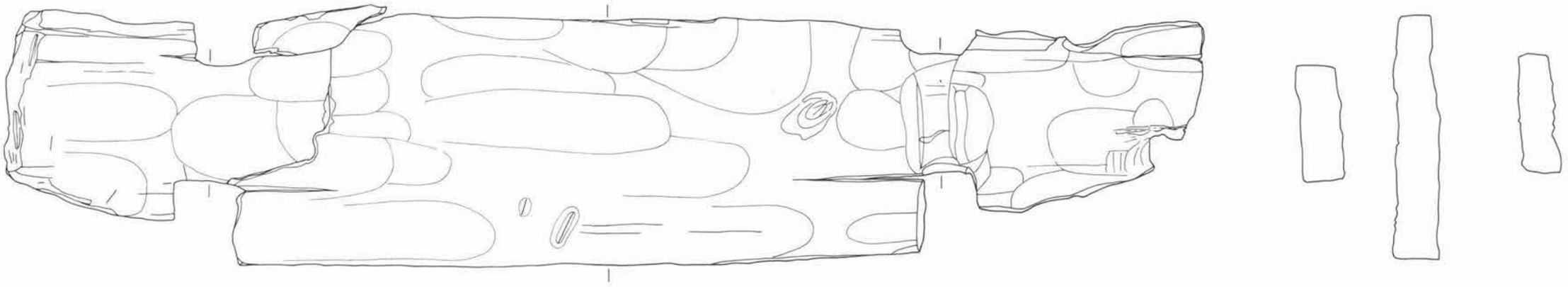
南側 1

南側 2

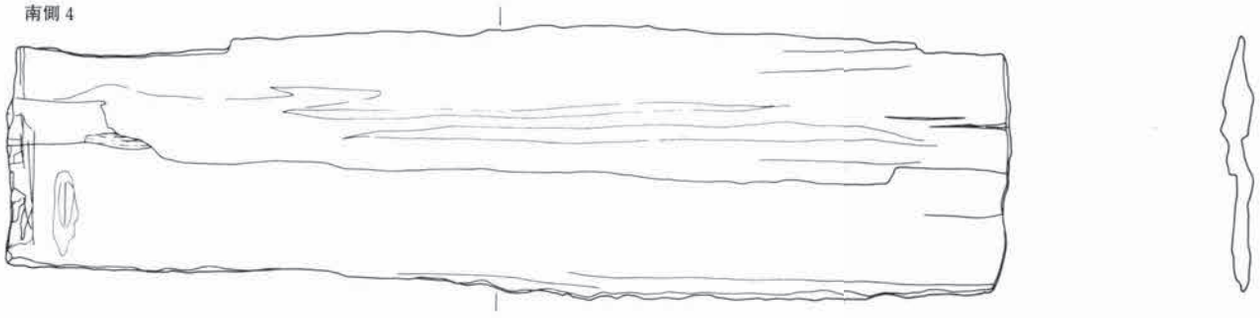



第88図　井戸枠実測図（4）

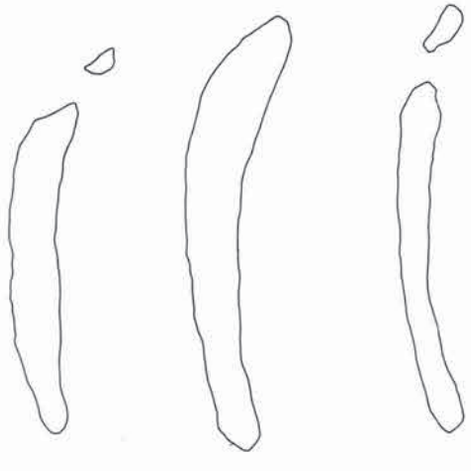
南側 3



南側 4



南側 5



0 1：6 20cm

第89図　井戸枠実測図（５）

北側 1

北側 2

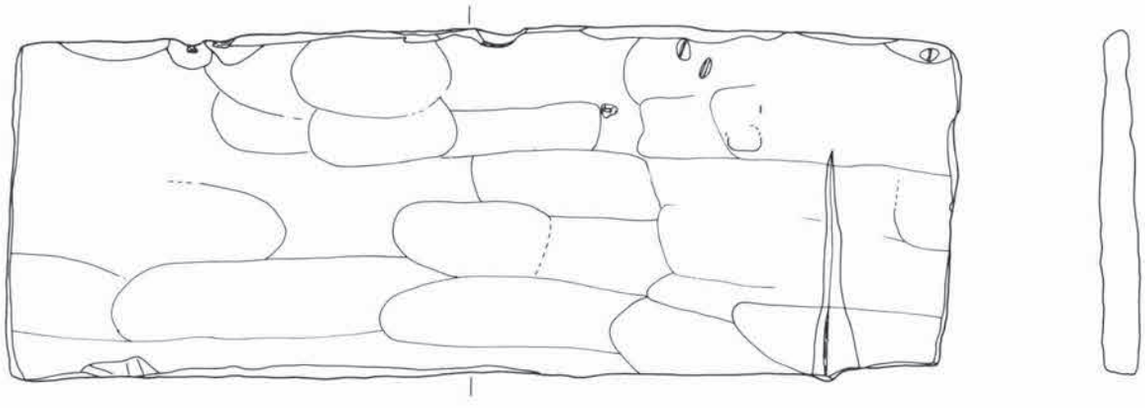
北側 3

北側 4

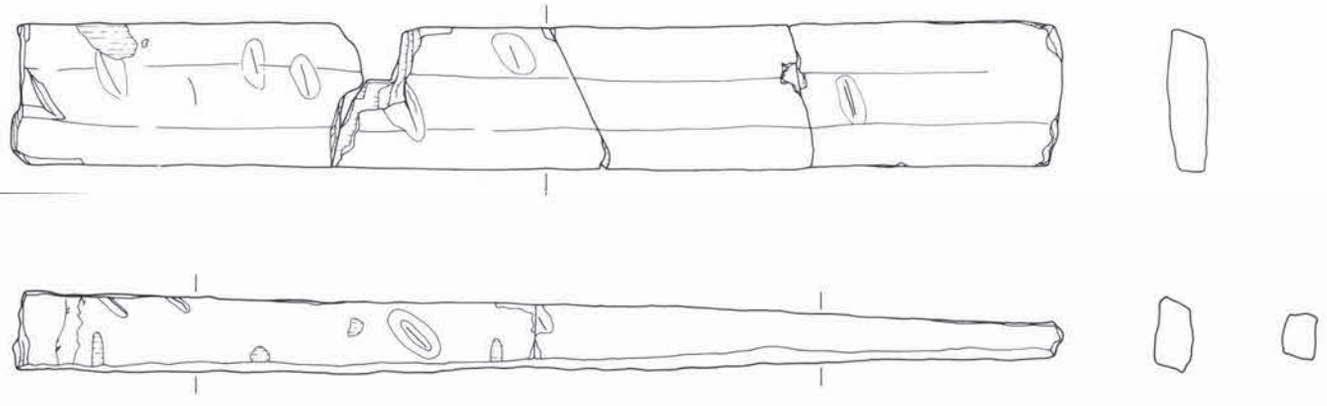
0　1：6　20cm

第90図　井戸枠実測図（6）

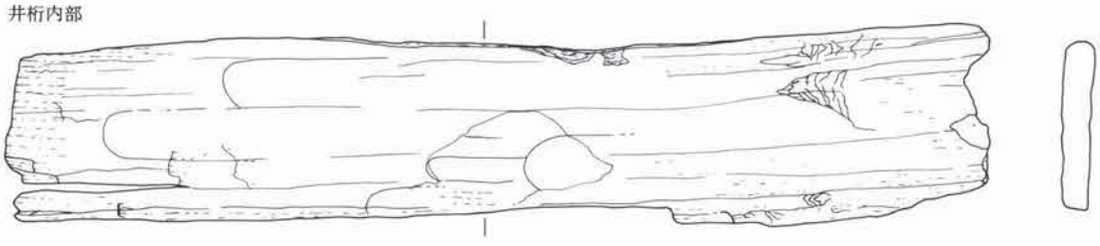
北側 5



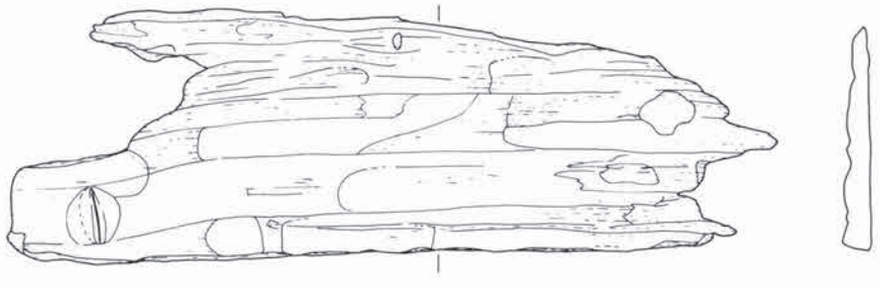
北側 6



井桁内部



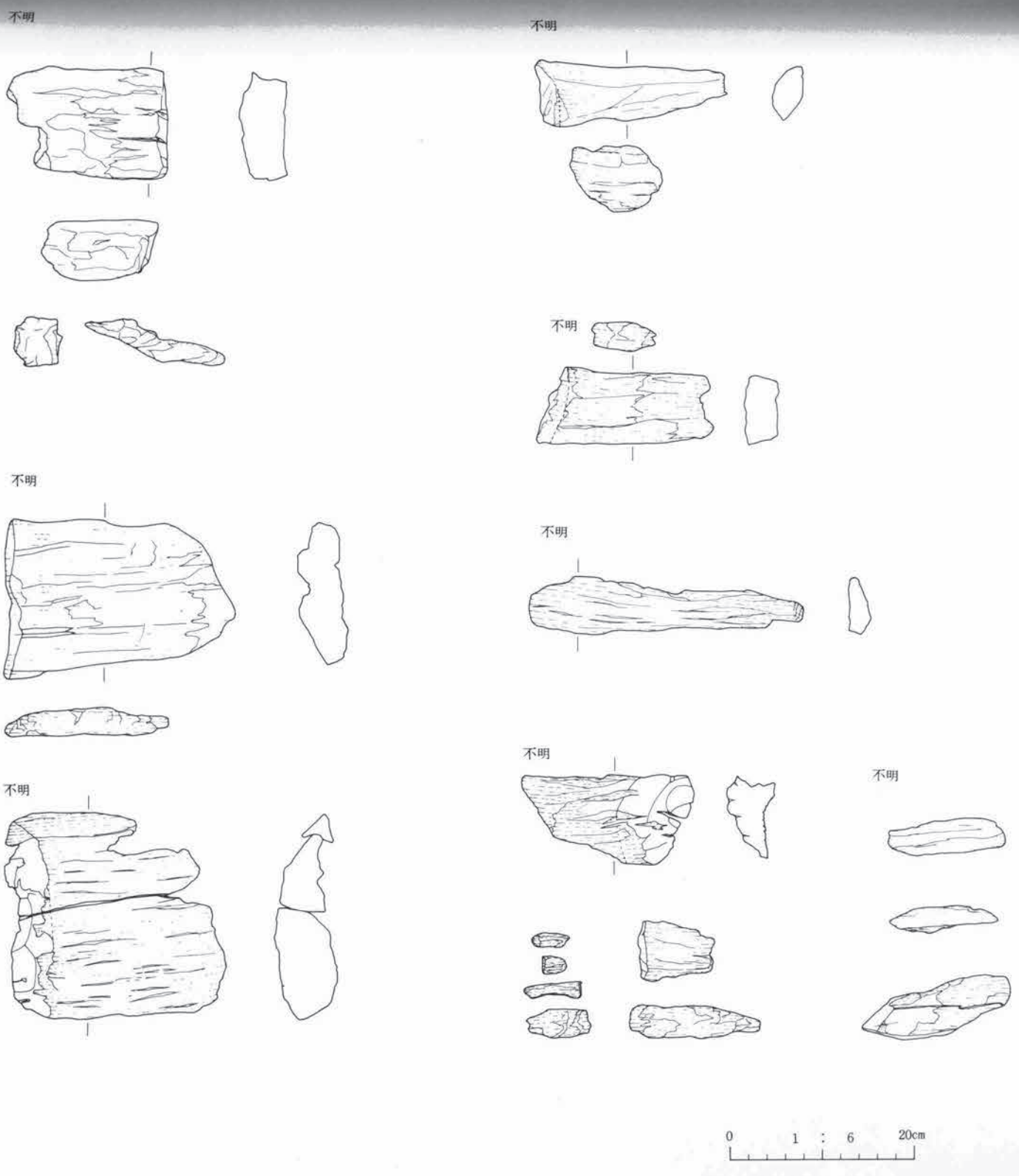
井桁内部



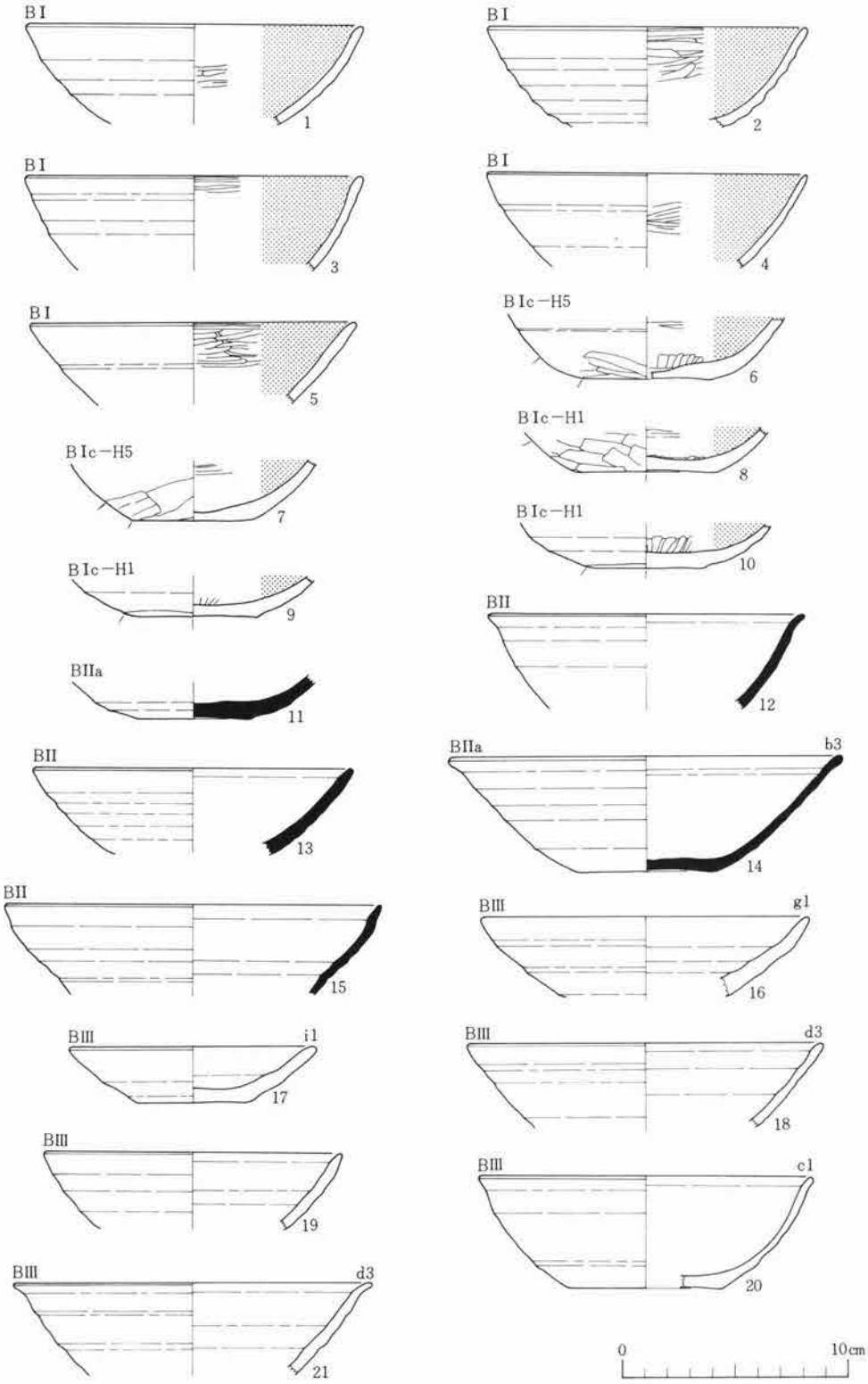
井桁内部

0　1：6　20cm

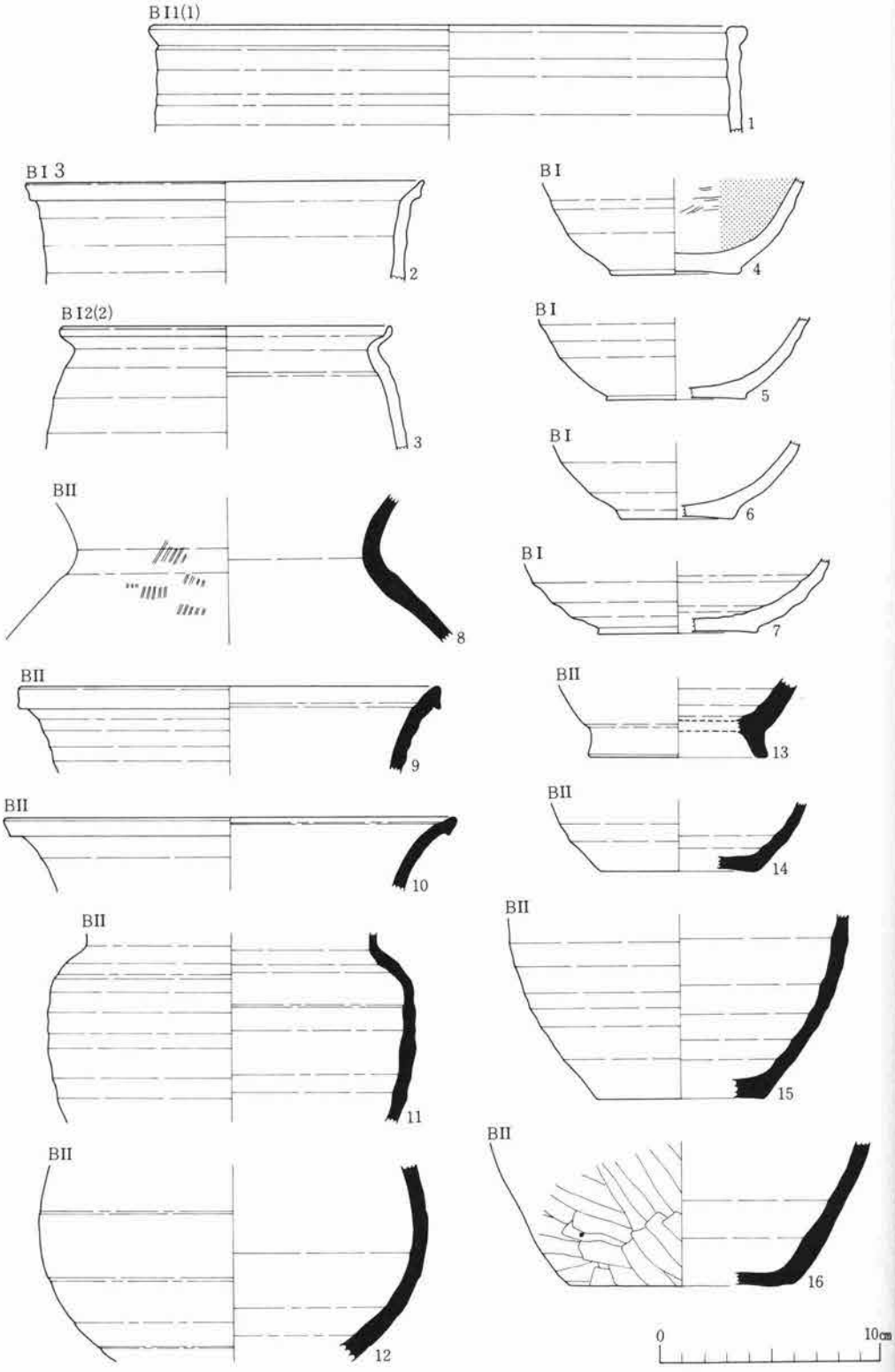
第91図　井戸枠実測図（7）



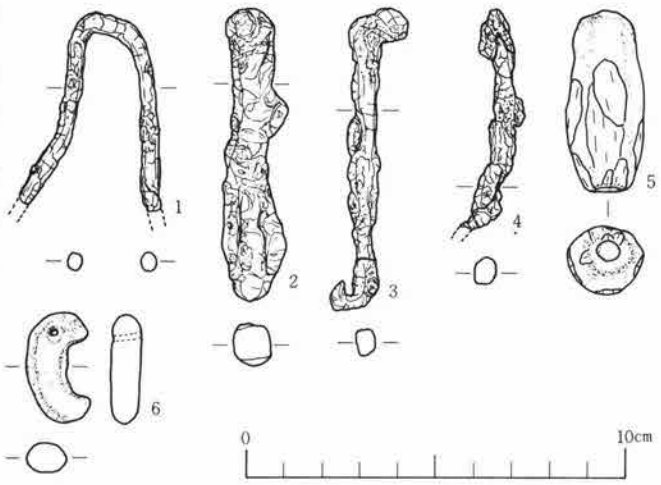

第92図　井戸枠実測図（８）




第93図　第Ⅰ号井戸出土遺物（Ⅰ）




第94図　第1号井戸出土遺物（2）




第95図　第Ⅰ号井戸出土遺物（３）

切りで切り離した後、再調整を施すもの（ＢＩc類）、再調整のため底部の切り離し手法が不明のもの（ＢＩe類）などがある。

ＢＩa類の坏は中～上層より出土している。細片のため全体の器形は不明である。

ＢＩc類の坏（６～９）とＢＩe類の坏(10)は、井枠内、ないしは下層より出土し、中～上層よりは出土しない。すべて手持ちヘラケズリによる再調整で、体部下端にのみ施すもの（$H_5$手法）（６・７）と体部下端より底部全面に施すもの（$H_1$手法）（８～10）とに分けられる。

**〈坏ＢⅡ類〉**（第93図11～14）　回転糸切り無調整のもの（ＢⅡa類）と回転ヘラ切り無調整のもの（ＢⅡb類）とがある。

ＢⅡb類の坏は２片あり、いずれも図示不能の細片である。井桁の外周を埋める礫の内部より出土している。ＢⅡa類の坏（11～14）は、小片のため全体の器形を知りえるものは1点のみ(14)である。器高が普通で底径が小さく、体部は大きく開いて直線的に外傾する。

**〈坏ＢⅢ類〉**（第93図16～21）　器形の特徴によりいくつかに分けられる。器高が極端に低く体部が大きく開いて外傾するもの(17)は最上部より出土する。器高が普通で底径が小さく、体部が直線的に外傾するもの（18・21）は中層より出土し、器高が普通で底径が大きく、体部がややふくらみをもって立ちあがるもの(20)は下層より出土している。

**高台付坏形土器**　高台付坏には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）に属するものとＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものとがある。

**〈高台付坏ＢⅠ類〉**　図示不能の細片で少量出土している。高台部が短く外傾し、底部周縁をロクロ調整するもの（ＢⅠ１③類）と高台部が長く外傾し、底部に菊花状のヘラ刻みを施して周縁をロクロ調整するもの（ＢⅠ２①類）とがある。どちらも坏部の形態は不明である。

**〈高台付坏ＢⅢ類〉**　高台部が長く外傾し、底部にナデを施して周縁をロクロ調整するもの（ＢⅢ２②類）が上層より１点出土している。

**甕形土器**（第94図）　甕には、ＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものとＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すものとがある。いずれも小片であり、図示可能のものは少い。

**〈甕ＢＩ類〉**（第94図１・３）　ＢＩ類の甕は、器形の大小・最大径の位置・口縁部や体部の形態等によっていくつかに細分される。その大部分が図化不能の細片である。

１は口縁部に最大径をもつ大形のもの（ＢＩ１(1)類）で、頸部のくびれはほとんどみられず、口縁部は極端に短く直立する。最上層より出土している。３は体部に最大径をもつ小形の甕(ＢＩ２(2)類）で、口縁部は短く強く外反し、口唇部は強く上方へ挽き出している。体部は大きく脹むもので、中央付近に最大径をもつ。全面ロクロナデで整えている。

**〈甕ＢII類〉**（第94図８～11、14～16）　ＢII類の甕には全体の器形を知りえるものはなく、他の器種も含まれている可能性が強い。８・11は頸部より体部にかけての破片で、８の外面には平行タタキ目痕が認められる。９・10は口縁部片でいずれも口唇部は下方へ挽き出している。14～16は体部下半から底部にかけての破片で、16は外面にヘラケズリを施している。

**壺形土器**（第94図12・13）　ＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すものに限られる。12は長頸壺の体部片と推定されるもので、かなり湾曲の強い体部をもつ。13は高台の付く底部片で、上部の形態は全く不明である。

**鉢形土器**（第94図２・４）　鉢はＢＩ類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すものに限られる。２は口縁部が極端に短くゆるやかに外反し、口唇部は上方外側へ挽き出している。体部はほとんど脹まず直線的に底部へと移行する。上端付近に体部最大径をもつ。４は下層より出土したもので、底部の小片である。内面にはヘラミガキを施し、黒色処理を加えている。

そのほか、ＢＩ類に属す底部片（５～７）が出土している。器種は不明であるが、５・６は鉢となる可能性が強い。

**鉄製品**（第95図１～４）　１はU字形を呈する細長い棒状のもので、屈曲部は丸味をもつ。両方の先端を欠くが現存長で10.6cmを計る。幅は下方に向かって広くなる。性格は不明である。２は比較的太い角棒である。正方形に近い断面をもち、先端がややうすくなっていることから平のみとも推定される。幅約1.9cm、厚さ約1.7cm、長さ15.4cmを計る。３・４は細長い角棒であり、角釘と思われる。３は先端と頭部がそれぞれ屈曲して変形しているが完形品である。復元推定で長さは約８cmになる。４は両端を欠き、現存長で5.9cmを計る。

**土錘**（第95図５）　中央部がやや脹む不整円柱形のもので、長軸方向に沿って径約0.5cmの貫通孔が入る。長さ4.9cm、最大腹径2.1cmを計る。

**勾玉**（第95図６）　長さが約5.9cmのなだらかなＣ字形を呈し、頭部に0.2cmの孔が穿たれている。石質はフリントである。

**第2号井戸跡**

**〔遺構確認面〕** 耕作土を除去して検出されるIIa層の上面より遺構の存在を確認した。なお、部分的ながらもIb層が薄い層として検出される個所もある。

**〔保存状況〕** 遺構相互の重複による削損以外に破壊を受けている個所もなく、保存状況は比較的良好である。

**〔重複関係〕** 第4号溝と重複関係にある。第4号溝は、当井戸跡の西壁、および東壁のやや南寄りを破壊してつくられる。第4号溝の方が新しい。

**〔形状〕** 当井戸跡は3段掘りである。開口部の平面形は隅丸の方形を呈する。この部分では検出面よりの深さ約25cmの平場（第一テラス）となっている。第1テラスからは直壁に近い形で円形に約60cm掘り下げており、ここでも平坦な面（第二テラス）をつくっている。第二テラスからの掘り込みも平面形は円形を呈し、ほぼ直壁で底部にたっする。底面は円形である。第一テラス・第二テラスとも下部には掘り方が検出されている。第2テラスは全周するが、第1テラスは西壁と東壁では部分的にしか認められない。

**〔規模〕** 隅丸方形の開口部は486×453cm、第一テラス上の円形掘り込みは359×350cmの規模をもち、第二テラス上の掘り込みは181×186cmを計る。底部径は約105cmである。検出面上よりの深土は約295cmとなる。

**〔堆積土〕** 井戸内堆積土は以下の8層に大別される。

第1層：黒褐色の粘土質シルト層である。3層に細分される。上層はきわめて緻密な土で、多量の土器を包含する。中層はやや砂分が強く色調が明るくなる。下層は粒状の比較的粗い堆積となり、木炭片・焼土粒・骨片を含む。

第2層：灰褐色の粘土質シルト層である。2層に細分される。上層は白色粘土・黄褐色土を魂状にかなり含む層で、粒～魂状の粗い堆積状況を示す。多量の土器を包含する。下層は上層に比べて色調が明るく、粘性がやや強くなる。遺物もほとんど含まない。

第3層：褐灰色のシルト層である。2層に細分される。上層は粒～魂状の粗い堆積層で、多量の土器を含む。下層は壁際にのみ認められる層で、地山の黄褐色土の魂状堆積土である。

第4層：褐色のシルト質粘土層である。井筒を据える掘り方の側壁に沿って堆積する。魂状の黒色土・黄褐色土を含み、焼土粒・木炭粒・土器片・白色粘土魂が点在する。側壁が崩壊したものと推定される個所では地山の黄褐色土を多量に含む。

第5層：灰褐色の粘土層である。極めて粘性が強い。中央付近に細砂を含む褐色の層が入る。粘性は下方に向かうほど強くなる。井筒内の土と思われ、壁が崩壊した地点では押されて狭くなっている。上部の第3層と接する付近で多量の獣骨が発見されている。種子・木炭・植物遺体等が含まれる。

第６層：にぶい黄褐色の粘土質砂層である。上部には薄い木炭の層が認められる。

第７層：灰褐色の粘土層である。第５層に比べてやや色調が暗くなる。２層に細分され、上層はきめ細かな粘土で混入物はみられない。下層はやや粗い粘土で細砂・褐色土が塊状に混入する。木片・種子・木炭片などがかなり含まれる。

第８層：褐色の砂層である。やや粗い砂で、緻密に堆積している。

なお、２段になる平坦面にはそれぞれ掘り方が検出されており、地山土と黒褐色土との混合土が上面を固化して埋め戻されている。掘り方の底面は凸凹しており、絶対高も一定しない。

以上の堆積土は以下のように類別される。第１層より第３層まではレンズ状に堆積しており、自然的な営力による堆積層としての様相を明確に示している。第４層から第７層までは、水と土圧による変成作用をうけたものと思われ、第４層は井筒を固定するための人為的堆積層、第５～第７層は井筒内の自然堆積層と想定される。第８層は井筒を設置する以前に人為的に敷いたものである。

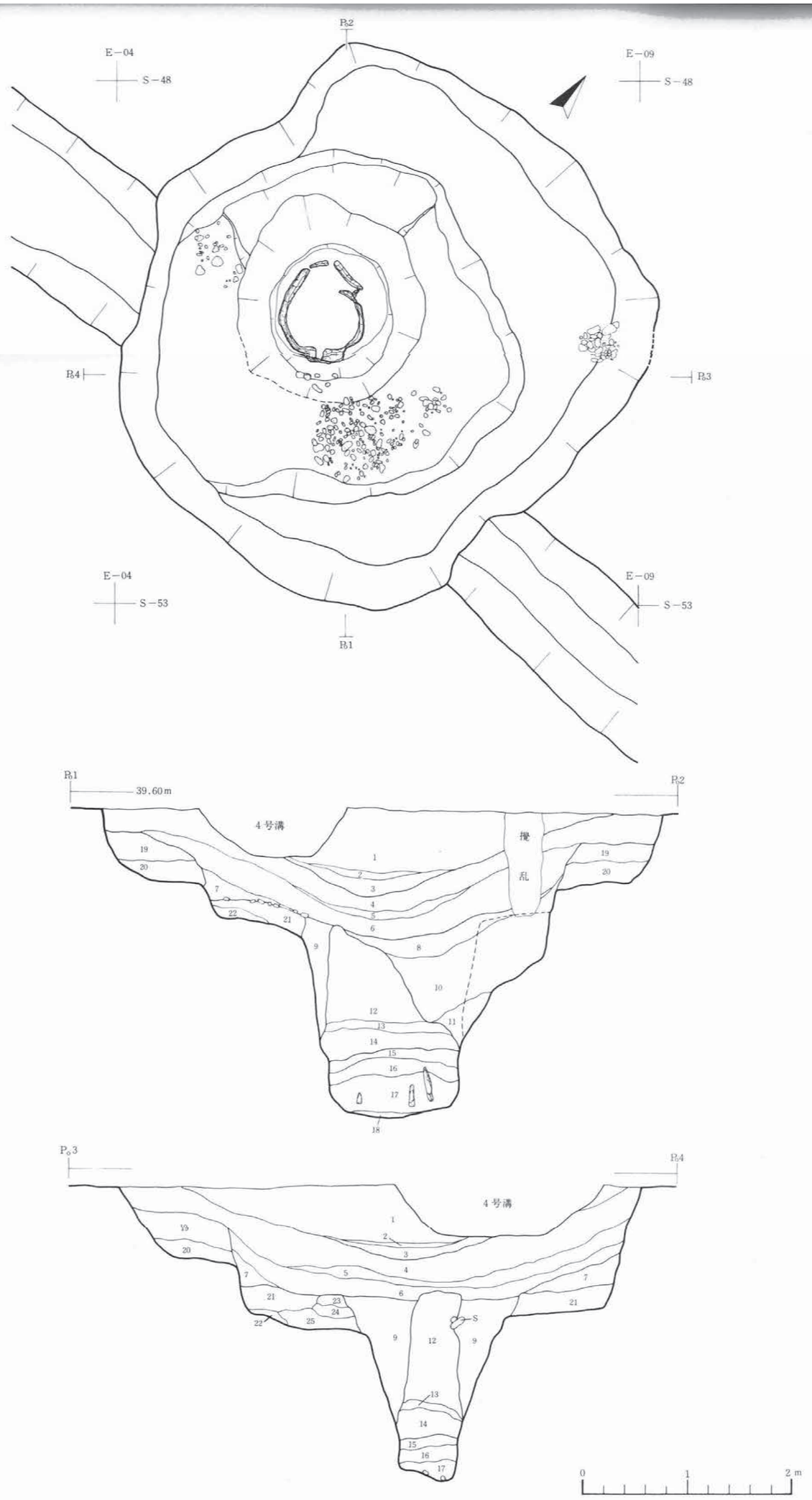
**〔井筒〕**　井筒は木幹の中心をくりぬいた刳抜式のものである。上部は腐食しており、現存するのは最下部の一部分に限られる。現存する部分も原形をとどめてはおらず完全な円形を呈してはいない。内径で約79×68cmとなり、最大高で33cmを計る。井筒の外面には所々に手斧の調整痕が認められる。

**〔付属施設〕**　第二テラス上（の一部）には円礫を人為的に敷きつめた個所がある。これの性格は、水を汲み上げるための足場として考えるのが最も蓋然性が高い。

**〔出土遺物〕**　当井戸跡の出土遺物には、土器・鉄製品・小形手捏土器・動物遺体・植物遺体などがある。土器は坏・高台付坏・甕・壺・盤の器種で構成される。遺物、なかでも土器は極めて量が多く、とくに上層に集中して出土する。土器の廃棄場所として転用されたものと推定される。最下層にロクロ未使用の土器類が小量出土するほか、中層まではほとんど遺物が出土しない。

**坏形土器**（第98図～101図）　坏には、A類（ロクロ未使用で酸化炎焼成）、BⅠ類（ロクロ使使用で酸化炎焼成＋黒色処理）、BⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）、BⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）の４種類がある。BⅠ類が圧倒的に多く、A類・BⅡ類・BⅢ類は僅少である。

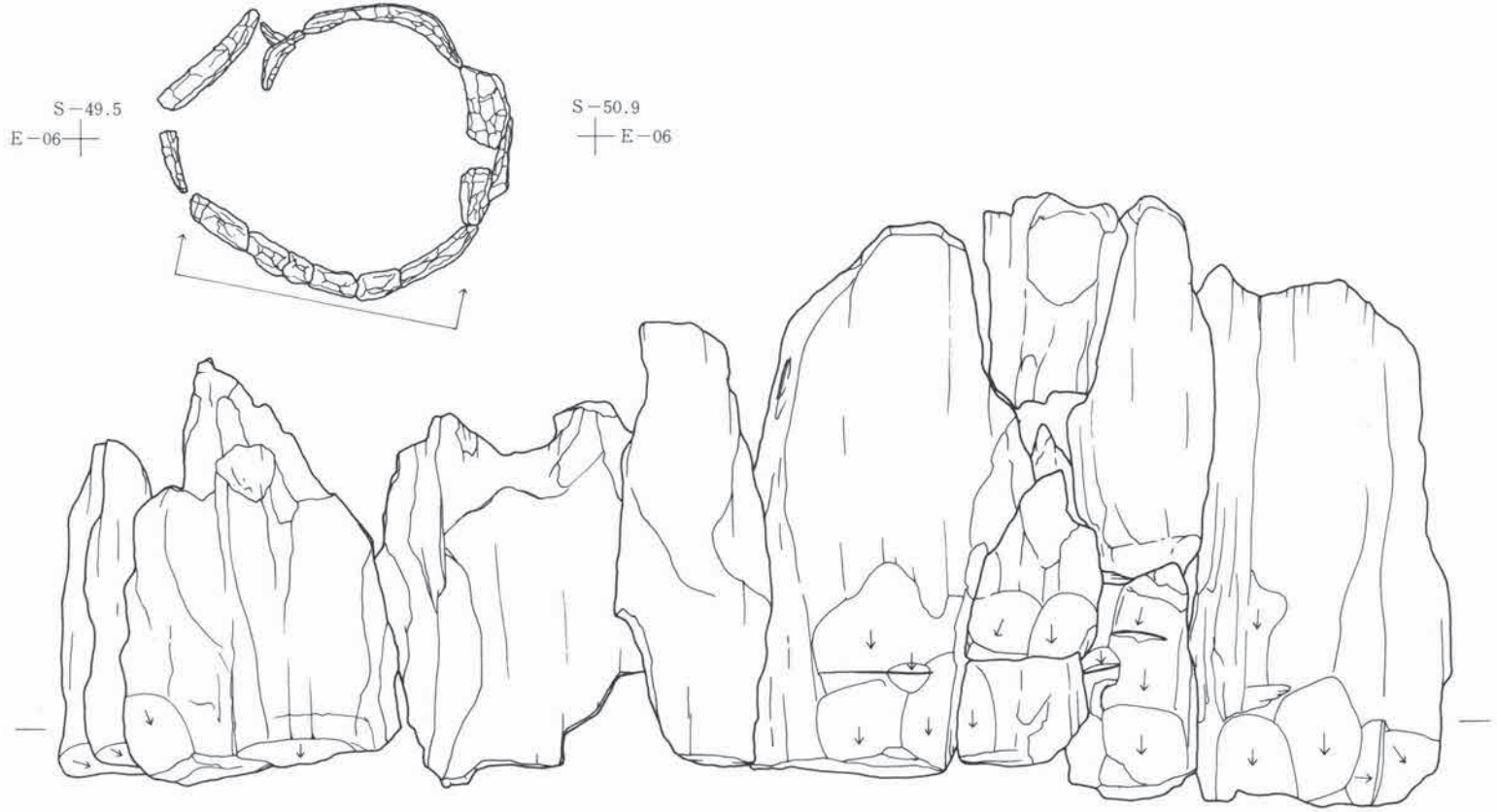
**〈坏A類〉**（第98図１～６）　A類の坏は、遺構構築時の掘り方埋土および堆積土の最下層より出土する。少片が多く図示可能のものは６点にすぎない。すべて平底（A２類）を呈するが、破片には丸底のものも認められる。器高が低くて底径が小さく、体部がややふくらみをもって外傾するもの(５)、器高が普通で底径が小さく、体部が底部との境にくびれをもちやや丸味をもって立ちあがるもの(３)、器高が高くて底径が大きく、体部が底部との境にくびれをもち直線的に立ちあがるもの(４)などに分けられ、さらに器高が高くて底径が小さなものは、体部が



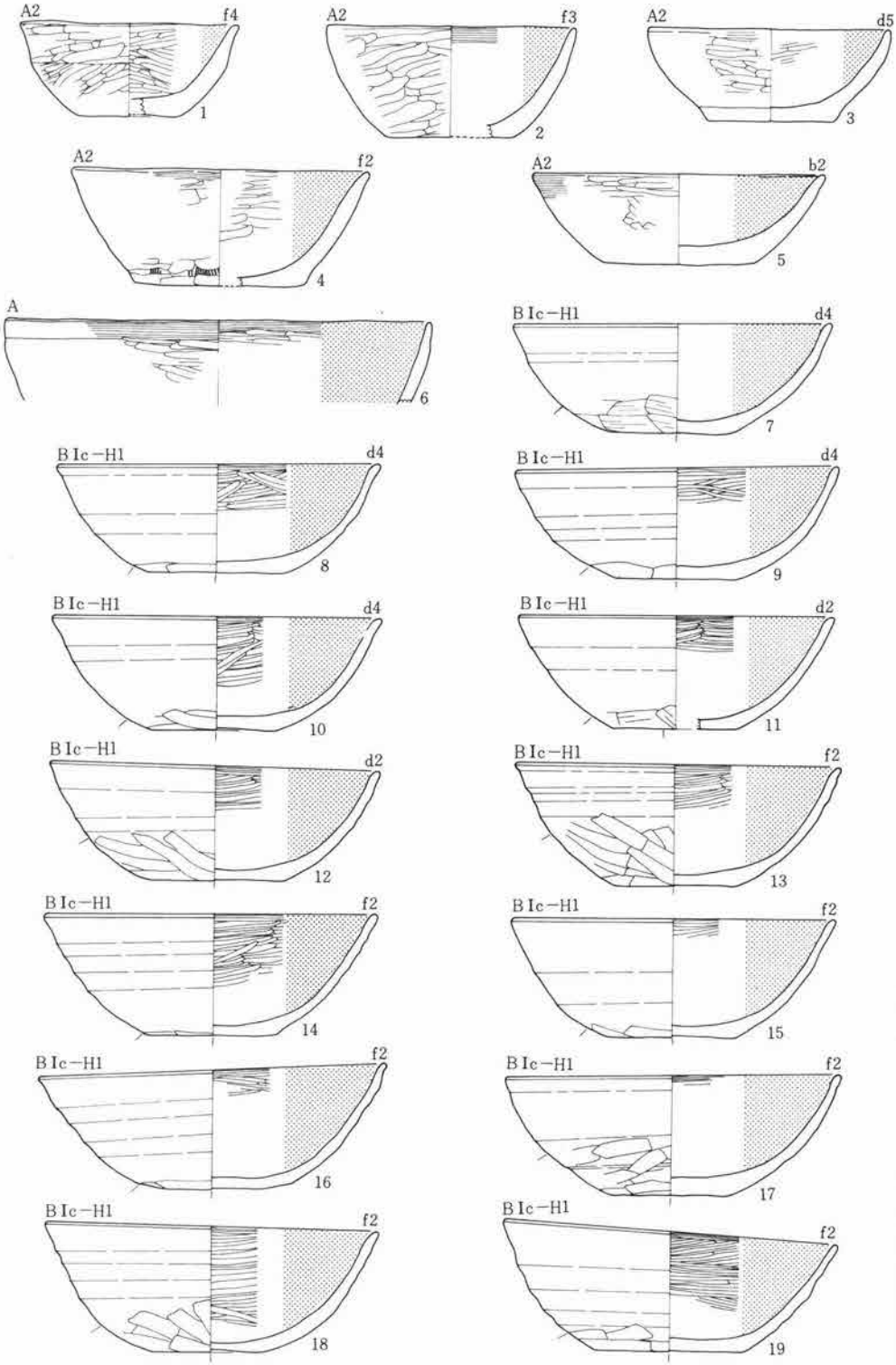

| | 層No | 土色 | 土性 | その他 | | 層No | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1層 | 1 | 黒褐色(10Y R3/2) | 粘土質シルト | 多量の土器を含む | | 14 | 灰褐色(7.5Y R4/2) | 粘土 | 12とほぼ同じ、やや粘性強 |
| | 2 | 灰黄褐色(10Y R4/2) | シルト | 細砂を少量含む | 第6層 | 15 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 粘土質砂 | |
| | 3 | 暗褐色(10Y R3/4) | 粘土質シルト | 土器・木炭片・焼土粒を含む | 第7層 | 16 | 灰褐色(10Y R4/2) | 粘土 | 細砂を含む |
| 第2層 | 4 | 灰褐色(10Y R4/2) | 〃 | 多量の土器を含む | 〃 | 17 | 〃 (〃) | 〃 | 酸化した褐色粘土を含む |
| | 5 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | 遺物をほとんど含まない | 第8層 | 18 | 褐色(10Y R4/4) | 砂 | 敷いた人為層 |
| 第3層 | 6 | 褐灰色(10Y R4/1) | シルト | 多量の土器を含む | 掘り方埋土(1) | 19 | 暗褐色(10Y R3/3) | シルト | にぶい黄褐色土を塊状に含む |
| | 7 | 黄褐色(10Y R5/6) | シルト | 塊状堆積 | 〃 | 20 | 〃 (10Y R3/4) | 〃 | 〃 |
| 第4層 | 8 | 褐色(10Y R4/4) | シルト質粘土 | 塊状の黒色土・白色粘土を含む | 掘り方埋土(2) | 21 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | 塊状堆積 |
| | 9 | 灰黄褐色(10Y R5/2) | 粘土質シルト | 密で、黄褐色土を塊状に含む | 〃 | 22 | 灰黄褐色(10Y R4/3) | 砂質シルト | 酸化鉄を多量に含む |
| | 10 | 〃 (10Y R4/2) | 〃 | 疎で、黄褐色土を塊状に含む | 〃 | 23 | 暗褐色(10Y R3/4) | シルト | |
| | 11 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | 〃 | 〃 | 24 | 褐色(10Y R4/4) | 〃 | |
| 第5層 | 12 | 灰褐色(7.5Y R4/2) | 粘土 | 井筒内の土か？ | 〃 | 25 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | |
| | 13 | 褐色(10Y R4/4) | シルト質粘土 | 細砂を含む | | | | | |

第96図　第2号井戸跡

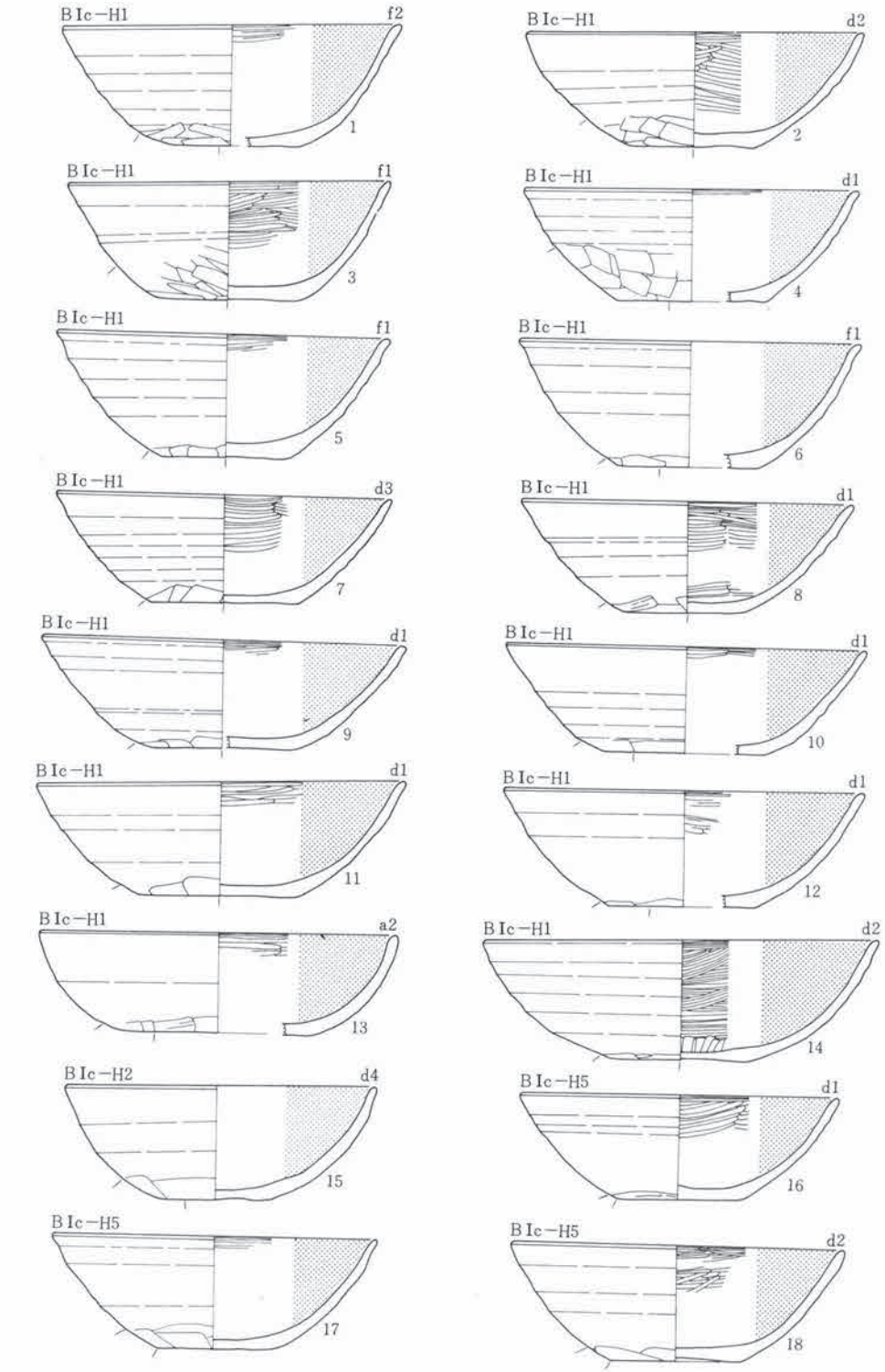
第２号井戸井筒平面図(１：20)



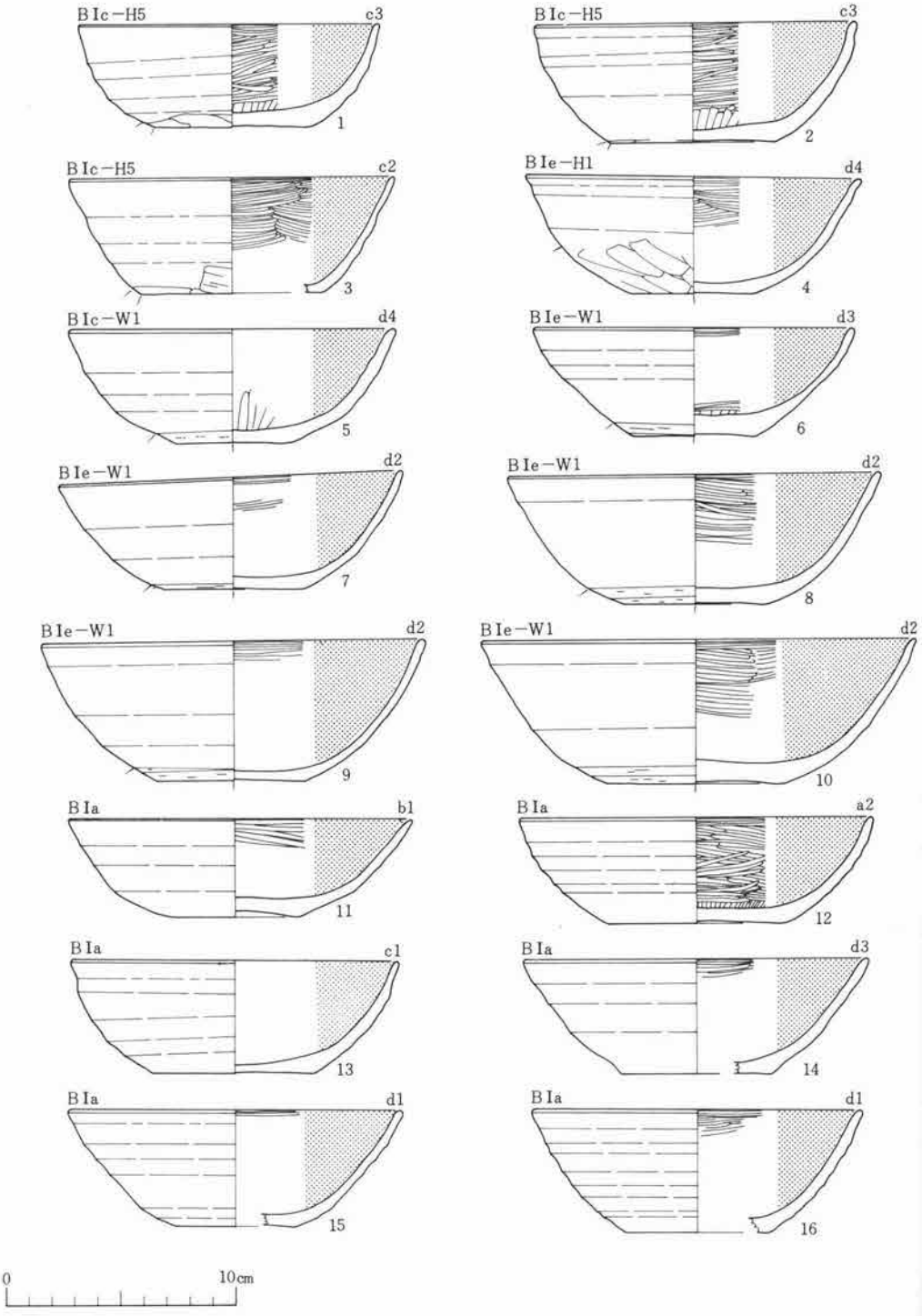

第97図　第２号井戸井筒部分側面図



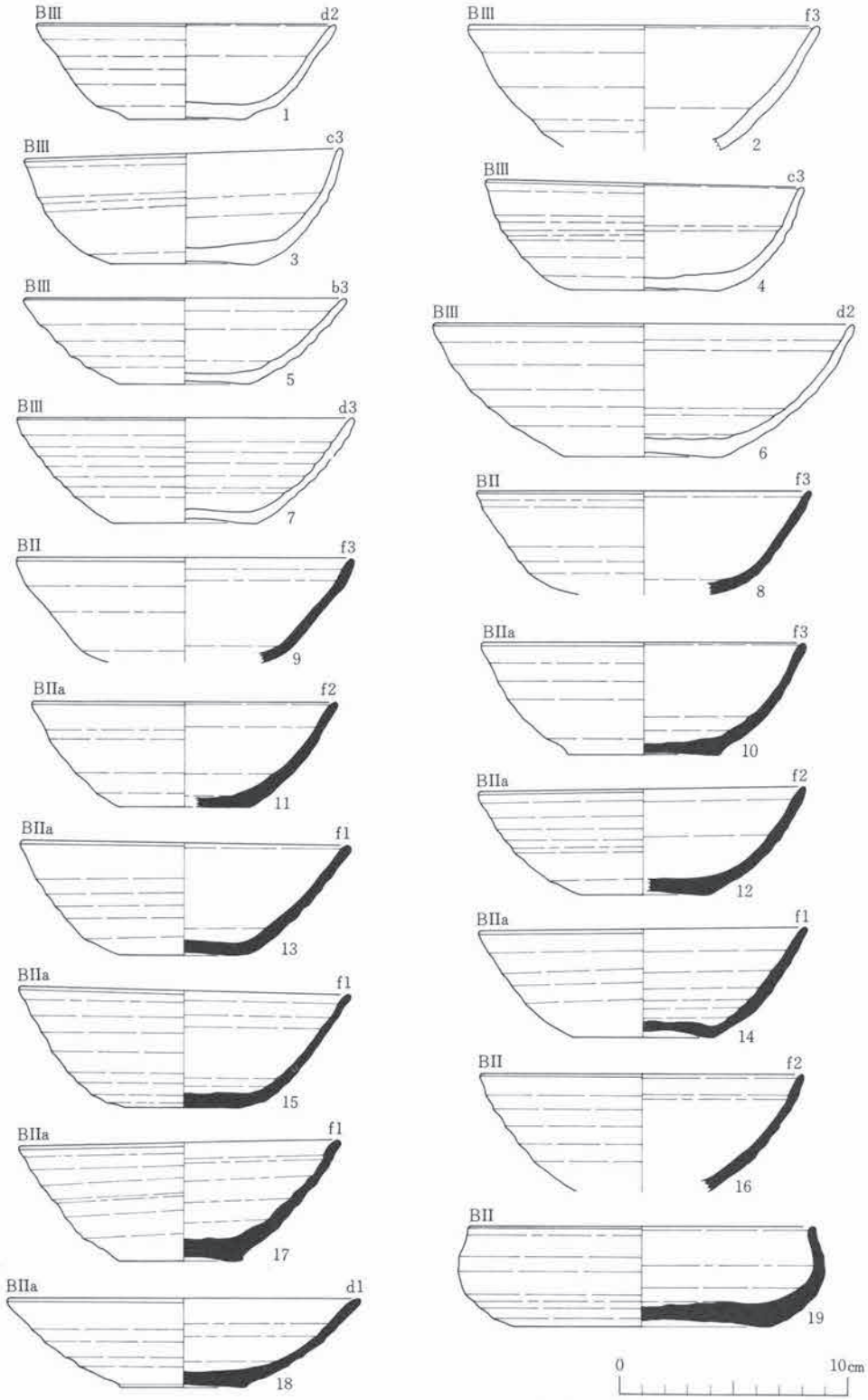

第98図　第２号井戸跡出土遺物（１）



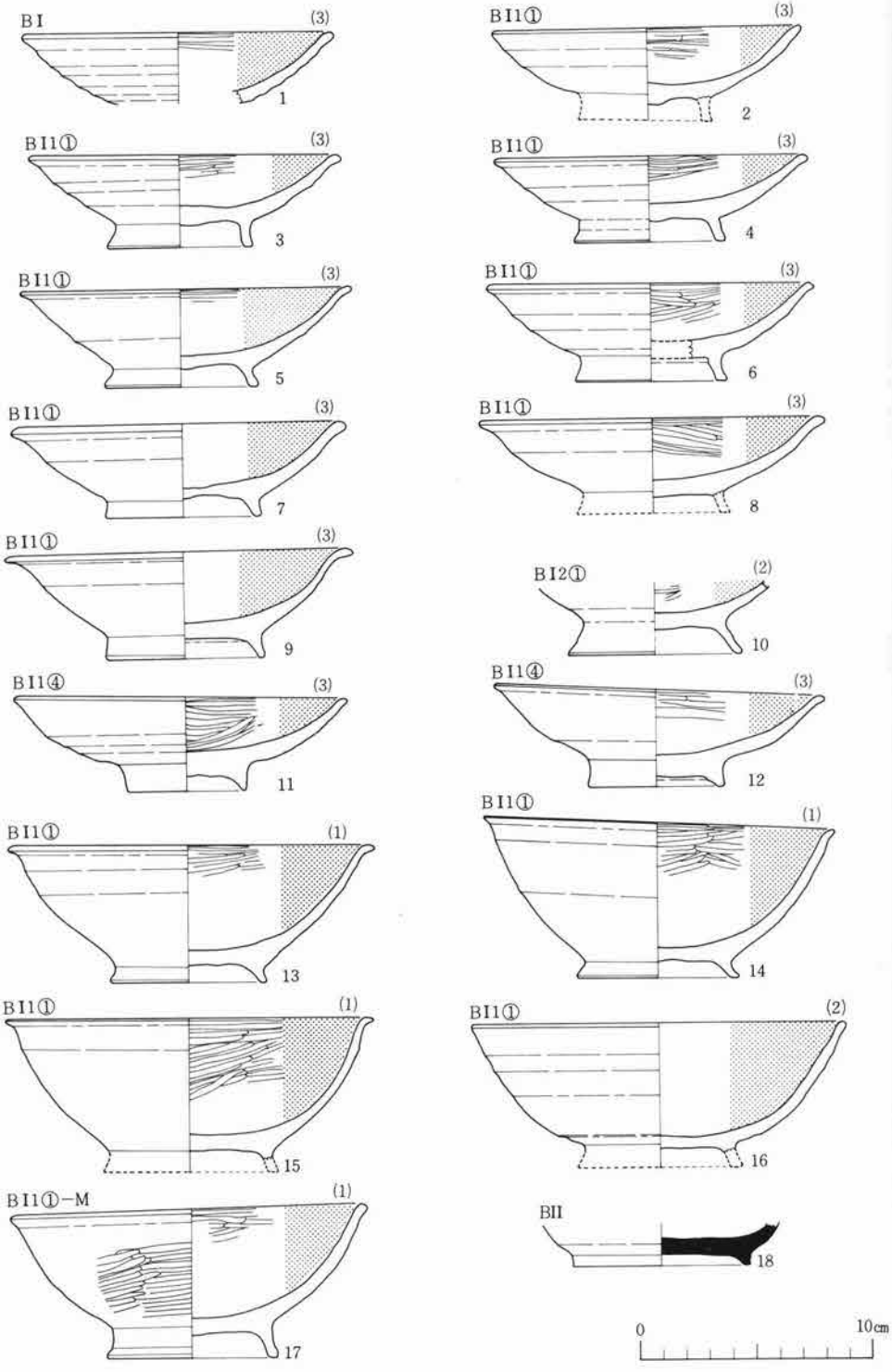

第99図　第２号井戸跡出土遺物（２）



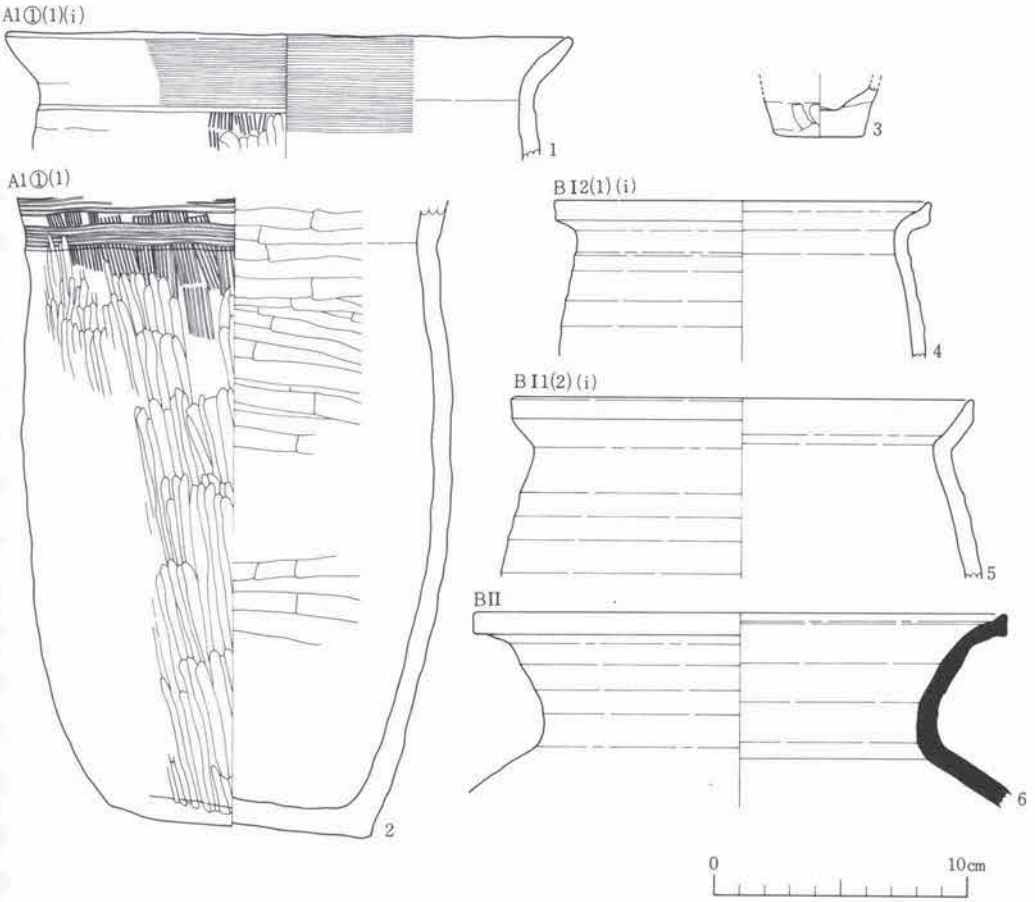

第100図　第２号井戸跡出土遺物（３）



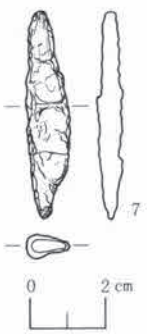

第101図　第2号井戸跡出土遺物（4）




第102図　第２号井戸跡出土遺物　（５）




第103図　第２号井戸跡出土遺物（６）




ややふくらみをもって立ちあがるもの（２）と体部がややふくらみをもって外傾し口縁端で立ちあがるもの（１）とに細分される。６は大形のもので、全体の器形は不明である。器面調整は内外面ともヘラミガキを基本とするが、口縁部には前段階の調整である横ナデが観察されるものもある。４は体部下端外面に刷毛目痕が認められる。

**〈坏ＢⅠ類〉**（第98図７～19、第99図、第100図）　ＢⅠ類の坏には、底部を回転糸切りで切り離した後、再調整を加えないもの（ＢⅠａ類）と再調整を施すもの（ＢⅠｃ類）、および再調整のため底部の切り離し手法が不明のもの（ＢⅠｅ類）とに分けられる。

ＢⅠｃ類の坏（第98図７～19、第99図、第100図１～３、５）は、再調整の手法および再調整を施す部位の違いによって細分される。体部下端より底部全面に手持ちヘラケズリを施すもの

($H_1$手法)、体部下端より底部周縁に手持ちヘラケズリを施すもの($H_2$手法)、体部下端にのみ手持ちヘラケズリを施すもの（$H_5$手法)、および体部下端より底部周縁に回転ヘラケズリを施すもの（$W_1$手法）などがある。

ＢＩc—$H_1$手法の坏（第98図７～19、第99図１～14）は出土量が最も多く、形態上の特徴によっていくつかに分けられる。器高が普通で底径の小さなものには、体部がかなり丸味をもって立ちあがるもの（第98図７～10)、体部がやや丸味をもって立ちあがるもの（第98図10・11　第99図２)、体部がややふくらみをもって外傾するもの（第99図４、９～12)、体部がやや丸味をもって外傾するもの(14)、体部が直線的に外傾するもの(７)などがある。器高が高くて底径が小さなものは、体部がやや丸味をもって立ちあがるもの（第98図13～19、第99図１)、体部がややふくらみをもって立ちあがるもの（第99図３・５・６）に分けられ、器高が低くて底径が大きく、体部がやや丸味をもって外傾するもの(13)もある。ＢＩc—$H_2$手法の坏（第99図15）は、器高が普通で底径が小さく、体部がかなり丸味をもって外傾するもので、１点だけ出土している。ＢＩc—$H_5$手法の坏（第99図16～18、第100図１～３）は、形態上の特徴によって分けられ、器高が普通で底径が小さなものには、体部がややふくらみをもって外傾するもの(16)、体部がやや丸味をもって外傾するもの（17～18）とがあり、器高が普通で底径の大きなものには、体部がかなり丸味をもって立ちあがるもの（第100図１・２）と体部が直線的に外傾するもの(３)とがある。ＢＩc—$W_1$手法の坏（第100図５）は器高が普通で底径が小さく、体部がかなり丸味をもって立ちあがるものである。

ＢＩe類の坏（第100図４、６～10）は、すべて体部下端より底部全面にかけて再調整を施すもので、手持ちヘラケズリによるもの（$H_1$手法）と回転ヘラケズリによるもの（$W_1$手法)とに分けられる。

ＢＩe—$H_1$手法の坏(４)は、１点のみで、器高が普通で底径が小さく、体部がかなり丸味をもって外傾するものである。ＢＩe—$W_1$手法の坏（６～10）は、器高が普通で底径が小さなもので、体部が直線的に外傾するもの(６)と体部がやや丸味をもって外傾するもの（７～10）に分けられる。10はかなり大形のものである。

ＢＩa類の坏（第100図11～16）は、出土量が極端に少なく、出土層も最上層に限られる。器高が低いものには、底径が小さくて体部がややふくらみをもって外傾するもの(11)と底径が大きく体部がやや丸味をもって外傾するもの(12)とがあり、器高が普通のものには、底径が大きくてややふくらみをもって立ちあがるもの(13)と底径が小さく体部が直線的に外傾するもの(14・15)、および底径が小さく体部がややふくらみをもって外傾するもの(16)などに分けられる。

**〈坏ＢII類〉**（第101図８～19）　ＢII類の坏には、底部を回転ヘラ切りで切り離して再調整を施すもの（ＢIId類）と回転ヘラ切り無調整のもの（ＢIIb類）および回転糸切り無調整のもの

（ＢⅡa類）などがある。堆積土下層より出土するものはＢⅡb類の坏に限られ、ＢⅡd類の坏は井筒内最下部より破片で１点出土している。いずれも図示不能である。

ＢⅡa類の坏（第101図８～18）は、器高が高くて底径が小さなものがほとんどを占め、体部の形態によって体部がやや丸味をもって外傾するもの（８～10）、体部がややふくらみをもって外傾するもの（11・12・16）、体部が直線的に外傾するもの（13～15、17）などに分けられる。また、器高が低くて底径が小さく、体部が大きく開いて外傾するもの(18)もある。

**〈坏Ｂⅲ類〉**（第101図１～７）　ＢⅢ類の坏はほとんどが最上層より出土している。形態上の特徴によっていくつかに分けられる。器高が低くて底径が小さく、体部が大きく開いて直線的に外傾するもの(５)、器高が普通で底径が大きく、体部がかなり丸味をもって立ちあがるもの(３・４)、器高が高くて底径が小さく、体部が直線的に外傾するもの(２)などがあり、器高が普通で底径の小さなものは、体部がやや丸味をもって外傾するもの（１・６）と体部が直線的に外傾するもの(５)とに分けられる。６はかなり大形のものである。

**高台付坏形土器**（第100図）　高台付坏には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）とがある。ＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）は全く出土していない。また、ＢⅡ類は１点のみで、ほかはすべてＢⅠ類に属すものである。

**〈高台付坏ＢⅠ類〉**（第102図１～17）　ＢⅠ類の高台付坏は、高台部が短く外傾し、底部に菊花状のヘラ刻みを施して周縁をロクロ調整するもの（ＢⅠ１①類）と高台部が長く外傾し、底部に菊花状のヘラ刻みを施し周縁をロクロ調整するもの（ＢⅠ２①類）、および高台部が短く外傾し全面にロクロ調整するもの（ＢⅠ１④類）とがある。

ＢⅠ１①類の高台付坏（第102図１～９、13～17）は、坏部の形態が、器高が極端に底くて体部が大きく開いて外傾する皿状のもの（１～９）と器高が高くて体部が丸味をもって立ちあがる埦形のもの（13～17）とがある。17は外面にもヘラミガキが施されている。

ＢⅠ１④類の高台付坏（第102図11・12）は、高台部がほぼ直立して先端が丸くなるもので、外底部には粘土を詰め器肉がかなり厚くなっている。坏部の形態は皿状を呈する。

ＢⅠ２①類の坏(10)は、高台部の小片が１点出土したのみで、坏部の形態は不明である。

**〈高台付坏ＢⅡ類〉**（第102図18）　底部の小片である。高台は極端に低いもので、底部は中央に糸切り痕を残し、周縁をロクロ調整している。坏部の形態は不明である。

**甕形土器**（第103図）　甕には、Ａ類（ロクロ未使用で酸化炎焼成）とＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）、およびＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）とがある。甕の出土量は極端に少ない。

**〈甕Ａ類〉**（第101図１・２）　Ａ類の甕は甕のなかで最も多く出土し、そのほとんどが図示不能の少片である。大形の甕が多数を占め、頸部に段を有するものが大部分を占める。遺構内堆積土の下層より出土する。１は口縁部のみの破片で、大形の長胴形のものである。口縁部は長

く外反し、頸部には段を有する。器面調整は口縁部が横ナデ、体部外面上半が刷毛目＋ヘラミガキによっている。2は井筒内最底部より出土したものである。肩部付近に1個の穿孔をもち、汲水に利用された可能性が強い。口縁部は欠損している。頸部には刷毛目状工具でナデを施すことによって形式的な段をつくっている。体部はゆるく脹み中央付近に体部最大径をもつ。器面調整は体部外面が刷毛目＋ヘラミガキ、内面はナデに近い軽いミガキによって整え、底部外面には木葉痕をそのまま残している。

**〈甕ＢⅠ類〉**（第103図4・5）　ＢⅠ類の甕は上層より破片で少量出土している。4は口縁部に最大径をもつ小形の甕（ＢⅠ2(1)類）で、口縁部は短く強く外反し、口唇部は上方へ挽き出している。体部はやや大きく脹み、中央付近に体部最大径をもつ。5は体部に最大径をもつ大形の甕（ＢⅠ1(2)類）で、口縁部は短くゆるく外反し、口唇部は上方へ挽き出している。体部は大きく脹み、中央部近に最大径をもつ。

**〈甕ＢⅡ類〉**　図示不能の少片でかなりの数が出土している。器形の大小や器肉の厚薄、および調整手法の差異によって数種のバライティがみられる。

**壺形土器**　壺にはＡ類（ロクロ未使用で酸化炎焼成）に属するものとＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属するものとがある。そのほとんどが図化不能の細片である。Ａ類の壺は、頸部に段を有する大形のもので、体部はほぼ真球を呈し中央付近に最大径をもつ。

**〈壺ＢⅡ類〉**（第103図6）　頸部から口縁部まで長く外反し、体部が大きく張り出すものである。同じく広口壺と推定されるものが破片で1点出土している。

**盤形土器**（第101図19）　ＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属するものである。底部は回転ヘラ切りで切り離し、再調整を施していない。体部より口縁部までは内弯ぎみに立ちあがる。

**小形手捏土器**（第103図1）　破片のため全体の器形は不明であるが、甕形を呈するものと推定される。内外面ともオサエによって器面を整えている。

**鉄製品**（第103図7）　短い身部をもち、刃先は弧形をなしている。茎は先端に向い除々に細くなる。全長5.6cm、身部長4.2cmを計る。身部の最大幅は1.2cmである。丸のみと推定される。

## 3　溝

### 第1号溝

**〔位置〕**　調査区西端のＣＡ09グリッドより東端のＣＤ59グリッドにかけて斜めに横断する。

**〔遺構確認面〕**　耕作土直下のⅡa層を若干掘り下げて遺構の存在を確認している。なお、ＣＣ53グリッドにかかる付近でのみⅠb層が検出されており、遺構はその下より掘り込まれている。

**〔重複関係〕**　第1号住居跡・第2号住居跡・第4号住居跡の3遺構と重複関係にあり、そのいずれもが第1号溝によって切られている。

**〔形状・方向〕**　溝の断面形は逆台形状を呈している。全体の形状は溝の両端が調査区以外に延びるため不明である。溝の走行軸は東―西の方向であり、周囲より検出された住居跡の東西辺の方向とほぼ一致する。

**〔規模〕**　調査区内に限定された長さは約20.5ｍとなる。全長は不明である。上幅2.56～2.78ｍ、底幅51～55㎝、検出面よりの深さは75～94㎝を計る。底面は若干の凸凹はみられるがほぼ平坦になっており、絶対高にもばらつきがみられない。

**〔堆積土〕**　溝内堆積土は以下の3層に大別される。

第1層：基本的には褐色のシルト層である。緻密な堆積状況を示し、かなりかたい。焼土粒・木炭粒は相対的に少ない。6層に細分される。

第2層：基本的には暗褐色のシルト層である。やや粗い堆積状況を示し、第1層に比べてやわらかい。焼土粒・木炭粒は少量含まれる。3層に細分される。

第3層：基本的には暗褐色のシルト層である。他の層に比べて砂分が強い。堆積土の密度は粗く、ぼさぼさしている。下層はややグライ化している。焼土粒・木炭粒をかなり含む。4層に細分される。

以上の埋土はすべて自然的な営力による堆積層と思われる。

**〔出土遺物〕**　当溝跡の出土遺物には土器と鉄製品とがあり、土器は坏・高台付坏・甕などの器種に分けられる。全層よりほぼ均等に出土するが、土器の新旧関係と堆積土の層序との関係が一定しない。さらに、調査範囲内で3棟の住居跡を破壊して掘り込まれていることから、当遺構に確実に伴うものと判断できる遺物は抽出できなかった。

**坏形土器**（第107図１～３）　坏にはＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）、およびＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とがある。ＢⅠ類の坏（１）がそのほとんどを占め、すべて回転糸切り無調整のものである。ＢⅡ類の坏は小片で少量出土しており、底部には糸切り痕を残す。ＢⅢ類の坏（２～３）は、かなりの点数で出土しており、

体部の器形は多様である。

**高台付坏形土器**　ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）に属すものが図示可能の細片で出土している。底部に菊花状のヘラ刻みを施して周縁をロクロ調整するものである。

**甕形土器**（第107図４）　甕には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）とがある。ＢⅠ類の甕(４)は、すべて口縁部に最大径をもつもので、器形の大小、口縁部・体部の形態等によって細分される。ＢⅡ類の甕は、最大径の位置・口縁部の形態等に違いがみられ、各種に分類可能である。

**鉄製品**（第108図４・５）　２点出土しており、ともに細長い角棒である。釘と思われる。４は現存長3.2cm、幅0.7cm、５は現存長2.8cm、幅0.6cmを計る。

**第２号溝**

**〔位置〕**　ＣＧ53グリッドよりＧＪ56グリッドにかけて位置する。

**〔遺構確認面〕**　耕作土直下のⅡa層中より確認した。

**〔重複関係〕**　第７号住居跡および第９号住居跡と重複関係にある。第２号溝は双方の住居跡を切っており、そのいずれよりも新しい。

**〔形状・方向〕**　溝の断面形は皿状を呈する。全体の形状は中央部で若干南西方向にふくらむもののほぼ直線である。北西から南東への方向が溝の走行軸となる。

**〔規模〕**　溝は、全長約10.4ｍ、上幅31～46cm、底幅18～23cmで、検出面上よりの深さは10～18cmを測る。絶対高では北側がやや低くなっている。

**〔堆積土〕**　溝の堆積土は単層である。暗褐色のシルト質土でしまりがなくぼさぼさしている。少量ではあるが木炭粒を全面に含む。

**〔出土遺物〕**　当遺構より出土した遺物は土器２片に限られる。１片はＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）の坏の底部片（第107図５）で、回転糸切り無調整のものである。他の１片はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）の甕の体部片である。

**第３号溝**

**〔位置〕**　調査区西端のＣＪ06グリッドよりＤＣ53グリッドまでの間に位置する。

**〔遺構確認面〕**　耕作土直下のⅡa層を若干掘り下げて遺構の存在を確認している。

**〔重複関係〕**　第10号住居跡および第11号住居跡と重複関係にある。この溝はそれら２棟の住居跡を切っている。

**〔形状・方向〕**　溝の断面形は皿状を呈する。全体の形状は、西側が発掘区以外に延びるため不明である。溝の走行軸は西―東の方向であり、第１号溝とほぼ平行する。

〔規模〕　東側で路線敷外に入るため全長は不明である。長さは現存値で13.2m、上幅44～62cm、底幅26～38cmを測る。検出面よりの深さは11～15cmとなり、底面の絶対高はほぼ均一である。

〔堆積土〕　溝の堆積土は、暗褐色を呈するシルト質土の単層である。粒状の粗い堆積であり、ぼさぼさしてしまりがない。かなりの木炭粒を混入する。

〔出土遺物〕　出土遺物は土器だけで、器種には坏と甕がある。坏はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）に属し、回転糸切り無調整のものである。甕はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に類別され、口縁部に最大径をもつ大形のもの（第107図６・７）である。

**第４号溝**

〔位置〕　調査区西端のＤＢ06グリッドより東端のＤＩ59グリッドにかけて位置する。

〔遺構確認面〕　耕作土を除去して遺構の存在を確認した。当地区ではＩb層は部分的にしか検出されておらず、耕作土の下はIIa層になっている。掘込面はIIa層の上面である。

〔重複関係〕　第２号井戸跡と重複関係にある。この溝は井戸跡の上部を切っており、それよりも新しい。

〔形状・方向〕　溝の断面形は逆台形状を呈する。全体の形状は、大部分が発掘区以外に延びているため不明である。溝の走行軸は西北西―東南東方向であるが、調査区の中央でやや南西方向にふくらんでいる。

〔規模〕　溝の全長は不明である。調査区に限り、長さは約25.2m、上幅101～183cm、底幅36～104cm、検出面よりの深さ52～61cmを測る。なお、溝底面の絶対高はほぼ一定している。

〔堆積土〕　溝の堆積土は以下の２層に大別される。

第１層：暗褐色のシルト層である。粉～粒状の緻密な堆積をしている。かなりの木炭粒を含むほか、焼土粒が少量含まれる。３層に細分される。

第２層：褐色のシルト層である。緻密でかなりかたい。下部は若干グライ化している。少量の木炭粒が含まれる。

第１層、第２層とも廃絶後に自然的な営力によって堆積した層と思われる。

〔出土遺物〕　当遺構の出土遺物は土器に限られ、器種には坏と甕がある。坏はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）（第107図８）とがありすべて小片である。いずれも、底部を残すものは回転糸切り無調整のものである。甕はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）の体部片が少量出土している。

**第５号溝**

〔位置〕　調査区西端のＦＥ09グリッドより東端のＦＡ56グリッドにかけて位置する。

〔遺構確認面〕　遺構確認面はIIa層の上面である。この溝が位置する範囲ではIb層は検出されておらず、耕作土の直下がIIa層になる。

〔重複関係〕　第20号住居跡、およびNo.4ピットと重複関係にある。これらの遺構は第5号溝跡によって切られている。

〔形状・方向〕　溝の断面形は皿状を呈する。全体の形状は両端が発掘区外に延びるため不明である。溝の走行軸は南南西—北北東方向であり、緩やかな蛇行はみられるもののほぼ直線的に伸びている。

〔規模〕　全長は不明であるが現存値で約19.8m、上幅22～29cm、底幅9～13cm、検出面よりの深さ5～11cmを測る。溝底面はかなりの凸凹があり、絶対高にばらつきがみられる。

〔堆積土〕　溝の埋土は暗褐色を呈するシルト質土の単層である。土のしまりは悪く、ぼさぼさしている。若干の木炭粒を混入する。

〔出土遺物〕　当遺構の出土遺物には土器と土錘がある。土器はすべて図示不能の細片であり、器種には坏と甕がある。坏はBI類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とBII類（ロクロ使用で還元炎焼成）とがあり、甕はBI類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すものである。坏は口縁部片、甕は体部片に限定されるため詳細は不明である。

土錘（第108図6）は、中央でやや脹む管状のもので、長さ3.9cm、幅1.8cmを計る。長軸に沿って径0.3cmの貫通孔が穿たれている。部分的にヘラミガキが施されている。

**第6号溝**

〔位置〕　調査区西端のGB06グリッドより東端のGC56グリッドにかけて位置する。

〔遺構確認面〕　耕作土直下のIIa上面より確認した。耕作がIIa層中にまで及んでおり、掘込面は不明である。

〔重複関係〕　第11号溝跡と重複関係にあり、それよりも新しい。

〔形状・方向〕　溝の断面形は逆台形状を呈する。全体の形状は両端が調査区外に延びるため不明である。溝の走行軸は西南西—東北東方向であり、緩やかに蛇行して延びている。

〔規模〕　全長は不明である。現存値で長さは約14.8m、上幅81～114cm、底幅28～53cm、検出面よりの深さ39～47cmを測る。なお、溝底面の絶対高はほぼ一定している。

〔堆積土〕　溝の堆積土は2層に大別される。

第1層：暗褐色のシルト層である。緻密でかなりかたい。粒状の木炭をかなり含むほか、地山塊を広く混入する。

第2層：褐色のシルト層である。第1層に比べてやや粘性が強い。少量の木炭粒を含む。

第1層、第2層とも自然的営力による堆積層と思われる。

〔出土遺物〕　出土遺物には土器と鉄製品がある。土器には坏と甕があり、ともにＢＩ類に属す図示不能の細片である。

鉄製品（第108図７）は、細長い角棒であり釘と推定される。現存長で3.7cm、幅0.8cmを計る。

**第７号溝**

〔位置〕　調査区西端のＧＣ06グリッドより東端のＧＤ56グリッドにかけて位置する。

〔遺構確認面〕　耕作土を除去して現われるⅡa層の上面より遺構の存在を確認した。Ⅱa層の上部は耕作土となっており、掘込面は不明である。

〔重複関係〕　第８号溝跡、第11号溝跡およびＧＣ62住居跡(未調査)と重複関係にある。この溝は第８号溝跡および第11号溝跡よりは旧く、ＧＣ62住居跡よりは新しい。

〔形状・方向〕　溝の断面形はＵ字形を呈する。全体の形状は両端が未調査区に延びるため不明である。溝の走行軸は西南西―東北東の方向となり、第６号溝とほぼ平行して直線的に延びている。

〔規模〕　調査区に限定した溝の長さは約14.7ｍとなり、上幅31～45cm、底幅12～19cm、検出面よりの深さ16～20cmを測る。溝の底面は東側でやや低くなっている。

〔堆積土〕　溝の埋土は２層に細分されるが基本的には単一層としてまとめることができる。暗褐色を呈する緊密なシルト質土であり、地山塊を混入する。

〔出土遺物〕　当遺構の出土遺物は土器に限られる。器種には坏と甕がある。いずれもＢＩ類に属すもので、小片のため細部の観察は不能である。

**第８号溝**

〔位置〕　発掘区西端のＧＤ06グリッドより延びて、ＧＣ53グリッド内で第６号溝跡に接続して消滅する。

〔遺構確認面〕　Ⅱa層の上面より遺構の存在を確認している。当地区ではⅡa層の上部にまで耕作が及んでいる。

〔重複関係〕　第６号溝、第７号溝、第11号溝、および第１方形溝状遺構と重複関係にある。この溝は第７号溝と第11号溝よりも新しく、第１方形溝状遺構よりも旧い。

なお、この溝と第６号溝とは接続していることから、重複関係にあるというより、併用されたものである可能性が強い。

〔形状・方向〕　溝の断面形は逆台形状を呈する。全体の形状は西端が発掘区外に延びるため不明である。溝の走行軸は、一端南東方向を背にして屈曲するため一定しないが、西南西―東北東と南南東―北北西とに分かれる。

〔規模〕　未調査区を含むため全長は不明であるが、現存値で約12.2mとなる。上幅51～98cm、底幅29～47cm、検出面よりの深さ25～41cmを測る。溝底面の絶対高はほぼ一定しているが、屈曲する付近でやや低くなっている。

〔堆積土〕　溝の堆積土は2層に大別される。

第1層：暗褐色のシルト層である。緻密でかなりかたい。木炭粒を少量混入する。

第2層：暗褐色のシルト層である。第1層に比べてやや粘性が強く、粒状の粗い堆積となる。木炭粒・焼土粒を少量含む。部分的ではあるが、第2層の上部に明赤褐色の焼土層が認められる。溝底面には直接乗らないものの、壁が若干焼けていることから、流入物とは考えられずある程度埋った段階での火床面と思われる。

第1層、第2層とも自然堆積層として認定される。

〔出土遺物〕　当遺構より出土した遺物は土器に限られる。器種には坏・甕・鉢がある。坏はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とがあり、ともに回転糸切り無調整のものである。甕はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すもので体部の小片である。鉢（第107図9）はＢⅠ類に類別される底部の破片である。内面はヘラミガキ・黒色処理で整えている。底部外面には糸切り痕をそのまま残す。

**第9号溝**

〔位置〕　調査区西端のＧＥ06グリッドより、東端のＧＨ56グリッドまでに位置する。

〔遺構確認面〕　遺構はⅡa層の上面より確認した。Ⅱa層の上部はすべて耕作土である。

〔重複関係〕　第11号溝跡、第23号住居跡、およびNo.8ピットと重複関係にある。当溝跡はこれらのすべての遺構よりも新しい。

〔形状・方向〕　溝の断面形は逆台形状を呈する。全体の形状は両端で調査区外に延びるため不明である。溝の走行軸は西―東の直線方向であり、第1号溝、第3号溝とほぼ平行する。

〔規模〕　両端に未調査区をもつため全長は不明であるが、現存値で約17.1mとなる。上幅97～116cm、底幅54～67cm、検出面よりの深さ41～45cmを測る。溝底面の絶対高は一定している。

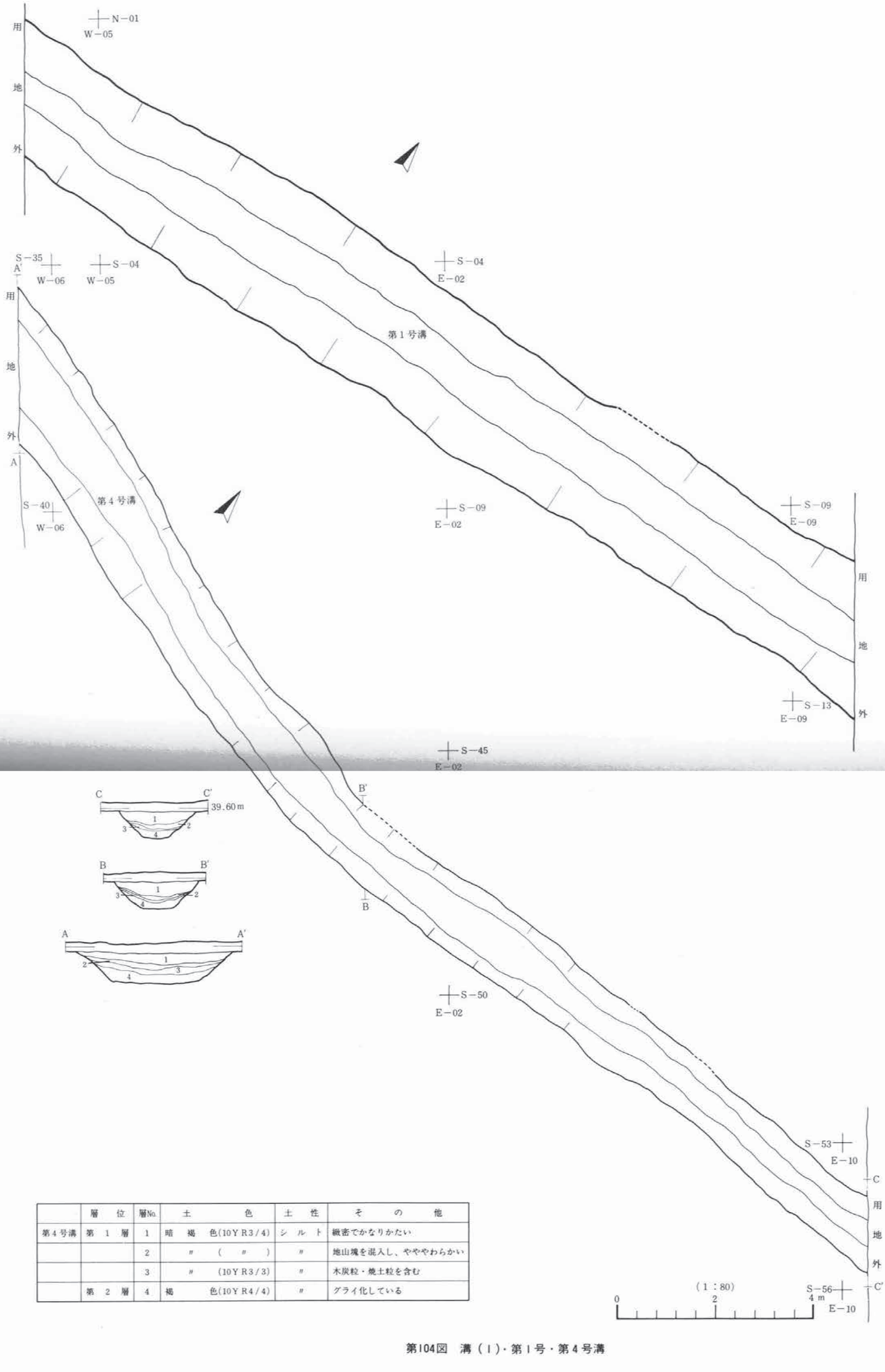
〔堆積土〕　この溝の堆積土は以下の3層に分けられる。

第1層：暗褐色のシルト層である。粉状の緻密な堆積状況を示す。混入物はほとんどみられない。

第2層：暗褐色のシルト層である。第1層に比べると密度が疎でやや砂分が強くなる。木炭粒・地山塊をかなり混入する。

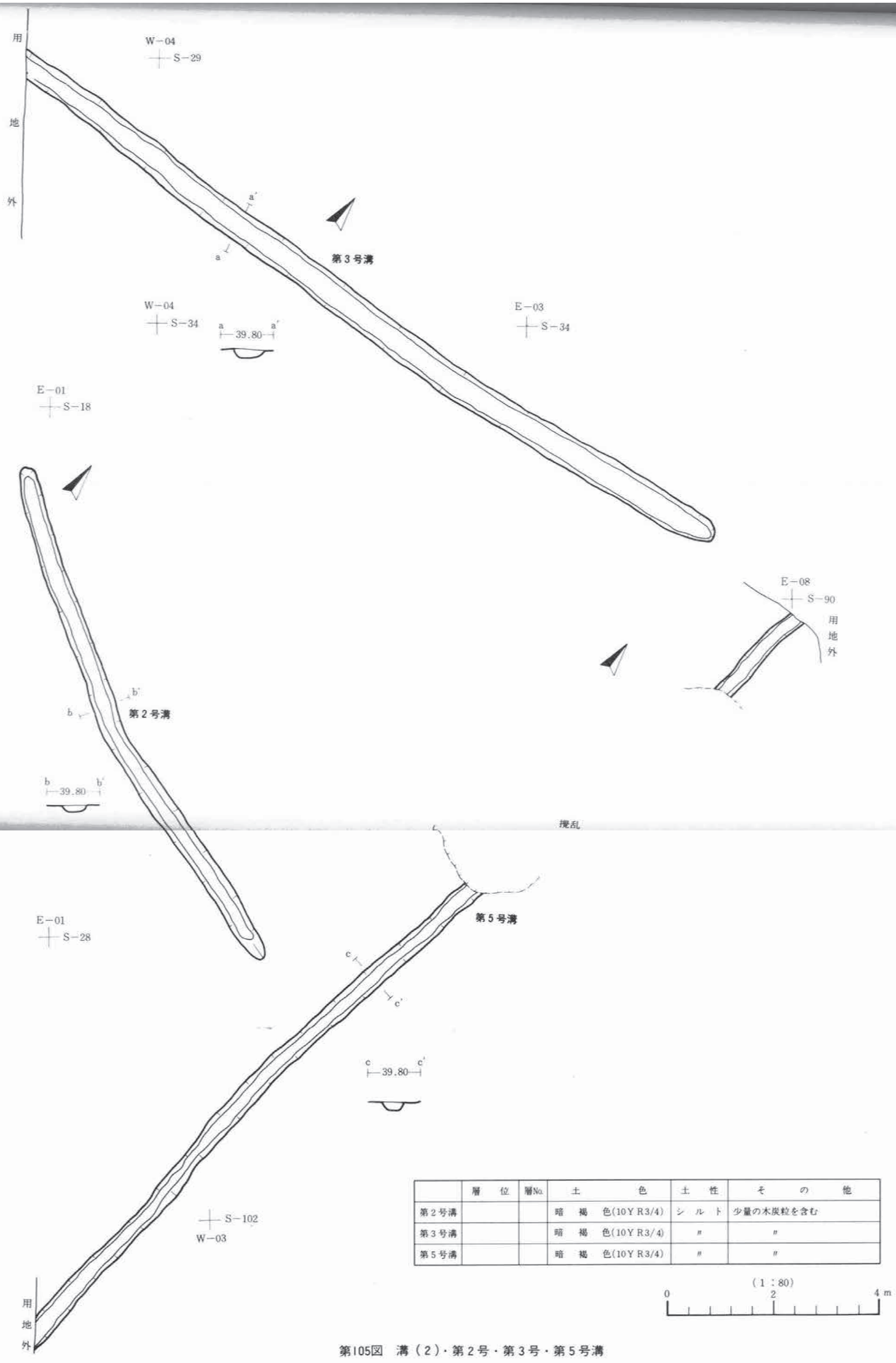
第3層：褐色の砂質シルト層である。ややねばりのある粘土質シルト・細砂を混入する。

第1層～第3層まですべて廃絶後に自然的な営力によって堆積したものと観察される。




| | 層位 | 層No. | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第4号溝 | 第1層 | 1 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 緻密でかなりかたい |
| | | 2 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 地山塊を混入し、ややわらかい |
| | | 3 | 〃 (10YR3/3) | 〃 | 木炭粒・焼土粒を含む |
| | 第2層 | 4 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | グライ化している |

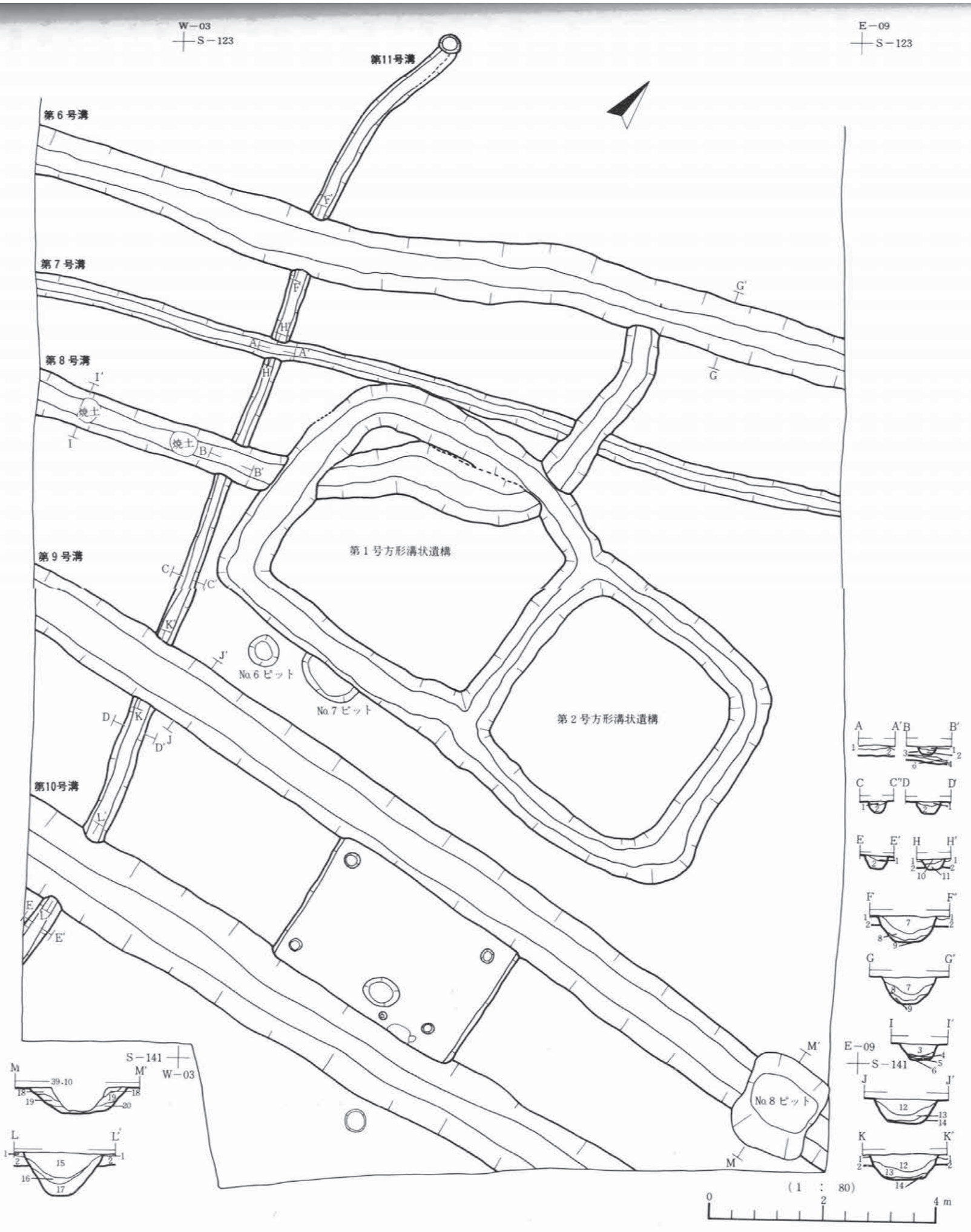
第104図　溝（1）・第1号・第4号溝




| | 層　位 | 層No. | 土　色 | 土　性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第2号溝 | | | 暗　褐　色(10Y R3/4) | シ ル ト | 少量の木炭粒を含む |
| 第3号溝 | | | 暗　褐　色(10Y R3/4) | 〃 | 〃 |
| 第5号溝 | | | 暗　褐　色(10Y R3/4) | 〃 | 〃 |

(1：80)
0　2　4 m

第105図　溝（2）・第2号・第3号・第5号溝




| | 層位 | 層No | 土色 | 土性 | その他 | | 層位 | 層No | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6号溝 | 第1層 | 7 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 緻密でかなりかたい | | | 13 | | | 第80図、No.11層と同じ |
| | | 8 | 〃 (10YR3/3) | 〃 | 地山塊をかなり含む | | | 14 | | | 〃 12 〃 |
| | 第2層 | 9 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | ややねばりあり | 第10号溝 | | 15 | | | 〃 13 〃 |
| 第7号溝 | | 10 | 暗褐色(10YR3/4) | 〃 | 緻密でかたい | | | 16 | | | 〃 14 〃 |
| | | 11 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 地山塊を含む | | | 17 | | | 〃 15 〃 |
| 第8号溝 | 第1層 | 3 | 暗褐色(10YR3/4) | 〃 | 木炭粒を少量含む | | | | | | |
| | 〃 | 4 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | 地山粒を含む | | | | | | |
| | 焼土 | 5 | 明赤褐色(5YR5/8) | 〃 | かたく焼けている | | | | | | |
| | 第2層 | 6 | 暗褐色(10YR3/4) | 〃 | 焼土粒・木炭粒を少量含む | No.8ピット | | 1 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | |
| 第11号溝 | | 1 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | ややわらかい | | | 2 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | |
| | | 2 | 〃 (10YR3/3) | 〃 | 地山粒・木炭粒を少量含む | | | 3 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 〃 | 焼土粒・木炭粒をかなり含む |
| 第9号溝 | | 12 | | | 第80図、No.9層と同じ | | | | | | |

第106図　溝（3）　第6号～第11号溝

**〔出土遺物〕** 出土遺物には土器と鉄製品がある。土器は坏と甕とに分けられ、それぞれにＢⅠ類とＢⅡ類とがある。坏はいずれも回転糸切り無調整のものである。ＢⅠ類の甕(第107図10)は、口縁部に最大径をもつ大形のものである。ＢⅡ類の甕はすべて体部の細片であり、器肉の厚薄・調整技法の違いによっていくつかに細分される。

**鉄製品**（第108図11・12）は２点出土している。11は幅2.5cm±の板状のもので、一端を欠いている。長軸の一辺に刃がつけられており、鎌となる可能性が強い。現存長で7.7cmを計る。12はやや弯曲しているが刀子の刃部と思われる。現存長で5.7cm、最大幅が1.3cmになる。

**第10号溝**

**〔位置〕** 調査区西端のＧＦ06グリッドより南端のＧＨ53グリッドにかけて位置する。

**〔遺構確認面〕** 遺構はⅡa層中より確認している。Ⅱa層の上部まで耕作土となっており、掘込面は不明である。

**〔重複関係〕** 第11号溝、および第23号住居跡と重複関係にある。当溝跡はこれらの遺構を切って開削している。

**〔形状・方向〕** 溝の断面形は逆台形状を呈する。全体の形状は両端とも調査区外に延びるため不明である。溝の走行軸は西―東の方向で直線的に延びる。第１号溝、第３号溝、および第９号溝と平行する。

**〔規模〕** 全長は不明であるが調査区内に限定して約11.1ｍとなる。上幅112～152cm、底幅35～59cm、検出面よりの深さ73～78cmを測る。溝底部の絶対高はほぼ一定している。

**〔堆積土〕** 溝内堆積土は以下の３層に分けられる。

第１層：暗褐色のシルト層である。緻密でかなりかたい。少量ではあるが、焼土粒・木炭粒が広く分布する。

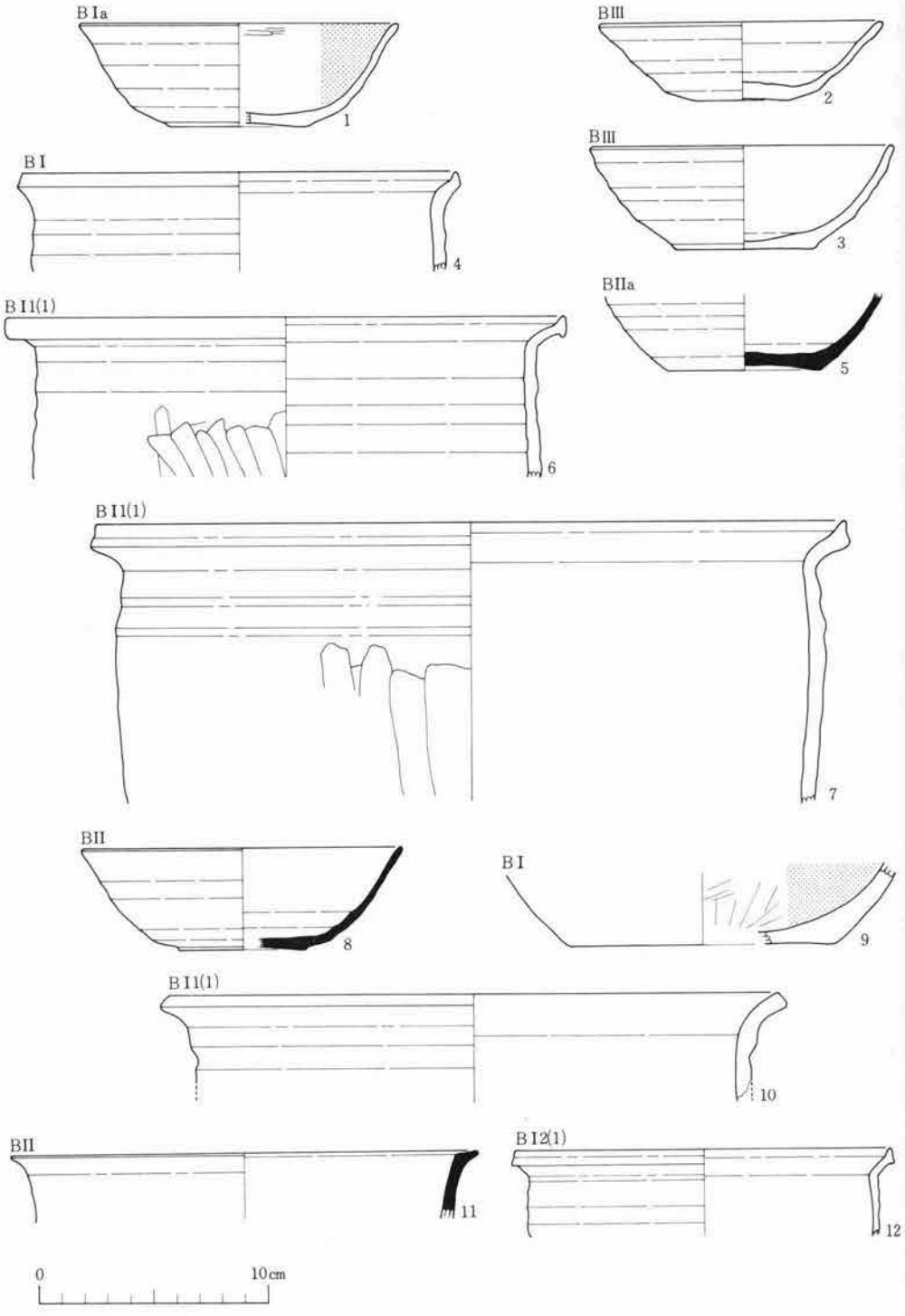
第２層：暗褐色のシルト層である。第１層に比べて密度が疎で、ややねばりがある。少量の木炭粒以外は含まない。遺物はほとんどこの層に集中する。

第３層：にぶい黄褐色のシルト層である。地山塊と細砂土を多量に混入する。

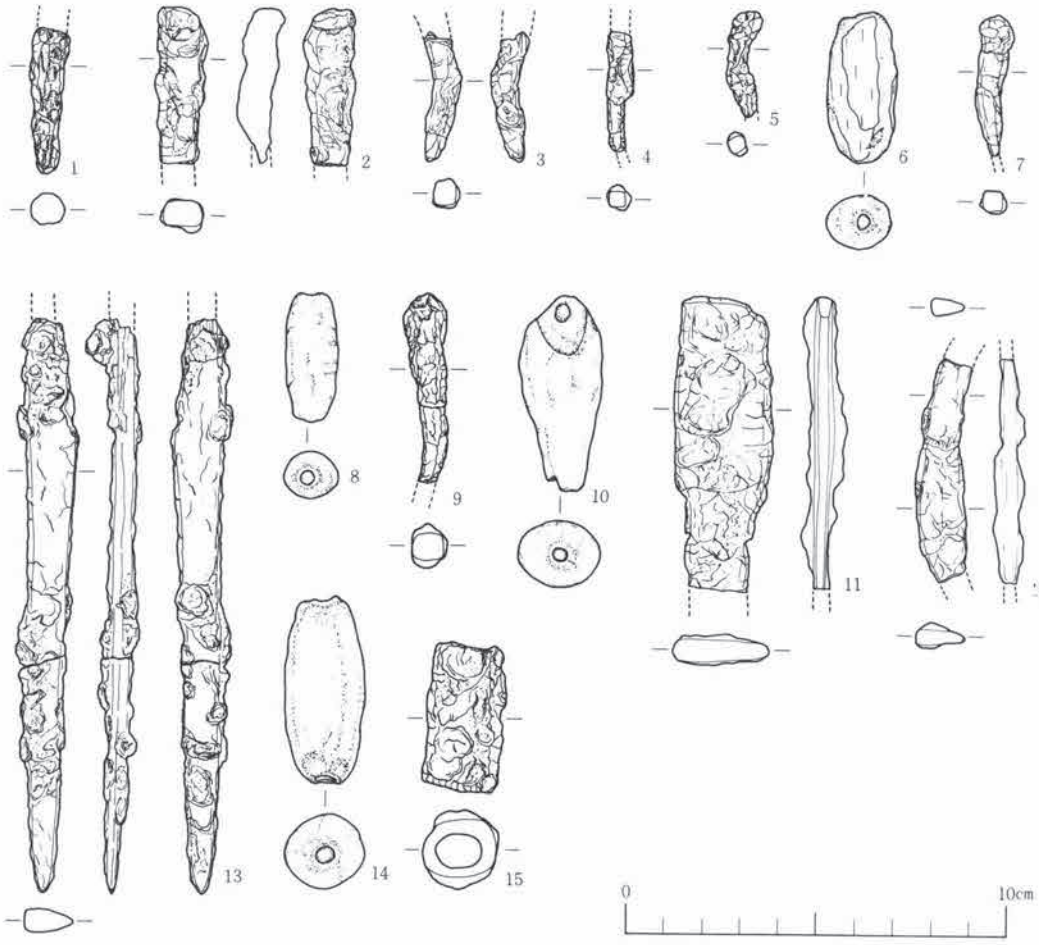
以上の３層はすべて自然堆積の様相を呈している。

**〔出土遺物〕** 出土遺物には土器・鉄製品・土錘がある。土器は坏と甕とがあり、坏はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成)、甕はＢⅠ類(ロクロ使用で酸化炎焼成）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）とに類別される。坏はすべて細片のため図化できない。ＢⅠ類の甕は体部片に限られる。ＢⅡ類の甕は口縁部に最大径をもつもの（第107図11）と体部に最大径をもつものとがあり、器形の大小によっても分けられる。

**鉄製品**（第108図９・15）は２点出土している。９は細長い棒状を呈し、角釘と推定される。


BIa
1
BIII
2
BIII
3
BI
4
BIIa
5
BII(1)
6
BII(1)
7
BII
8
BI
9
BII(1)
10
BII
11
BI2(1)
12
0
10cm

第107図　溝出土遺物




第108図　溝・方形溝状遺構・ピット出土遺物

現存長で5.0cmを計る。15は円筒形のもので、長さ3.9cm、最大復径1.9cmを計る。内側は楕円形に近い形を呈し、内径が0.9～1.2cmになる。刀子の把元と考えられるが明らかではない。

**土錘**（第108図８・10）も２個出土しており、いずれも中央部でやや脹む管状を呈するものである。８は長さ3.4cm、最大復径1.4cmを計り、長軸に沿って径約0.3cmの貫通孔が入る。10は両端を欠いており、現存長で5.2cm、最大復径2.1cmになる。径約0.4cmの貫通孔が穿たれている。

**第11号溝**

**〔位置〕** ＧＢ50グリッドより調査区西端のＧＧ06グリッドにかけて位置する。

**〔遺構確認面〕** 遺構は耕作土直下のⅡa層の上面より確認している。掘込面は不明である。

**〔重複関係〕** 第６号溝、第７号溝、第８号溝、第９号溝、および第10号溝と重複関係にある。第６号溝、第８号溝、第９号溝、第10号溝より旧く、第７号溝より新しい。

**〔形状・方向〕** 溝の断面形はＵ字形を呈する。全体の形状は両端で未調査区に入るため不明である。溝の走行軸は南南東―北北西の方向であり、若干の蛇行はみられるもののほぼ直線的に延びている。第６号溝、第７号溝、および第８号溝の一部とほとんど直角に交わる。

なお、この溝の北端部には浅い小ピットが掘り込まれている。溝の始点、ないし結点をあらわすものであろう。

**〔規模〕** 調査区内に限定された長さは約18.1ｍとなる。上幅28～39㎝、底幅12～25㎝、検出面よりの深さ11～22㎝を測る。溝底面は所々に凸凹がみられ、絶対高では北側に高く、南側に低い傾向がみられる。

**〔堆積土〕** 堆積土は２層に細分されるが基本的には単一層としてまとめることができる。暗褐色を呈するシルト質土で、粉状の緻密な堆積状況を示す。木炭粒を少量混入する。

**〔出土遺物〕** 遺物は土器が少量出土している。器種には坏と甕とがあり、坏はＡ類（ロクロ未使用で酸化炎焼成）、甕はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すものである。Ａ類の坏は平底のもので、内外面ともヘラミガキで整えている。ＢⅠ類の甕（第107図12）は口縁部に最大径をもつ小形のもので、全面ロクロ調整されている。

## 4　方形構状遺構

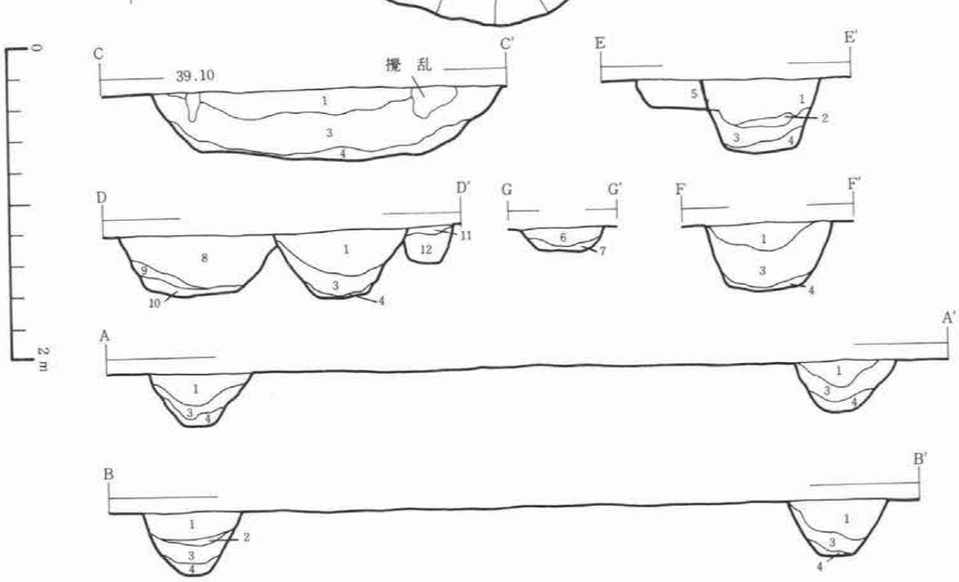
二基検出されているが独立したものではなく、一辺を共有して接続している。説明の都合上、西側のものを第１号、東側のものを第２号として、それぞれ独立させて表記する。

**第１号方形溝状遺構**

**〔位置〕** 北西隅をＧＤ50グリッドに、北東隅をＧＥ53グリッドに、南東隅をＧＦ50グリッドに、南西隅をＧＥ03グリッドにもつ。

**〔確認面〕** 遺構はⅡa層中より確認している。耕作はⅡa層上部にまで及んでおり、それを除去した面が確認面である。掘込面は不明である。

**〔平面形・長軸方向〕** 平面形は東西にやや長いが正方形を基調するものと思われる。長軸方向は東西にとってＮ―89°50′―Ｗである。溝の断面形は逆台形状を呈する。




| | 層No. | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 方形構状遺構 | 1 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | 微量の焼土粒・木炭粒を含む |
| 〃 | 2 | 褐色(10Y R4/4) | 〃 | 粒状の粗い堆積状況を示す |
| 〃 | 3 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 細砂を含みやわらかい |
| 〃 | 4 | 暗褐色(10Y R3/4) | シルト | ぼさぼさしている。 |
| No. 7 ピット | 5 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | シルト | 緻密な人為的堆積層 |
| No. 6 ピット | 6 | 〃 ( 〃 ) | 〃 | 土器を含む。人為的堆積層 |
| 〃 | 7 | 褐色(10Y R4/4) | 〃 | 焼土粒を少量含む |
| 第8号溝 | 8 | | | 第107図No. 3 層と同じ |
| 〃 | 9 | | | 〃 No. 4 層と同じ |
| 〃 | 10 | | | 〃 No. 6 層と同じ |
| 第7号溝 | 11 | | | 〃 No. 10 層と同じ |
| 〃 | 12 | | | 〃 No. 11 層と同じ |

第109図　方形溝状遺構

〔規模〕　東西の軸長は溝外縁で559cm、溝内縁で417cmとなり、南北の軸長は溝外縁で518cm溝内縁で381cmとなる。全体の面積は約28.85m²、平場の面積は約15.89m²である。溝の上幅は東溝で53～69cm、西溝が70～84cm、南溝64～75cm、北溝67～81cm、底幅は東溝で13～28cm、西溝が27～52cm、南溝33～47cm、北溝21～36cmを計る。

溝の深さは東溝で36～40cm、西溝が35～40cm、南溝39～43cm、北溝33～38cmとなり、底面の絶対高では、北東隅のやや高くなる部分を除いてほぼ一定している。

〔堆積土〕　3層に分けられる。上層はにぶい黄褐色のシルト層で、微量の焼土粒・木炭粒を含む。中層は褐色のシルト層で、上層に比べてやや粒子が粗い。混入物はみられない。下層は褐色のシルト層で、やや砂分が強い。細砂・地山粒を含む。

〔併存施設〕　平場内よりは何らの遺構も検出されていない。

〔出土遺物〕　出土遺物には土器と鉄製品とがある。土器は坏と甕で構成され、坏はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）とＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）、甕はＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）とに類別される。坏はほとんどが口縁部の細片であり、全体の器形は不明である。ただＢⅠ類の底部片が1片出土しており、外面に手持ちヘラケズリを施している。ＢⅠ類の甕は口縁部に最大径をもつ小形のものであり、ＢⅡ類の甕は外面に平行叩き目文をもつ体部片で、肩の張り出す大形のものである。

**鉄製品**（第108図1）　細長い棒状を呈するもので、角釘と思われる。現存長で3.8cmを計る。

**第2号方形溝状遺構**

〔位置〕　北西隅をＣＥ53グリッド、北東隅をＧＥ56グリッド、南東隅をＧＦ53グリッド、南西隅をＧＦ50グリッドにもつ。

〔確認面〕　第1号方形溝状遺構と同様である。

〔平面形・方向〕　平面形は隅丸の正方形を呈する。方向は、東西にとれば第1号方形溝状遺構と同様である。溝の断面形はＵ字形に近い形となる。

〔規模〕　東西の軸長は溝外縁で478cm、溝内縁で351cmとなり、南北の軸長は溝外縁で478cm、溝内縁で348cmとなる。全体の面積は約22.85m²、平場の面積は約12.21m²である。

溝の上幅は東溝で64～79cm、西溝が53～69cm、南溝56～66cm、北溝56～69cm、底幅は東溝で21～34cm、西溝が13～28cm、南溝15～26cm、北溝14～29cmを計る。

溝の深さは東溝で30～34cm、西溝が36～40cm、南溝30～32cm、北溝30～34cmとなり、底面の絶対高では、西溝（第1号方形溝の東壁）を除いてほぼ一定している。

〔堆積土〕　堆積土は第1号方形溝のそれと共通する。

〔併存施設〕　平場内において併存する遺構はまったく検出されていない。

**〔出土遺物〕** 出土遺物には土器と鉄製品とがあり、土器の器種は坏と甕がある。坏はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）とＢII類（ロクロ使用で還元炎焼成）、甕はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に類別される。坏はいずれも体部の細片で分類不能である。ＢＩ類の甕は小形のものの底部片で、糸切り痕をそのまま残している。

**鉄製品**（第108図２・３）は２点出土している。２は断面形が長方形を呈する細長い棒状のものである。現存長で4.2cm、幅1.2cm、厚さ0.8cmを計る。性格は不明。３は角釘である。やや弯曲しているが現存長で3.5cmになる。

## 5　ピット類

ピットは合計９個検出されている。これらは規模・形態にかなりのばらつきがみられる。ただ、位置・形態・堆積土の状況などからは、No.４ピットとNo.５ピット、およびNo.６ピットとNo.７ピットとは共通点がみられ、直接的な根拠には欠けるものの墓壙としての機能が推定される。また、No.２ピットとNo.３ピットは焼土遺構に近接して位置し、堆積土に多量の焼土を含むことからみて、それぞれに有能的な関連を有するものと思われる。以下、個別ごとに記述する。

**No.１ピット**（ＣＨ50ピット）

**〔位置〕** ＣＨ50グリッドとＣＩ50グリッドにかけて位置する。

**〔確認面〕** IIa層を若干掘り下げて遺構の存在を確認している。掘込面はIIa層の上面である。

**〔形状・大きさ〕** 平面形はほぼ円形で、203×192cmの大きさと41cmの深さを測る。底面は平坦で、壁はゆるやかに立ちあがる。

**〔使用痕跡〕** 埋土上部に２層に分けられる焼土面をもつ。壁の上部も部分的に焼けている。壁の下部・底面は焼けていない。

**〔堆積土〕** ３層に分けられ、第１層の褐色シルト層より焼土・木炭・土器を多量に出土する。第２～第３層はにぶい黄褐色のシルト層で、混入物はほとんどみられない。

**〔出土遺物〕** 遺物は土器に限られ、ＢＩ類の坏（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）の体部片が２片出土している。図化不能である。

**No.２ピット**（ＦＡ56－１ピット）

**〔位置〕** ＦＡ56グリッド内に位置し、No.３ピット、ＦＡ56焼土遺構と近接している。

**〔確認面〕** IIa層を若干掘り下げて遺構の存在を確認している。

**〔形状・大きさ〕** 一部破壊されているが、残存状況より平面形は円形を呈するものと考えら

れる。現存値で大きさは42×39cmで深さ32cmである。断面形はU字形となる。

**〔堆積土〕** 3層に分けられ、第2層のにぶい黄褐色シルト層に焼土・土器がかなり含まれる。第1層、第3層には含有物が認められない。すべて自然堆積層である。

**〔出土遺物〕** BI類の坏（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）の底部片が出土している。体部下端より底部全面に手持ちヘラケズリが施されている。図化不能である。

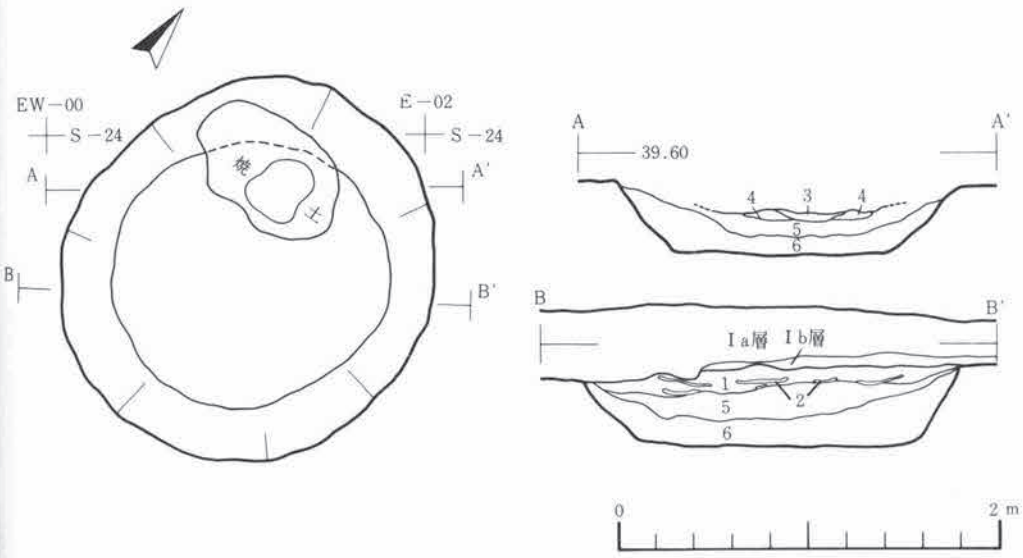
**No.3 ピット**（FA56－2ピット）

**〔位置〕** FA56グリッド内に位置し、No.2ピット・FA56焼土遺構と近接している。

**〔確認面〕** IIa層を若干掘り下げて確認しているが掘り込み面はIIa層の上面である。

**〔形状・大きさ〕** 平面形は楕円形となる。大きさは111×81cmで、深さは36cmある。底面は平坦で、壁はゆるやかではあるが、直線的に立ちあがる。断面形は逆台形状を呈する。

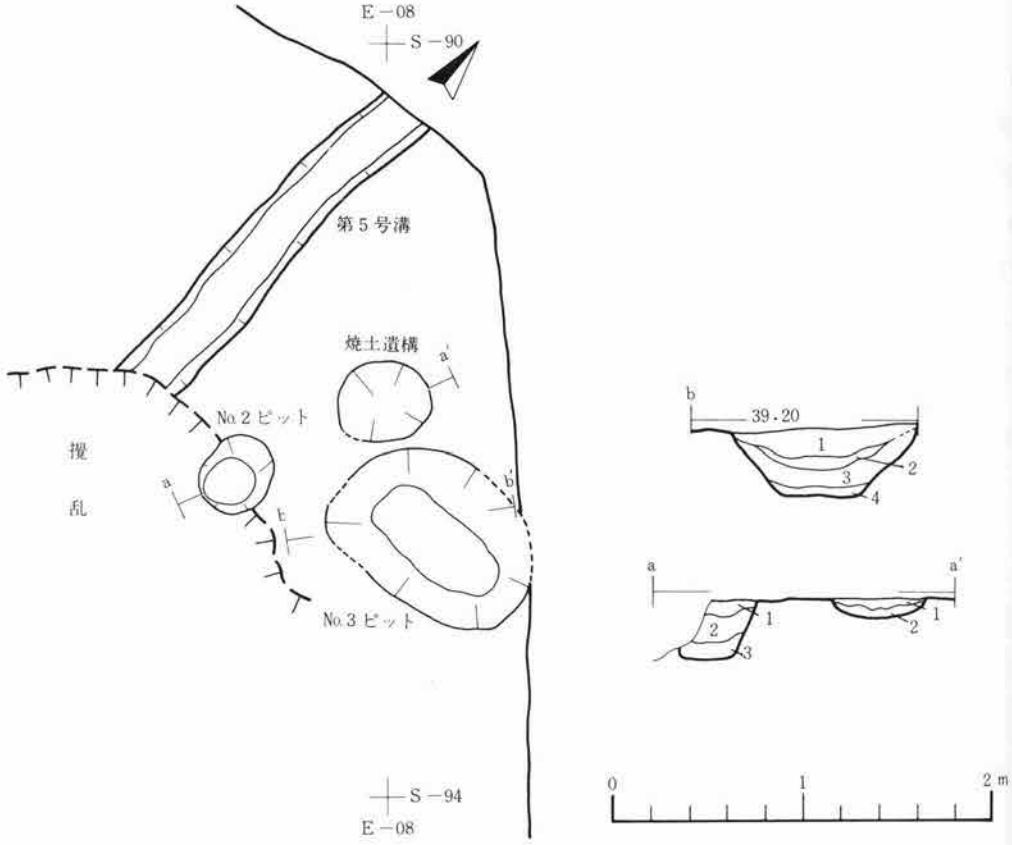
**〔堆積土〕** 堆積土は4層に細分されるが、すべての層に多量の焼土粒・木炭片を含む。




| | 層No. | 土色 | 土性 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| No.1ピット | 1 | 褐色(10YR4/4) | シルト | 多量の木炭と焼土粒を含む |
| | 2 | | | 木炭の集積層 |
| | 3 | 暗赤褐色(2.5YR3/6) | シルト | かたい焼土 |
| | 4 | 褐色(10YR4/4) | 〃 | 焼土粒をかなり含む、かたい |
| | 5 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 〃 | |
| | 6 | 〃 (10YR5/3) | 〃 | 細砂を含む |

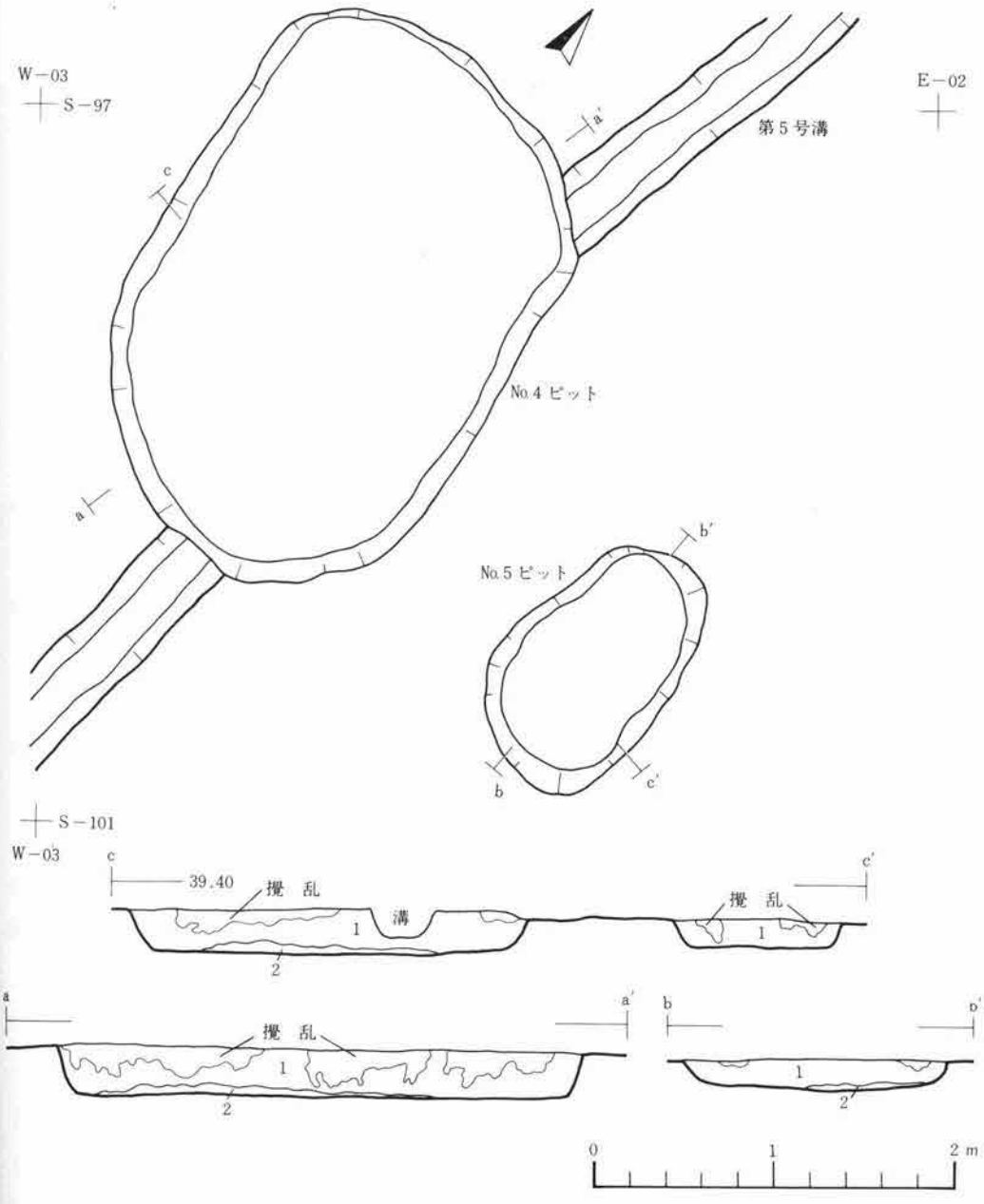
第110図 No.1ピット

〔出土遺物〕　当ピットの出土遺物には土器と鉄製品とがある。土器は坏・甕・鉢などの器種に分けられる。坏にはＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）（第113図１）とＢII類(ロクロ使用で還元炎焼成)（第113図２）とがあり、底部片はいずれも回転糸切り無調整のものである。甕はＢＩ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属し、口縁部に最大径をもつ大形のもの（第




| | 層No. | 土　　色 | 土　性 | そ　の　他 |
|---|---|---|---|---|
| No.２ピット | 1 | 褐　　色(10Y R4/4) | シ　ル　ト | |
| | 2 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 〃 | 焼土粒・木炭粒をかなり含む |
| | 3 | 〃　色(10Y R5/3) | 〃 | |
| No.３ピット | 1 | 褐　　色(10Y R4/4) | シ　ル　ト | 焼土粒・木炭粒を多く含む |
| | 2 | 灰 黄 褐 色(10Y R4/2) | 粘土質シルト | 灰・木炭片を含む |
| | 3 | 〃　(10Y R5/2) | 〃 | 〃 |
| | 4 | にぶい黄褐色(10Y R4/3) | 砂質シルト | 細砂・焼土粒を含む |
| 焼土遺構 | 1 | 明 赤 褐 色(2.5Y R5/6) | シ　ル　ト | 焼土（かたい） |
| | 2 | 赤　褐　色(2.5Y R4/6) | 〃 | 焼土 |

第111図 No.２・No.３ピット、焼土遺構




| | 層No. | 土　　色 | 土　性 | そ　の　他 |
|---|---|---|---|---|
| No.4 ピット | 1 | にぶい黄褐色(10Y R5/3) | シ　ル　ト | 地山土と褐色土の塊状混合土 |
| | 2 | 暗　褐　色(10Y R3/4) | 〃 | |
| No.5 ピット | 1 | にぶい黄褐色(10Y R5/3) | シ　ル　ト | 地山土と褐色土の塊状混合土 |
| | 2 | 暗　褐　色(10Y R3/4) | 〃 | |

第112図　No.4 ・No.5 ピット

113図４）である。鉢もＢＩ類のもので、内面にはヘラミガキを施して黒色処理を加えている（第113図３）。

**鉄製品**（第108図13）は、刀子である。刃部端を欠くが、現存長で15.2cmを測る大形のものである。茎は先端に向かって徐々に細くなるもので、断面形は方形を呈する。刃部は最大幅が1.3cmとなり、背は0.5cmの幅で平坦になっている。

**No.4 ピット**（ＦＣ03ピット）

**〔位置〕** ＦＣ03グリッド内に位置する。

**〔確認面〕** 耕作土直下のⅡa層中より確認している。Ⅱa層の上部にまで耕作が及んでおり、掘込面は不明である。

**〔重複〕** 第５号溝と重複関係にあり、上部を溝によって切られている。第５号溝より旧い。

**〔形状・大きさ〕** 平面形は楕円形となる。大きさは約311×211cmで、深さは27cmである。底面は平坦で、壁の立ち上がり角度はきつい。

**〔堆積土〕** 床面上に薄く堆積する暗褐色のシルト層を除き上部はすべて地山土と褐色シルト質土の塊状混合土である。人為的に埋め戻したものと思われる。

**〔出土遺物〕** 遺物はまったく出土していない。

**No.5 ピット**（ＦＤ03ピット）

**〔位置〕** ＦＤ03グリッドとＦＤ50グリッドにまたがって位置する。

**〔確認面〕** 耕作土直下のⅡa層中より確認している。Ⅱa層の上面は耕作土になっている。

**〔形状・大きさ〕** 平面形は楕円形を呈する。大きさは146×91cmで、深さは15cmである。底面は平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。

**〔堆積土〕** No.4 ピットと同様に人為的堆積層である。地山土と褐色シルト質土の塊状混合土が充填する。

**〔出土遺物〕** Ａ類（ロクロ未使用で酸化炎焼成）に属す甕の破片（第113図６）が１点出土している。口縁部のみで、全体の器形は不明である。

**土錘**（第108図14）も１個出土しており、長さ5.9cm、最大復径2.1cmを計る。長軸に沿って中央部には径約0.3cmの貫通孔が穿たれている。

**No.6 ピット**（ＧＥ03―１ピット）

**〔位置〕** ＧＥ03グリッド内に位置する。

**〔確認面〕** 遺構はⅡa層中より確認している。耕作はⅡa層の上部にまで及んでおり、それを

除去した面が確認面である。

〔形状・大きさ〕　平面形は円形である。大きさは56×54cmで、深さは15cmである。底面はほぼ平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。

〔堆積土〕　2層に分けられ、上層のにぶい黄褐色シルト層は地山土と褐色土の魂状混合土である。下層の褐色シルト層は地山土と細砂を塊状に混入し、少量の焼土粒を含む。

〔出土遺物〕　B I 類（ロクロ使用で酸化炎焼成）の甕（第113図8）が倒位の状態でおしつぶされて出土している。口縁部は短く外反し、口唇部は上方へ弱く挽き出している。体部はほとんど脹まず直線的に底部へと移行する。器面調整は体部下半外面にヘラケズリ、体部内面にヘラナデを施している。

**No.7 ピット**（GE03—2ピット）

〔位置〕　GE03グリッドとGE50グリッドにまたがって位置する。

〔確認面〕　遺構はIIa層中より確認している。耕作はIIa層の上部にまで及んでおり、これを除去した面が遺構の確認面である。

〔重複〕　第1方形溝状遺構と重複関係にある。このピットは方形溝状遺構よりも旧い。

〔形状・大きさ〕　平面形はほぼ円形である。大きさは116×107cmで、深さは20cmとなる。底面は平坦で壁はゆるやかに立ち上がる。

〔堆積土〕　堆積土は暗褐色シルト質土と地山土が塊状に混入した人為的堆積層である。

〔出土遺物〕　B I 類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属す壺の破片（第113図7）が1点出土している。口縁部は短く外反し、口唇部は上方へ挽き出している。体部はほぼ球形を呈し、中央付近に最大径をもつ。体部下半外面にヘラケズリが施されている。

**No.8 ピット**（GG56ピット）

〔位置〕　GG56グリッドとGH56グリッドにまたがって位置する。

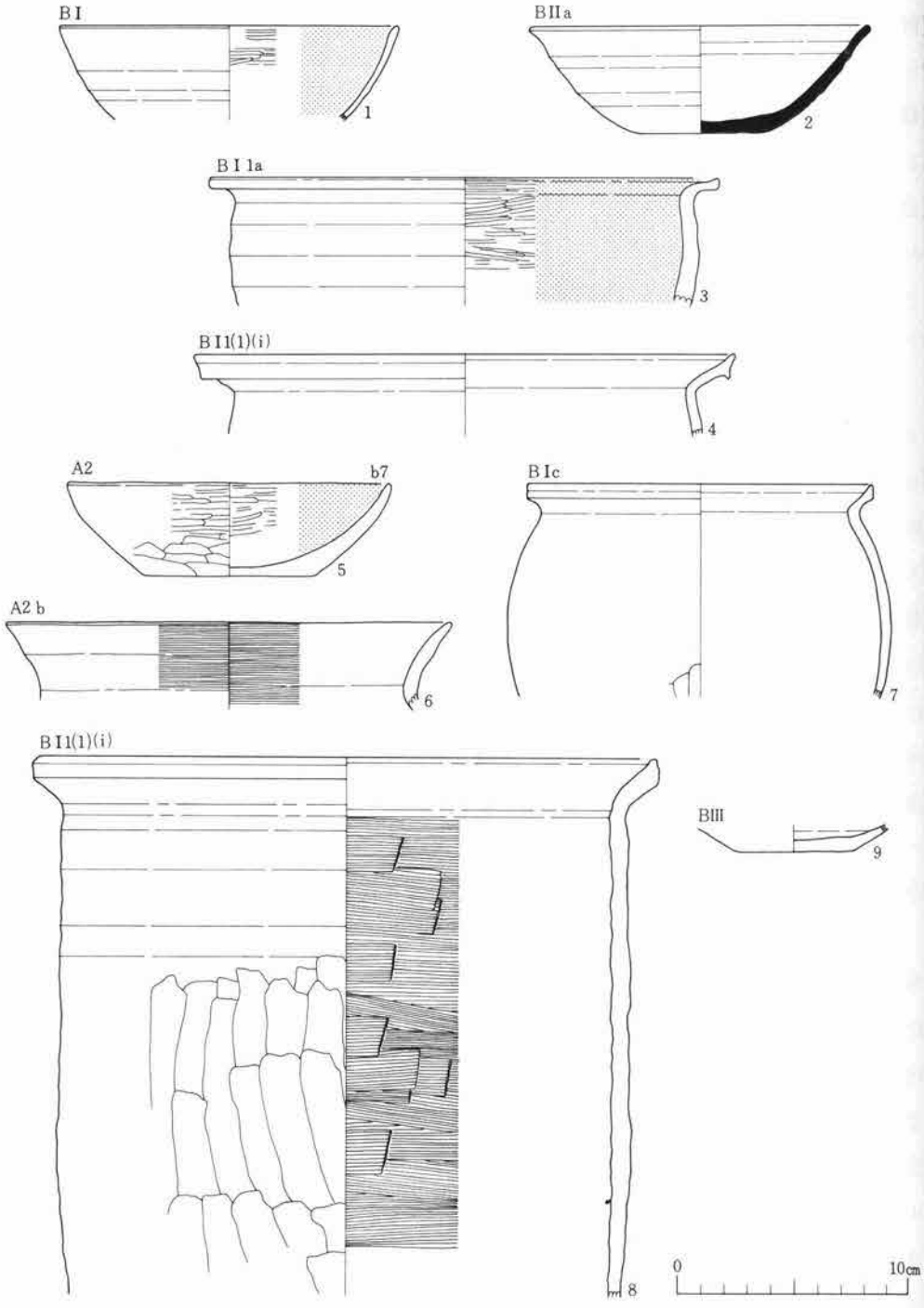
〔確認面〕　耕作土を除去した面であるIIa層中より確認している。

〔重複〕　第10号溝と重複関係にある。このピットは第10号溝に切られている。

〔形状・大きさ〕　平面形は円形となる。大きさは171×180cmで、深さは46cmである。底面は平坦で壁はゆるやかに立ち上がる。断面形は逆台形状を呈する。

〔堆積土〕　堆積土は3層に分けられる。上層は暗褐色のシルト層、中層が褐色のシルト層となり、混入物はみられない。下層はにぶい黄褐色の粘土質シルト層で焼土粒・木炭粒をかなり含む。

〔出土遺物〕　土器が少量出土している。器種には坏と甕があり、坏はB III類（ロクロ使用で




第113図　ピット出土遺物

酸化炎焼成)(第113図９)、甕はＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）に類別される。すべて細片のため詳細は不明である。

**焼土遺構**

**ＦＡ50焼土遺構**

**〔位置〕**　ＦＡ50グリッドに位置し、№２ピット・№３ピットと近接している。

**〔確認面〕**　Ⅱa層の上面より確認している。

**〔形状・大きさ〕**　平面形は円形となる。大きさは48×43cmで、厚さは７cmある。断面は浅い皿状を呈する。

**〔出土遺物〕**　遺物はまったく出土していない。

**第16号住居跡ピット10**

**〔出土遺物〕**　出土遺物は土器に限られる。器種には坏と甕とがあり、ともにＡ類（ロクロ未使用で酸化炎焼成）とＢⅡ類（ロクロ使用で還元炎焼成）とに類別される。Ａ類の坏(第113図５）は平底のもので、器高が低くて底径が小さく、体部がやや丸味をもって外傾するものである。器面は内外ともヘラミガキで整えており、体部下半から底部にかけては外面にヘラケズリが認められる。ＢⅡ類の坏はヘラ切り無調整のものである。Ａ類の甕は肩部に段を有する大形のもので、ＢⅡ類の甕は体部の少片のため全体の器形は不明である。

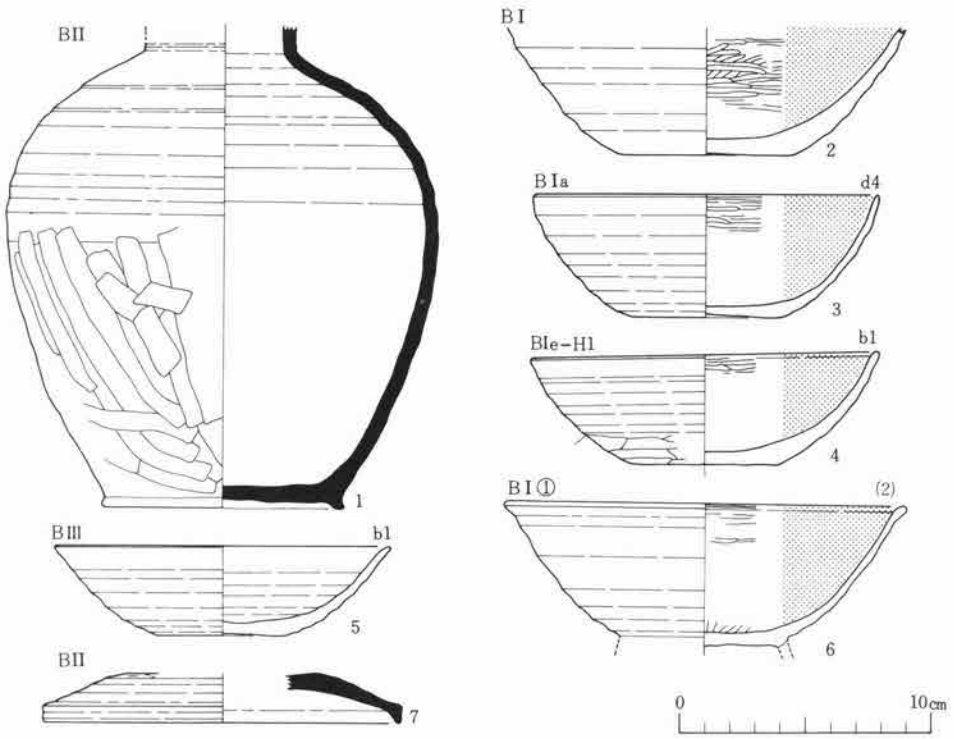
## 6　遺構に伴わない出土遺物（第114・115図）

遺構に伴わない出土遺物には土器と鉄製品があり、土器には坏・高台付坏・壺・鉢・蓋などの器種がある。いずれも粗掘中に発見されたものである。

**坏形土器**（第114図３～５）　坏には、ＢⅠ類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理）に属するものとＢⅢ類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属するものとがある。

**〈坏ＢⅠ類〉**（３・４）　回転糸切り無調整のもの（ＢⅠa類)(3)と再調整のため底部の切り離し手法が不明のもの（ＢⅠe類)(4)とがある。３はＦＡ59グリッドより出土したもので、底径が小さく、体部がかなり丸味をもって立ちあがるものである。４は体部下端より底部全面に手持ちヘラケズリを施すもの（$H_1$手法）である。器高が低くて底径が小さく、体部はややふくらみをもって外傾する。ＦＤ56グリッドより出土している。

**〈坏ＢⅢ類〉**（５）　ＧＥ50グリッドより出土したもので、器高が低くて底径が小さく、体部




第114図　遺構に伴わない出土遺物（1）

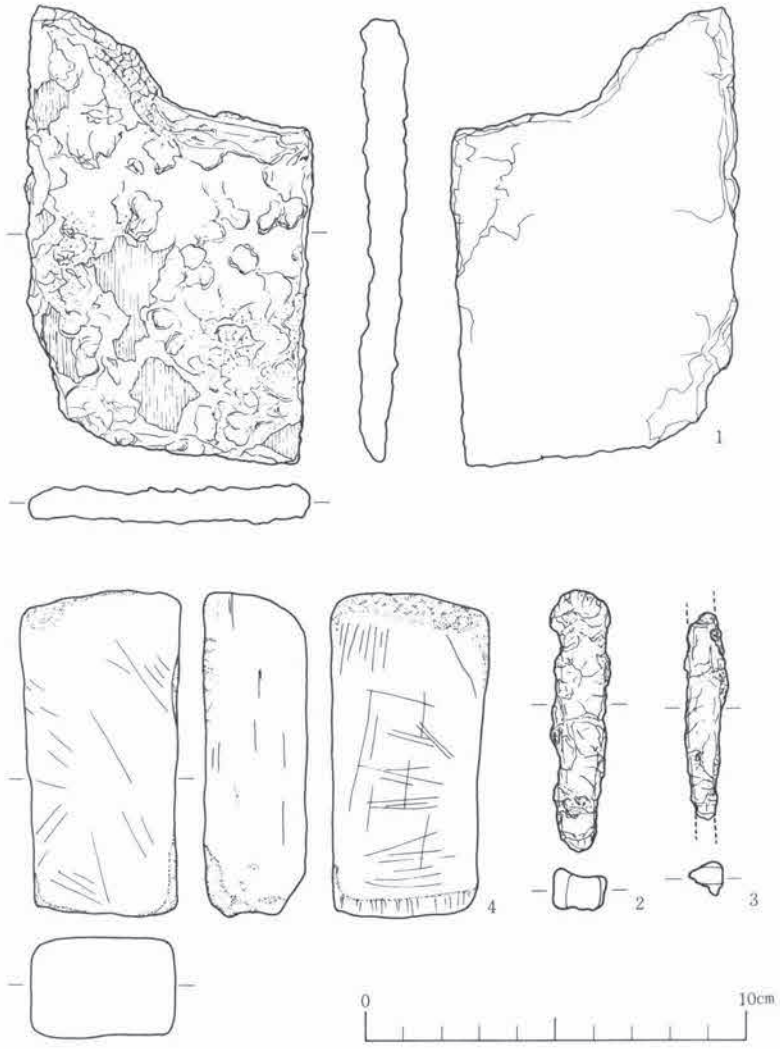
ややふくらみをもって外傾する。

**高台付坏形土器**（第114図6）　BI類（ロクロ使用で酸化炎焼成＋黒色処理)に類別される。高台部の形状は不明であるが、底部に菊花状のヘラ刻みを施し、周縁をロクロ調整するもの(BI①類）である。坏部は器高がやや高くて底径が小さく、体部はややふくらみをもって外傾するFD56グリッドより出土している。

**壺形土器**（第114図1）　BII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すもので、BH03グリッドより出土している。出土地点の周囲には土器が点在し、若干の焼土が発見されている。そのため、何らかの遺構の存在を予想して精査したが明確な遺構を検出できなかった。器種は長頸の壺で、頸部から口縁部は欠損している。体部下半から底部にかけては外面にヘラケズリが施され、底部には小さな台を付けて周縁をロクロ調整している。

**鉢形土器**（第114図2）　BI類（ロクロ使用で酸化炎焼成）に属すもので、CE03グリッドより出土している。体部下半から底部にかけての破片である。内面にはヘラミガキを施し、黒色処理を加えている。底部外面には右回転糸切り痕をそのまま残す。

**蓋形土器**（第114図7）　BII類（ロクロ使用で還元炎焼成）に属すもので、GE53グリッドより出土している。天井部からほぼ直線的に口縁部へ至り、口縁部は直角に折り曲げている。




第115図　遺構に伴わない出土遺物（２）

つまみの部分は欠損しており、不明である。天井部の上端は回転ヘラケズリで調整されている。

**鉄製品**（第115図１～３）　１は方形に近い大形の板状のものである。長さ・幅・厚さはそれぞれ、約10.5cm・7.4cm・1.0cmを測る。４面とも加工痕はみられず、鉄鋌とも考えられるが明らかではない。出土地は不明である。２は角釘の完形品である。長さは6.9cmで、厚さはかなり太く、１cm内外を計る。３は小形の刀子の刃部片である。現存長で5.5cm、刃部幅0.9cmとなり、背は平坦になっており幅0.4cmを計る。

**砥石**（第115図４）　平面形、断面形とも長方形を呈する整ったもので、４面に使用痕がみられる。石質は細粒凝灰岩である。

## 図示遺物観察表　第3表　土　器　観　察　表

第4表　鉄製品・土製品・石製品観察表

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1号住居跡 | 坏 | 第8図1 | BIC−H3 | Pit9 第3層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色(ごく一部) | 砂若干混入<br>かすかに粗 | だいぶ軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 口径〔14.4〕<br>器高 4.4 | 底径〔5.7〕<br>脚高 | 頸径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第8図2 | BIC−H5 | 第3層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔13.0〕<br>4.9 | 〔5.2〕 | | |
| | 坏 | 第8図3 | BIa | 第3層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | <br>( 2.7) | 5.4 | | |
| | 坏 | 第8図4 | BIa | カマド内 | ほぼ完形 | 内→褐灰色<br>外→明褐灰色、黒色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | かすかに硬 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 13.3<br>4.5 | 5.4 | | 図版118 1 |
| | 坏 | 第8図5 | BIa | Pit 10 | 3/4 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒 | 砂微量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.5<br>5.0 | 5.6 | | 図版118 2 |
| | 坏 | 第8図6 | BIa | 第3層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〔13.7〕<br>5.0 | 5.6 | | 図版118 3 |
| | 坏 | 第8図7 | BI | Pit 10 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〔13.1〕<br>( 4.0) | | | |
| | 坏 | 第8図8 | BI | Pit10 中層 | 1/5 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | 〃 | 〔14.9〕<br>( 5.0) | | | |
| | 坏 | 第8図9 | BIa | 第3層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂微量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 〔15.3〕<br>5.4 | 6.2 | | |
| | 坏 | 第8図10 | BIa | Pit 8 | ほぼ完形 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂少々多め混入<br>かすかに粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.3<br>5.4 | 6.0 | | 図版118 4 |
| | 坏 | 第8図11 | BIa | Pit 10 | 4/5 | 内→黒色<br>外→にぶい褐色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.0<br>5.6 | 6.2 | | 図版118 5 |
| | 坏 | 第8図12 | BIa | カマド周辺右側 | 1/3 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂少々多め混入<br>普 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.0〕<br>4.9 | 〔5.9〕 | | |
| | 坏 | 第8図13 | BIa | カマド周辺中央 | 1/2 | 内→黒色、にぶい橙色<br>外→浅黄橙 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.1〕<br>5.4 | 6.9 | | |
| | 坏 | 第8図14 | BIa | カマド周辺中央 | 1/2 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂多め混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.5〕<br>4.3 | 〔6.1〕 | | |
| | 坏 | 第8図15 | BIa | 第3層 | 1/4 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.2〕<br>4.2 | 〔6.1〕 | | |
| | 坏 | 第8図16 | BI | Pit 10 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい褐色、黒色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 墨書有り<br>ヘラナデ | 〃 | | | 〔13.4〕<br>( 4.6) | | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値（cm） 〔 〕現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1号住居跡 | 坏 | 第8図17 | BIa | カマド周辺左側 | 1/3 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 口径〔13.5〕<br>器高 4.5 | 底径〔 6.4〕<br>脚高 | 類径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第8図18 | BI | Pit 10 | 1/6 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.7〕<br>4.4 | 〔 6.6〕 | | |
| | 坏 | 第9図1 | BIC−H1 | カマド周辺右側 | 3/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂ほとんど無<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔15.1〕<br>4.6 | 4.4 | | 図版11 18 |
| | 坏 | 第9図2 | BIC−H1 | 第3層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔16.6〕<br>5.2 | | | |
| | 坏 | 第9図3 | BIa | 上層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 〔 4.0〕 | 7.2 | | |
| | 高台付坏 | 第9図4 | BI1①−M | 第2層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂微量混入<br>普 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 菊花状のヘラ調み | 〃 | 〔 3.4〕 | 〔 6.7〕<br>1.4 | 高台径〔7.6〕 | |
| | 高台付坏 | 第9図5 | BI2①−M | Pit 7 第1~2層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂微量混入<br>普 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔16.9〕<br>〔 3.4〕 | 〔 8.0〕<br>1.4 | 高台径〔6.7〕 | |
| | 坏 | 第9図6 | BII | Pit 3 | 1/10 | 内→オリーブ灰色<br>外→オリーブ灰色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | | | 〔14.4〕<br>〔 2.4〕 | | | |
| | 坏 | 第9図7 | BIII | Pit 2 | 1/3 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 〔13.1〕<br>〔 3.7〕 | 〔 5.9〕 | | |
| | 坏 | 第9図8 | BIII | Pit 7 | 完形 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | 若干軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.0<br>3.6 | 5.9 | | 図版6 18 |
| | 坏 | 第9図9 | BIII | Pit10中層 | 1/2 | 内→橙色、浅黄橙<br>外→橙色、灰白色 | 砂若干混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.0〕<br>3.9 | 3.7 | | 図版7 18 |
| | 坏 | 第9図10 | BIII | Pit10中層 | 完形 | 内→浅黄橙色、明褐灰色<br>外→橙色、灰白色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.8<br>3.6 | 5.7 | | 図版8 18 |
| | 坏 | 第9図11 | BIII | Pit10上層 | 3/4 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂微量混入<br>やや密 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.5<br>3.7 | 5.5 | | 図版9 18 |
| | 坏 | 第9図12 | BIII | カマド周辺左側 | 1/3 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔 2.2〕 | 4.7 | | |
| | 坏 | 第9図13 | BIII | 中層 | 1/2 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂多め混入<br>だいぶ粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔 3.0〕 | 6.0 | | |
| | 坏 | 第9図14 | BIII | カマド周辺左側 | 1/6 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂微量混入<br>普 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔14.9〕<br>〔 4.4〕 | | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 調整 体部下半 外 | 調整 体部下半 内 | 調整 底部 外 | 調整 底部 内 | 法量 ( )復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1号住居跡 | 坏 | 第9図15 | BⅢ | 第2層 | 1/4 | 内→にぶい橙色<br>外→浅黄橙色、にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 口径(12.9)<br>器高 4.1 | 底径(4.5)<br>脚高 | 類径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第9図16 | BⅢ | 第3層 | 1/4 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂少々多め混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | (13.0)<br>4.3 | (5.7) | | |
| | 坏 | 第9図17 | BⅢ | 上層 | 1/2 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂僅量混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | (12.6)<br>4.6 | 5.2 | | 図版10 18 |
| | 坏 | 第9図18 | BⅢ | Pit10 中層 | 完形 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.8<br>5.0 | 5.0 | | 図版12 18 |
| | 高台付坏 | 第9図19 | BⅢ2②、 | Pit10 上層 | 1/5 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂干若混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ナデ | 〃 | ( 2.1) | 6.2<br>1.4 | 高台径 7.8 | |
| | 高台付坏 | 第9図20 | BⅢ3② | 第2層 | 1/6 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂僅量混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ナデ | 〃 | ( 2.7) | 7.0<br>(2.4) | 高台径(8.9) | |
| | 高台付坏 | 第9図21 | BⅢ2② | カマド周辺右側 | 1/2 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ナデ | 〃 | ( 4.9) | 6.2<br>1.6 | 高台径 7.6 | 図14 版左 18(1) |
| | 鉢 | 第10図1 | BⅠ3 | 第2層 | 1/10 | 内→淡橙色<br>外→淡橙色 | 砂若干混入<br>普 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | (14.6)<br>( 9.8) | | (12.2)<br>(12.2) | |
| | 鉢 | 第10図2 | BⅠ3 | カマド周辺右側 | 1/10 | 内→明褐灰色<br>外→にぶい褐色 | 砂少々多め混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | (13.8)<br>( 7.6) | | 11.8<br>11.7 | |
| | 鉢 | 第10図3 | BⅠ2 | 第2層 | 1/8 | 内→にぶい橙色、褐色<br>外→橙色 | 砂僅量混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | (18.8)<br>( 6.4) | | (12.3)<br>(13.4) | 図版14 18下 |
| | 甕 | 第10図4 | BⅠ2(1) | 第3層 | 1/10 | 内→灰白色、灰褐色<br>外→にぶい褐色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | (16.8)<br>( 5.2) | | (14.8) | 図14 版右 18(1) |
| | 甕 | 第10図5 | BⅠ1(1) | 上層 | 1/10 | 内→浅黄橙色、褐灰色<br>外→浅黄橙色 | 砂少々多め混入<br>かすかに粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | 19.7]<br>( 8.6) | | (18.1]<br>(19.0] | 図14 版右 18(2) |
| | 甕 | 第10図6 | BⅠ1(2) | カマド周辺中央 | 1/10 | 内→にぶい橙色<br>外→浅黄橙色、にぶい褐色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | (18.4]<br>( 7.9) | | (16.0] | 図版13 18中 |
| | 甕 | 第10図7 | BⅠ1(2) | カマド内 | 1/10 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | (20.0]<br>(11.3) | | (17.9] | 図版13 18上 |
| | 甕 | 第10図8 | BⅠ2(1) | カマド内 | 1/3 | 内→にぶい褐色<br>外→にぶい褐色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | かすかに硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | | | 14.3]<br>(13.1) | | 12.1<br>14.0 | 図版16 18 |
| | 甕 | 第10図9 | BⅠ2(1) | カマド周辺右側 | 1/3 | 内→灰白色<br>外→淡赤橙色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | (10.8) | 7.3 | (13.3] | 図版15 18 |

## 第4表　鉄製品・土製品・石製品観察表

### 鉄　製　品

| 実測図番号 | 出土遺構図 | 器種（推定したものを含む） | 測定値 長さcm | 巾cm | 厚さcm | 横断面形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図 12 | 第2号　住居跡 | 鎌 | 9.5 | 2.5 | 0.8 | 二等辺三角形 | 一方の先端を欠く |
| 第21図 9 | 第5号　住居跡 | 鎌 | 5.7 | 1.7 | 0.3 | 長方形 | |
| 〃 10 | 〃 | 刀子 | 26.2 | 関1.2 茎11.5 中央1.5 | 背 0.5 | 二等辺三角形 | 刃部端をほんの少し欠くがほぼ完形 |
| 第26図 11 | 第7号　住居跡 | 不明 | 9.7 | 1.9 | 0.4 | 円形 | 細長い棒状（U字形） |
| 〃 12 | 〃 | 釘 | 2.7 | 0.5 | 0.5 | 正方形 | |
| 〃 13 | 〃 | 刀子 | 2.8 | 1.0 | 0.4 | 二等辺三角形 | 両端を欠く |
| 第32図 1 | 第9号　住居跡 | 刀子 | 17.6 | 茎1.0～1.6 身1.3～2.0 関1.5 | 0.6 | 二等辺三角形 | 茎と身の一部を欠く |
| 〃 2 | 〃 | 鏃 | 14.9 | 0.6 | 0.6 | 正方形 | 一方の先端を欠く |
| 〃 3 | 〃 | 不明 | 5.5 | 0.8 | 0.6 | 長方形 | 細長い板状一方の先端欠く |
| 第35図 11 | 第10号　住居跡 | 刀子 | 4.4 | 身1.0 茎0.8 | 0.6 | 二等辺三角形 | 茎と身の一部を欠く |
| 〃 12 | 〃 | 釘 | 3.8 | 1.0 | 1.1 | 正方形 | 破片 |
| 〃 13 | 〃 | 釘 | 2.9 | 0.6 | 0.4 | 正方形 | 破片 |
| 第40図 1 | 第11号　住居跡 | 刀子 | 9.2 | 1.5 | 0.4 | 二等辺三角形 | |
| 〃 2 | 〃 | 刀子 | 9.6 | 身中央 0.8 | 0.4 | 二等辺三角形 | 茎と身の一部欠く |
| 〃 3 | 〃 | 釘 | 5.1 | 0.7 | 0.6 | 正方形 | 両端を欠く |
| 〃 4 | 〃 | 釘 | 3.6 | 0.6 | 0.6 | 正方形 | 一方の先端を欠く |
| 〃 5 | 〃 | 飾金具 | 2.5 | 2.4 | 1.3 | 長方形 | 方形の立方体 |
| 〃 6 | 〃 | 釘 | 3.3 | 0.6 | 0.4 | 正方形 | 一方の先端を欠く |
| 〃 7 | 〃 | 不明 | 1.3 | 1.1 | 0.7 | 楕円形 | 一方の先端を欠く |
| 第45図 1 | 第12号　住居跡 | 刀子 | 9.2 | 1.5 | 背 0.6 | 二等辺三角形 | 茎部、刃部の一部を欠く |
| 第53図 4 | 第13号　住居跡 | 刀子 | 9.3 | 1.7 | 0.9 | 二等辺三角形 | 両端を欠く |
| 〃 5 | 〃 | 刀子 | 9.9 | 1.2 | 背 0.7 | 二等辺三角形 | 茎、刃部端の両端を欠く |
| 〃 6 | 〃 | 釘 | 3.6 | 0.8 | 0,6 | 正方形 | 両端を欠く |
| 〃 7 | 〃 | 鉄鏃 | 峰3.2 篦被1.6 | 峰 2.7 | 篦被 0.4 | 身→菱形　篦被→正方形 | 峰の先端、両腸扶部の先端茎の大半を欠く |
| 第55図 10 | 第14号　住居跡 | 不明 | 8.6 | 上部 2.1 中央 1.0 | 上部0.5中央1.0 | 上部長方形　中央円形 | |
| 第58図 8 | 第15号　住居跡 | 刀子 | 2.4 | 1.0 | 背 0.4 | 二等辺三角形 | 刃部端を欠 |
| 〃 9 | 〃 | 刀子 | 20.9 | 関 1.3 刃部0.6～1.4 | 背 0.4 | 二等辺三角形 | 刀子の身の一部、両端を欠く |
| 第62図 | 第17号　住居跡 | 紡錘車の円盤部 | | 直径 5.6 | 0.4 | 長楕円形 | |
| 第68図 1 | 第18号　住居跡 | 鋤の刃先 | 13.1 | 3.1 | 1.1 | 二等辺三角形 | |
| 〃 2 | 〃 | 刀子 | 15.0 | 茎1.0～2.2 関2.2 中央2.9 | 0.6 | 二等辺三角形 | 刃部の一部欠く |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1号住居跡 | 甕 | 第10図10 | BI2(1) | 第2層 | 1/10 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色、にぶい橙 | 砂若干混入<br>やや粗 | だいぶ軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 口径〔13.7〕<br>器高( 7.6) | 底径<br>脚高 | 頸径〔12.6〕<br>胴径〔13.3〕 | |
| | 甕 | 第10図11 | BI2 | 第2層 | 1/10 | 内→淡橙色<br>外→淡橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | | | | | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | ( 3.2) | 5.8 | | |
| | 甕 | 第10図12 | BI2 | カマド周辺左側 | 1/10 | 内→にぶい褐色<br>外→にぶい褐色 | 砂多め混入<br>かすかに粗 | やや軟 | | | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 7.0 | 〔7.3〕 | | |
| | 甕 | 第11図1 | BII | 第3層 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | | | 〔19.0〕<br>( 2.3) | | | |
| | 甕 | 第11図2 | BII | 第3層 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | | | | | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ( 4.2) | 〔12.7〕 | | |
| | 甕 | 第11図3 | BI1(1)(ii) | 上層 | 1/10 | 内→灰白色、灰褐色<br>外→灰白色、灰褐色 | 砂若干混入<br>若干粗 | やや硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | | | 〔26.1〕<br>〔7.08〕 | | 〔24.0〕 | 図版13 18下 |
| | 甕 | 第11図4 | BI1(2)(ii) | 中層 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→灰白色、黒褐色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | 〔25.6〕<br>( 8.2) | | 〔24.4〕 | 図14 版左 18(2) |
| 第2号住居跡 | 坏 | 第13図1 | BIe-H1 | 床面直上 | 1/4 | 内→黒色<br>外→黒色、にぶい橙色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔12.2〕<br>3.7 | 〔 4.2〕 | | |
| | 坏 | 第13図2 | BIa | Pit 2 | 1/6 | 内→黒色<br>外→にぶい褐赤橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | | | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 回転糸切り | 〃 | ( 2.5) | 4.5 | | |
| | 坏 | 第13図3 | BI | カマド付近 | 1/8 | 内→黒色<br>外→褐灰色 | 砂若干混入<br>普 | だいぶ軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔14.2〕<br>( 3.6) | | | |
| | 坏 | 第13図4 | BI | 床面直上 | 1/8 | 内→黒色<br>外→灰・黒色 | 砂若干混入<br>やや粗 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔13.8〕<br>( 3.5) | | | |
| | 坏 | 第13図5 | BIa | 床面直上 | 1/3 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔13.3〕<br>4.3 | 〔 5.9〕 | | 図版13 19 |
| | 坏 | 第13図6 | BIIa | 床面直上 | 1/4 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>密 | 硬 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〔13.5〕<br>3.3 | 〔 5.9〕 | | |
| | 坏 | 第13図7 | BIII | カマド側ピット | 1/4 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | 軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔12.5〕<br>4.5 | 〔 5.0〕 | | |
| | 坏 | 第13図8 | BIII | 床面直上 | 1/3 | 内→褐灰色<br>外→褐灰色、にぶい褐色 | 砂若干混入<br>やや粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | 〔13.6〕<br>4.0 | 5.2 | | 図版14 19 |
| | 甕 | 第13図9 | BI1(2)(ii) | 床面直上 | 1/9 | 内→灰褐色、浅黄橙色<br>外→にぶい赤褐色、灰褐色 | 砂粒少々多め混入<br>やや粗 | 軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | 〔19.8〕<br>〔10.6〕 | | 〔18.5〕<br>〔20.7〕 | 図版15 19左 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 ( )復元値 ( )現存値 (cm) | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第2号住居跡 | 甕 | 第13図10 | B12 (IXi) | 火床部 | 1/10 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 口径〔14.7〕<br>器高〔15.0〕 | 底径〔7.5〕<br>脚高 | 頸径〔13.0〕<br>胴径〔13.9〕 | 図版15 19右 |
| | 高台付盤 | 第13図11 | BI | Pit2 | 1/10 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | | | | | | | ロクロナデ | ロクロナデ | <br>( 5.5) | 〔8.7〕<br>(4.1) | 高台径〔15.6〕 | |
| 第3号住居跡 | 坏 | 第15図1 | BIC −H5 | カマド内 | 1/5 | 内→黒色、褐灰色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | 軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔14.1〕<br>4.6 | | | |
| | 坏 | 第15図2 | BI | Pit2 | 1/6 | 内→黒色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | | | 〔14.1〕<br>( 3.6) | | | |
| | 坏 | 第15図3 | BIIb | カマド付近 | 1/8 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>やや密 | だいぶ硬 | | | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 回転ヘラ切り | ロクロナデ | 12.1<br>( 2.3) | 6.6 | | |
| | 坏 | 第15図4 | BIII | カマド内 | 3/5 | 内→橙色、にぶい橙色<br>外→橙色、にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 〔12.0〕<br>3.6 | 〔4.7〕 | | 図版10 19 |
| | 坏 | 第15図5 | BIII | 付近検出面 | 1/4 | 内→灰黄色、にぶい橙色<br>外→灰黄色、にぶい橙色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.5〕<br>3.5 | 〔5.8〕 | | 図版11 19 |
| | 鉢 | 第15図6 | A | 東西畦畔埋土中 | 2/5 | 内→黒色、にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | | | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | <br>( 4.5) | 〔5.7〕 | | |
| | 甕 | 第15図7 | A'2 | 西南隅 | 1/10 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | ヘラケズリ | 横ナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | | | 〔17.0〕<br> | | 〔16.8〕<br>〔17.4〕 | 図版12 19上 |
| | 甕 | 第15図8 | B11 (1) | 埋土第2層 | 1/10 | 内→にぶい褐色、灰褐色<br>外→にぶい褐色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | 〔20.8〕<br>( 7.5) | | 〔18.6〕<br>〔19.2〕 | 図版12 19下 |
| 第4号住居跡 | 壺 | 第17図1 | BId | Pit8 | 1/5 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔 4.9〕<br>〔 5.0〕 | 〔3.6〕 | 〔 4.8〕<br>〔 6.4〕 | |
| | 坏 | 第17図2 | BIa | カマド右側 | 1/4 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | だいぶ硬 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔15.1〕<br>4.7 | 〔6.6〕 | | |
| | 坏 | 第17図3 | BIIa | Pit13 | 5/6 | 内→灰白色、灰黄色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 12.9<br>4.1 | 5.8 | | 図版1 20 |
| | 坏 | 第17図4 | BIIa | カマド右側 | 1/6 | 内→にぶい黄橙色、灰色<br>外→にぶい黄橙色、灰色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.0〕<br>4.1 | 〔5.9〕 | | |
| | 坏 | 第17図5 | BIIa | カマド右側 | ほぼ完形 | 内→にぶい黄橙色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.9<br>4.7 | 5.6 | | 図版2 20 |
| | 坏 | 第17図6 | BII | Pit1 | 1/6 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔14.7〕<br>( 4.7) | | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第4号住居跡 | 坏 | 第17図7 | BⅡa | Pit8 カマド右側 | 1/5 | 内→灰黄褐色<br>外→黄灰色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 口径〔14.1〕 底径 5.2 頸径<br>器高 4.8 脚高 胴径 | | | |
| | 坏 | 第17図8 | BⅡa | 不明 | 1/4 | 内→にぶい黄橙色<br>外→にぶい黄橙色、褐色色 | 砂僅量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.8〕 〔5.9〕<br>4.8 | | | |
| | 坏 | 第17図9 | BⅡ | Pit9 | 1/7 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔15.5〕<br>( 4.0) | | | |
| | 壺 | 第17図10 | BⅡ | Pit4 | 1/6 | 内→灰褐色<br>外→灰色 | 砂ほとんど無<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | | | タタキ目<br>ロクロナデ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | | | <br>〔10.8〕 | | 〔18.4〕 | 図版3 20 |
| | 甕 | 第17図11 | BⅠ1 (1Xi) | カマド右側 | 2/5 | 内→にぶい黄橙色、浅黄橙色<br>外→にぶい黄橙色、浅黄橙色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | やや軟 | ロクロナデ | 刷毛目状<br>ロクロナデ | タタキ目<br>ヘラケズリ | 刷毛目状<br>ロクロナデ | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 26.5 9.5 23.1<br>44.0 23.2 | | | 図版5 20 |
| | 鉢 | 第18図1 | BⅠ4 | カマド右側 | 1/3 | 内→にぶい褐色<br>外→明赤褐色、橙色 | 砂粒多め混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.9〕 18.2 12.7<br>9.4 〔13.2〕 | | | 図版4 20 |
| | 鉢 | 第18図2 | AⅠa | 床面 | 1/10 | 内→黒色<br>外→黒色、黄褐色 | 砂僅量混入<br>やや密 | 普 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | | | 〔20.7〕 〔17.3〕<br>( 4.8) 〔17.4〕 | | | |
| 第5号住居跡 | 坏 | 第20図1 | BⅢ | 不明 | 2/3 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 13.9 5.4<br>4.4 | | | 図版7 19 |
| | 坏 | 第20図2 | BⅢ | 埋土中 | 3/4 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.8 5.5<br>4.0 | | | 図版1 19 |
| | 坏 | 第20図3 | BⅢ | 埋土中 | 1/4 | 内→にぶい橙色、灰褐色<br>外→浅黄橙色、褐灰色 | 砂少々多め混入<br>やや粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.9〕 5.7<br>3.9 | | | |
| | 坏 | 第20図4 | BⅢ | 床面直上 | 9/10 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.2 5.6<br>3.9 | | | 図版2 19 |
| | 坏 | 第20図5 | BⅢ | 埋土中 | 3/4 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.0 5.0<br>3.6 | | | |
| | 坏 | 第20図6 | BⅢ | 埋土中 | 1/5 | 内→浅黄橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔13.9〕<br>( 3.4) | | | |
| | 坏 | 第20図7 | BⅢ | カマド支脚 | 4/5 | 内→にぶい橙色<br>外→淡橙色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | 14.0 5.2<br>( 4.6) | | | 図版3 19 |
| | 高台付坏 | 第20図8 | BⅢ 2② | 焼土内 | 1/6 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂僅量混入<br>普 | やや軟 | | | | | ロクロナデ | ロクロナデ | ナデ | ロクロナデ | 6.9 6.4<br>( 2.0) 1.1 | | | |
| | 高台付坏 | 第20図9 | BⅢ 3② | 埋土中 | 1/10 | 内→明褐灰色<br>外→淡橙色 | 砂多め混入<br>普 | だいぶ硬 | | | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 8.0 6.5<br>( 3.6) 2.6 | | | |

| 遺構名 | 器種 | 分版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 調整 体部下半 外 | 調整 体部下半 内 | 調整 底部 外 | 調整 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第5号住居跡 | 坏 | 第20図10 | BII | 床面直上 | 1/10 | 内→明褐灰<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | 口径〔13.5〕<br>器高(2.0) | 底径<br>脚高 | 類径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第20図11 | BII | カマド南わき Pit | 1/10 | 内→灰色、にぶい黄橙色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | 12.8<br>2.6 | | | |
| | 甕 | 第20図12 | BI1 (2)(i) | Pit10 | 1/6 | 内→浅黄橙色<br>外→灰褐色、浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | ロクロナデ | ヘラケズリ | 刷毛目状<br>ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | 〔18.5〕<br>〔21.0〕 | | 〔16.9〕<br>〔21.0〕 | 図版8 19右 |
| | 甕 | 第20図13 | BI1 (2)(i) | カマド内 | 1/4 | 内→灰白色、褐色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | 〔23.8〕<br>〔18.9〕 | | 〔21.7〕<br>〔24.9〕 | 図版9 19 |
| | 壺 | 第20図14 | BII | 埋土中 | 1/20 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | | | | | | | 〔14.0〕<br>( 2.3) | | | |
| | 壺 | 第20図15 | BII | 床面直上 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | | | | | | | 〔14.7〕<br>( 3.0) | | | |
| | 壺 | 第20図16 | BII | 煙出部付近 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | タタキ目<br>ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | 〔21.0〕<br>(18.4) | | 〔15.2〕 | |
| | 坏 | 第21図1 | BIC −H1 | 埋土中 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい褐色、黒色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔14.5〕<br>3.9 | 〔5.7〕 | | |
| | 坏 | 第21図2 | BIC −H1 | 床面直上 | 完形 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂少々多め混入<br>やや粗 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.2<br>5.0 | 5.7 | | 図版4 19 |
| | 坏 | 第21図3 | BIa | 焼土内 | 5/6 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 13.4<br>4.2 | 6.4 | | 図版5 19 |
| | 坏 | 第21図4 | BIa | 埋土中 | 3/5 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂若干混入<br>密 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.2<br>5.0 | 5.3 | | 図版6 19 |
| | 高台付坏 | 第21図5 | BI1③ −M | 床面直上 | 1/6 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂微量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | | | | | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ロクロナデ | 〃 | ( 2.9) | 5.2<br>0.8 | 高台径 5.5 | |
| | 高台付坏 | 第21図6 | BI2 ①(2) | 床面直上 | 1/4 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや硬 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | 〃 | 菊花状ヘラ刻み | 〃 | 〔15.7〕<br>( 4.4) | | 〔 6.1〕 | |
| | 高台付坏 | 第21図7 | BI2 ①(2) | 床面直上 | 1/3 | 内→黒色<br>外→にぶい褐色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.4〕<br>6.0 | 〔5.4〕<br>1.4 | 高台径〔5.7〕 | |
| | 鉢 | 第21図8 | BI1 b | ピット10 | 1/6 | 内→灰白色、灰褐色、黒色<br>外→灰赤色、褐灰色 | 砂粒多め混入<br>だいぶ粗 | だいぶ軟 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | | | 〔18.1〕<br>(17.6) | | 〔16.5〕 | 図版8 19左 |
| 第6号住居跡 | 坏 | 第23図1 | BIC −W1 | カマド内 | 3/5 | 内→黒色、にぶい橙色<br>外→にぶい褐色、にぶい橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや硬 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 14.4<br>5.7 | 〔5.8〕 | | 図版6 20 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値（cm） （ ）現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6号住居跡 | 坏 | 第23図2 | BIC−H1 | 床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→褐灰色、灰白色、黒色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 口径〔13.6〕<br>器高 4.6 | 底径〔6.5〕<br>脚高 | 頸径<br>胴径 | 図版7 20 |
| | 坏 | 第23図3 | BIC−H5 | カマド内 | ほぼ完形 | 内→黒色<br>外→灰黄色,灰黄褐色,黒色 | 砂ごく少量混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 12.8<br>5.8 | 5.6 | | 図版8 20 |
| | 坏 | 第23図4 | BIC−H5 | ピット5<br>埋土第2層 | 1/3 | 内→黒色<br>外→褐灰色，灰白色、黒色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔16.3〕<br>6.2 | 〔5.5〕 | | |
| | 鉢 | 第23図5 | BI2 | 床面 | 1/4 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色、灰白色 | 砂若干混入<br>わりと密 | かすかに軟 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〔18.7〕<br>〔13.8〕 | 6.8 | 17.2<br>〔18.3〕 | 図版9 20 |
| | 壺 | 第23図6 | BII | 埋土中部 | 1/20 | 内→黄灰色、灰色<br>外→褐灰色、灰色 | 砂かすかに混入<br>かなり密 | かなり硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | 〔22.0〕<br>( 5.3) | | 〔18.3〕 | 図版10 20中 |
| | 甕 | 第23図7 | BII | 埋土 | 1/20 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂かすかに混入<br>かなり密 | そうとう堅い | 〃 | 〃 | | | | | | | 〔22.6〕<br>( 3.6) | | | 図版10 20下 |
| | 壜 | 第23図8 | BI | 床面 | 1/10 | 内→にぶい黄橙色、褐灰色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂ごく少量混入<br>わりに密 | やや軟 | ロクロナデ | 〃 | 刷毛目状<br>ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | 〔39.8〕<br>〔12.3〕 | | | 図10版上 20右 |
| 第7号住居跡 | 坏 | 第25図1 | BIC−H | ピット1 | 1/10 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂かすかに混入<br>わりと密 | やや硬 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | | | 〔11.8〕<br>( 4.7) | | | |
| | 坏 | 第25図2 | BIa | 埋土中部 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色,灰黄色,黒色 | 砂かすかに混入<br>わりと密 | やや軟 | | | | | ロクロナデ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | (1.85) | 〔5.8〕 | | |
| | 坏 | 第25図3 | BIa | 煙出部 | 2/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>わりに密 | 少し軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〔14.5〕<br>5.0 | 〔6.1〕 | | |
| | 坏 | 第25図4 | BI | 床面直上 | 1/5 | 内→黒色、にぶい黄橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂かすかに混入<br>わりに密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔14.2〕<br>5.0 | | | |
| | 坏 | 第25図5 | BIa | ピット1 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色、にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔14.6〕<br>5.1 | 5.6 | | 図版1 21 |
| | 坏 | 第25図6 | BI | ピット2 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂かすかに混入<br>かなり密 | 少し軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔14.1〕<br>4.2 | | | |
| | 坏 | 第25図7 | BIa | 埋土中 | 2/5 | 内→黒色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔14.5〕<br>( 5.0) | | | |
| | 坏 | 第25図8 | BIa | 床面 | 3/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂少量混入<br>かなり密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 4.6 | 5.8 | | 図版2 21 |
| | 鉢 | 第25図9 | BI3 | 不明 | 1/10 | 内→淡橙色、橙色<br>外→灰白色,橙色,淡赤橙色 | 砂少量混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | | | | | 〔11.25〕<br>(3.15) | | 〔10.4〕 | 図9版左21(1) |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 器面 体部下半 外 | 器面 体部下半 内 | 調整 底部 外 | 調整 底部 内 | 法量 測定値（cm） 〔 〕復元値 ( ) 現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第7号住居跡 | 鉢 | 第25図10 | B I 1 a | 不明 | 1/10 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂かすかに混入<br>わりと密 | やや硬 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | | | 口径〔17.4〕<br>器高( 4.5) | 底径<br>脚高 | 頸径<br>胴径〔15.14〕 | 図9版左21(2) |
| | 甕 | 第25図11 | B I(1) (i) | ピット1 | 1/9 | 内→灰白色、淡赤橙色<br>外→浅黄橙色、橙色<br>灰白色、灰色 | 砂少量混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | 〔18.25〕<br>(10.35) | | 〔16.50〕<br>〔17.30〕 | 図9版右21(2) |
| | 甕 | 第25図12 | B I(1) (i) | 床面 | 1/10 | 内→浅黄色<br>外→淡黄色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>わりと密 | かなり硬 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | | | | | 〔22.30〕<br>(6.05) | | 〔19.4〕 | 図9版左21(3) |
| | 甕 | 第25図13 | B I(2) (i) | 床面 | 1/9 | 内→浅黄橙色、にぶい褐色<br>灰白色、淡橙色<br>外→黒褐色、にぶい褐色<br>橙色、にぶい黄橙色 | 砂少量混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 刷毛目<br>ロクロナデ | | | | | 〔21.6〕<br>( 8.2) | | 〔19.1〕 | 図9版右21(1) |
| | 甕 | 第25図14 | B II | 埋土中 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>かなり密 | 相当硬 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | | | | | 〔38.2〕<br>( 4.0) | | | 図版9 21下 |
| | 坏 | 第26図1 | B III | カマド内 | 4/5 | 内→橙色<br>外→灰白色、にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 13.25<br>3.85 | 5.3 | | 図版3 21 |
| | 坏 | 第26図2 | B III | 床面直上 | 2/5 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.7〕<br>4.15 | 5.6 | | |
| | 坏 | 第26図3 | B III | ピット1 | 完形 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 4.25<br>14.3 | <br>5.3 | | 図版4 21 |
| | 坏 | 第26図4 | B III | ピット1 | 9/10 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.35<br>5.1 | 5.7 | | 図版5 21 |
| | 坏 | 第26図5 | B III | 床面直上 | 完形 | 内→にぶい黄橙色、灰黄色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.0<br>5.25 | 5.2 | | 図版7 21 |
| | 坏 | 第26図6 | B III | ピット1 | 3/5 | 内→浅黄橙色、灰色<br>灰白色<br>外→浅黄橙色、灰色<br>灰白色、にぶい橙色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.3<br>4.7 | 5.3 | | 図版6 21 |
| | 高台付坏 | 第26図7 | B III 2 ④ | ピット1 | 3/5 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>かなり密 | かすかに軟 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | <br>( 3.8) | 〔5.9〕<br>8.5 | 高台径 6.8 | 図版8 21 |
| | 坏 | 第26図8 | B II a | 床面 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂かすかに混入<br>わりと密 | かなり硬 | | | | | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | <br>( 1.6) | 〔7.7〕 | | |
| | 坏 | 第26図9 | B II a | カマド内 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂かすかに混入<br>わりと密 | かなり硬 | | | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | <br>(2.35) | 〔8.1〕 | | |
| | 坏 | 第26図10 | B II | 床面 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>わりと密 | かなり硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔13.6〕<br>(3.25) | | | |
| 第8号住居跡 | 坏 | 第28図1 | B I C −H 1 | ピット7 | 1/6 | 内→黒色<br>外→褐色 | 砂若干混入<br>やや密 | 軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | 〔14.8〕<br>4.5 | 〔3.0〕 | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 器面 体部下半 外 | 器面 体部下半 内 | 器面 底部 外 | 器面 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第8号住居跡 | 坏 | 第28図2 | B I C −H 1 | ピット7 | 1/8 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 口径〔13.8〕<br>器高 4.4 | 底径〔5.0〕<br>脚高 | 類径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第28図3 | B I C −H 1 | カマド内 | 2/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.8〕<br>4.3 | 〔4.8〕 | | 図版13 20 |
| | 坏 | 第28図4. | B Ⅲ | ピット7 | 4/5 | 内→黄橙色<br>外→灰白色、灰黄色 | 砂微量混入<br>やや密 | 普 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 13.6<br>4.75 | 4.9 | | 図版14 20 |
| | 坏 | 第28図5 | B Ⅲ | ピット7 | 4/5 | 内→黄橙、灰黄色<br>外→橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.8<br>5.3 | 7.4 | | 図版15 20 |
| | 坏 | 第28図6 | B I C −H 1 | カマド内 | 1/2 | 内→灰黄褐色、にぶい黄褐色<br>外→にぶい褐色 | | | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 13.6<br>5.3 | 6.4 | | 図版11 20 |
| | 鉢 | 第28図7 | B I I a | 北面第1層床面 | 1/8 | 内→黒色<br>外→黒色、にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | 軟 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | | | 〔24.4〕<br>〔10.3〕 | | 〔22.5〕<br>〔23.1〕 | 図版12 20 |
| 第9号住居跡 | 坏 | 第30図1 | A 1 C | 第2層下部 | 1/3 | 内→黒色<br>外→灰黒色、灰黄色 | 砂少量混入<br>普 | やや硬 | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | 13.7<br>4.3 | 丸底 | | 図版1 22 |
| | 坏 | 第30図2 | A 2 | 床面 | 9/10 | 内→黒色<br>外→灰白色、橙黒色 | 砂微量混入<br>普 | 少し軟 | 横ナデ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | 〃 | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | 〃 | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | 〃 | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | 12.3<br>3.8 | 6.4 | | 図版2 22 |
| | 坏 | 第30図3 | A 2 | 第2層下部 | 1/4 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや硬 | 横ナデ | ヘラミガキ | 横ナデ<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 12.8<br>4.3 | 5.3 | | 図版3 22 |
| | 坏 | 第30図4 | A 2 | 床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | 少し軟 | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラミガキ<br>ヘラナデ | 〔13.2〕<br>4.6 | 〔6.5〕 | | 図版4 22 |
| | 坏 | 第30図5 | A 2 | ピット6 | 9/10 | 内→にぶい黄橙色、黒色<br>外→浅黄橙色、褐灰色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや軟 | 横ナデ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 13.2<br>5.3 | 6.7 | | 図版5 22 |
| | 坏 | 第30図6 | B I e −H 3 | 床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや軟 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.9〕<br>3.7 | 5.9 | | 図版6 22 |
| | 甕 | 第30図7 | A 1 a (i) | ピット5 | 1/20 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | 少々軟 | 横ナデ | 横ナデ | | | | | | | 〔19.5〕<br>( 4.3) | | 〔16.1〕 | |
| | 甕 | 第30図8 | A 1 a (1)(i) | 埋土中 | 1/10 | 内→にぶい黄橙色、橙灰褐色<br>外→灰白色、橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | ヘラナデ | ヘラミガキ | ヘラナデ | | | 〔20.0〕<br>( 7.7) | | 〔15.4〕 | 図10 版下 22左 |
| | 壺 | 第30図9 | A 1 a (1)(i) | 第2層下部 | 1/20 | 内→灰褐色<br>外→にぶい褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 刷毛目 | ヘラナデ | | | | | 〔23.5〕<br>( 4.6) | | 〔20.1〕 | 図版10 22中 |
| | 壺 | 第30図10 | A 1 a (2)(i) | 床面 | 1/20 | 内→浅黄橙色、にぶい褐色<br>外→にぶい橙色 | 砂多めに混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 刷毛目 | ナデ | | | | | 〔19.2〕<br>( 6.5) | | 〔16.3〕 | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 器面 体部下半 外 | 器面 体部下半 内 | 調整 底部 外 | 調整 底部 内 | 法量 測定値（cm） 〔 〕復元値 （ ）現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第9号住居跡 | 壺 | 第30図11 | A2a (1)(i) | ピット5 | 1/8 | 内→にぶい黄橙色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂微量に混入<br>やや密 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラナデ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラナデ | | | 口径〔16.3〕<br>器高(19.5) | 底径<br>脚高 | 頸径〔13.6〕<br>胴径 | |
| | 壺 | 第30図12 | A2a (1)(i) | 埋土中部 | 1/5 | 内→灰白色、浅黄橙色<br>外→灰白色,浅黄橙色,褐灰色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | かすかに硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラケズリ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 〔17.3〕<br>〔22.5〕 | 8.5 | 〔14.9〕 | |
| | 坏 | 第31図1 | BIIb | 床面 | 1/5 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂少量混入<br>密 | 硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転ヘラ切り | ロクロナデ | 〔14.7〕<br>4.4 | 〔6.4〕 | | |
| | 坏 | 第31図2 | BIIb | 第2層下部 | 1/4 | 内→にぶい黄橙色<br>外→灰白色 | 砂少量混入<br>かなり密 | かなり硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.7〕<br>4.3 | 〔7.3〕 | | |
| | 坏 | 第31図3 | BIIa | 第2層埋土 | 1/6 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 〔14.0〕<br>3.9 | 6.7 | | |
| | 坏 | 第31図4 | BIIa | 埋土中 | 1/3 | 内→灰白色,にぶい黄橙色<br>外→灰白色、浅黄色 | 砂少量混入<br>かなり密 | かなり硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.8〕<br>4.3 | 〔6.5〕 | | |
| | 坏 | 第31図5 | BIIa | ピット6 | 1/6 | 内→にぶい黄橙色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂少量混入<br>かなり密 | かなり硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.0〕<br>3.7 | 〔6.5〕 | | |
| | 坏 | 第31図6 | BIIa | ピット5 | 1/6 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂微量に混入<br>密 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.5〕<br>4.9 | 〔6.9〕 | | |
| | 壺 | 第31図7 | A2a (1)(i) | ピット6 | 1/9 | 内→橙色、にぶい橙色<br>外→にぶい橙色,にぶい褐色 | 砂若干混入<br>かすかに粗 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ナデ | | | | | 〔17.5〕<br>( 8.3) | | 〔14.6〕 | |
| | 壺 | 第31図8 | A2a (1)(ii) | 床面 | 1/6 | 内→にぶい黄橙色、橙色<br>外→にぶい褐色,浅黄橙色 | 砂若干混入<br>若干密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ナデ | | | 〔18.9〕<br>〔14.5〕 | | 〔17.9〕 | 図版922 |
| | 壺 | 第31図9 | A2a (2)(ii) | ピット1 | 1/10 | 内→黄橙色,橙色,にぶい褐色<br>外→浅黄橙色,にぶい橙色 | 砂若干混入<br>若干粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔20.0〕<br>( 7.6) | | 〔12.5〕 | 図版822 |
| | 壺 | 第31図10 | A2 | 床面 | 1/10 | 内→黒色、浅黄橙色<br>外→橙色、浅黄橙色・黒色、明褐灰色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | | | | | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | 〔10.5〕 | 10.6 | | |
| | 甕 | 第31図11 | A2 | 第2層埋土 | 1/6 | 内→浅黄橙色、にぶい橙色<br>外→黒褐色、灰褐色、黒色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | | | 刷毛目 | ヘラナデ | 刷毛目 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔11.6〕 | 9.0 | 〔16.1〕 | 図版722 |
| 第10号住居跡 | 坏 | 第34図1 | BIII | カマド内 | 1/3 | 内→橙色、にぶい黄褐色<br>外→にぶい黄橙色 橙色、褐灰色 | 砂若干混入<br>若干粗 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 〔15.2〕<br>4.7 | 〔5.0〕 | | |
| | 坏 | 第34図2 | BIII | ピット11 | 2/3 | 内→にぶい橙色 にぶい黄橙色<br>外→にぶい黄橙色、橙色 | 砂かすかに混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.4<br>4.55 | 5.7 | | 図版1221 |
| | 坏 | 第34図3 | BIIa | ピット2 | 1/3 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>かなり密 | かなり堅 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.0〕<br>3.6 | 〔7.0〕 | | 図版1421 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値（cm） ( ) 現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10号住居跡 | 坏 | 第34図4 | B I e −H 1 | 床面 | 1/5 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや硬 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 口径(14.5)<br>器高 3.9 | 底径( 7.0)<br>脚高 | 脚径<br>脚径 | |
| | 坏 | 第34図5 | B I e −H 1 | 埋土中 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや硬 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | (14.5)<br>4.4 | ( 5.8) | | |
| | 坏 | 第34図6 | B I e −H 1 | ピット11 | 2/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | (14.5)<br>4.8 | 5.6 | | 図版13 21 |
| | 坏 | 第34図7 | B I e −H 1 | ピット8 | 3/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色、灰色 | 砂がすかに混入<br>かなり密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | (14.2)<br>5.45 | | 5.7 | 図版10 21 |
| | 坏 | 第34図8 | B I a | ピット1 | 4/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色<br>にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 14.0<br>4.6 | 6.85 | | 図版11 21 |
| | 坏 | 第34図9 | B I | ピット11 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | (16.8)<br>( 4.6) | | | |
| | 甕 | 第34図10 | B I I (2)(i) | 床面 | 1/8 | 内→にぶい黄橙色、明褐色<br>褐灰色<br>外→黒褐色、灰褐色<br>浅黄橙色 | 砂少量混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | (21.1)<br>(14.9) | | (20.1)<br>(21.8) | 図版15 21 |
| | 甕 | 第34図11 | B I I (1)(i) | 表 | 1/10 | 内→灰白色、褐灰色<br>外→にぶい黄橙色、褐灰色 | 砂少量混入<br>わりに密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | | | | | (24.0)<br>( 3.5) | | (21.7)<br>(21.5) | 図11 版右 22(1) |
| | 甕 | 第34図12 | B I I (1)(i) | カマド内 | 2/5 | 内→灰白色、褐灰色<br>外→灰白色、褐灰色 | 砂少量混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | (26.0)<br>(34.1) | (11.0) | (24.4)<br>(26.8) | 図版16 21 |
| | 鉢 | 第35図1 | B I 2 | 床面直上 | 1/7 | 内→にぶい橙色、<br>にぶい黄橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>わりと密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | ( 9.0)<br>( 5.4) | | ( 8.1)<br>( 8.7) | 図11 版右 22(4) |
| | 壺 | 第35図2 | B II | 床面 | 1/10 | 内→暗オリーブ灰色、灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>かなり密 | かなり堅 | 〃 | 〃 | | | | | | | (15.5)<br>( 6.5) | | ( 8.0) | 図11 版左 22(3) |
| | 壺 | 第35図3 | B II | ピット1 | 1/10 | 内→灰褐色<br>外→灰色 | 砂がすかに混入<br>かなり密 | かなり堅 | 〃 | 〃 | | | | | | | (14.0)<br>( 3.4) | | ( 5.1) | 図11 版左 22(2) |
| | 甕 | 第35図4 | B II | 埋土上部 | 0.5割未満 | 内→灰黄褐色、褐灰色<br>外→黒褐色、灰黄褐色、灰色 | 砂若干混入<br>かなり密 | かなり堅 | 〃 | 〃 | | | | | | | (22.0)<br>( 3.4) | | | |
| | 甕 | 第35図5 | B I 2 (1) | 南北畦畔<br>東トレンチ | 0.5割未満 | 内→黒色、灰黄褐色<br>外→褐灰色、灰黄褐色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | (13.7)<br>( 2.3) | | (12.9) | |
| | 甕 | 第35図6 | B I 2 (1) | 埋土中 | 0.5割未満 | 内→にぶい橙色、黒褐色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | (13.0)<br>( 3.0) | | (12.1)<br>(12.1) | |
| | 甕 | 第35図7 | B I 2 (1) | ピット9 | 0.5割未満 | 内→にぶい黄橙色、黒褐色<br>外→にぶい黄橙色、褐灰色 | 砂少量混入<br>かすかに粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | (12.8)<br>( 3.6) | | (12.2)<br>(12.1) | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 熱成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10号住居跡 | 甕 | 第35図8 | B I 2 (1) | カマド付近 | 1/20 | 内→黒褐色、灰白色<br>外→灰黄褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | 口径〔14.0〕<br>器高( 2.8) | 底径<br>脚高 | 頭径〔12.6〕<br>胴径〔12.6〕 | |
| | 甕 | 第35図9 | B I 2 (1) | カマド内 | 1/10 | 内→灰白色、褐灰色<br>外→灰白色、褐灰色 | 砂少量混入<br>かなり密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | 〔15.4〕<br>(4.65) | | 〔13.9〕<br>〔14.9〕 | 図11版右2252 |
| | 甕 | 第35図10 | B I | ピット11 | 1/10 | 内→灰白色、黒色、褐灰色<br>外→橙色、にぶい黄橙色、褐灰色 | 砂ごく少量混入<br>若干粗 | やや軟 | | | | | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | ( 7.5) | 6.8 | 〔14.8〕 | |
| 第11号住居跡 | 坏 | 第38図1 | A 1 a | 第4層 | 完型 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、暗褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 11.1<br>5.1 | | | 図版10 23 |
| | 坏 | 第38図2 | A 1 a | 埋土中 | 1/8 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | 〔10.0〕<br>( 3.2) | | | |
| | 坏 | 第38図3 | A 1 a | 床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、橙色、黒褐色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〔13.6〕<br>5.3 | | | 図版11 23 |
| | 坏 | 第38図4 | A 1 a | ピット15 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、灰褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 16.2<br>4.2 | | | 図版12 23 |
| | 坏 | 第38図5 | A 1 a | ピット4 | 1/6 | 内→黒色<br>外→灰褐色、橙色、にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔16.6〕<br>( 4.7) | | | |
| | 坏 | 第38図6 | A 1 b | ピット1 | 1/10 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | | | 〔14.3〕<br>( 4.0) | | | |
| | 坏 | 第38図7 | A 2 | ピット1 | 1/3 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂微量に混入<br>やや密 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〔13.4〕<br>4.1 | 〔 7.4〕 | | 図版8 23 |
| | 坏 | 第38図8 | A 2 | 埋土中 | 1/3 | 内→黒色<br>外→灰白色、明褐灰色、黒色 | 砂微量に混入<br>普 | やや硬 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔12.2〕<br>3.5 | 〔 7.2〕 | | |
| | 坏 | 第38図9 | A 2 | 第4層 | 3/5 | 内→黒色、にぶい橙色、橙色<br>外→黒色、褐色、橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.3〕<br>3.7 | 〔 7.7〕 | | 図版9 23 |
| | 坏 | 第38図10 | A 2 | 床面 | 3/7 | 内→黒色、灰白色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂多めに混入<br>普 | やや軟 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔12.2〕<br>3.2 | 〔 6.7〕 | | |
| | 坏 | 第38図11 | A 2 | 埋土中 | 1/7 | 内→灰白色、黒色<br>外→灰白色、黒褐色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.3〕<br>4.3 | 〔 5.3〕 | | |
| | 坏 | 第38図12 | A 2 | ピット3 | 1/5 | 内→黒褐色、黒色、暗褐色<br>外→灰褐色、橙色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.0〕<br>3.7 | 〔 5.5〕 | | |
| | 坏 | 第38図13 | A 2 | 焼土埋土中 | 1/6 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒褐色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔10.0〕<br>3.4 | 〔14.7〕 | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値（cm） ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第11号住居跡 | 坏 | 第38 図14 | BIId −H3 | 焼土埋土中 | 3/5 | 内→灰白色 外→灰白色 | 砂若干混入 わりと密 | やや硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | 口径(13.8) 器高 3.8 | 底径 6.8 脚高 | 頸径 胴径 | 図版7 23 |
| | 坏 | 第38 図15 | BIId −H3 | 床面 | 1/5 | 内→灰白色 外→灰白色 | 砂少量混入 わりと密 | やや硬 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ( 2.0) | 6.7 | | |
| | 坏 | 第38 図16 | BIId −H3 | 第4層 | 1/2 | 内→灰白色 外→灰白色 | 砂少量混入 かなり密 | かなり硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.2 3.6 | 7.3 | | 図版5 23 |
| | 坏 | 第38 図17 | BIId −H3 | 埋土中 | 1/4 | 内→黒色 外→黒色、褐灰色 | 砂多めに混入 わりと粗 | やや軟 | | | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | ( 2.3) | 7.0 | | |
| | 坏 | 第38 図18 | BIIe −W3 | 第4層 | 1/4 | 内→浅黄橙色、にぶい橙色 外→灰白色 | 砂多めに混入 わりと粗 | 普 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ( 2.6) | 6.4 | | |
| | 坏 | 第38 図19 | BIIb | 埋土中 | 2/3 | 内→灰白色、橙色 外→灰白色、橙色 | 砂少量混入 わりと密 | わりに硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転ヘラ切り | 〃 | 〔14.6〕 4.3 | 6.9 | | 図版6 23 |
| | 坏 | 第38 図20 | BIIb | 第4層 | 1/2 | 内→灰白色、にぶい橙色 外→灰白色、にぶい橙色 | 砂微量混入 わりと密 | わりに硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.6〕 4.0 | 7.3 | | 図版1 23 |
| | 坏 | 第38 図21 | BIIb | 埋土中 | 1/4 | 内→灰白色 外→灰白色 | 砂若干混入 わりと密 | わりに硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.4〕 3.8 | 〔 7.1〕 | | |
| | 坏 | 第38 図22 | BIIb | 第4層 | 1/3 | 内→にぶい黄橙色 外→灰白色 | 砂多めに混入 わりと密 | わりに硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.6〕 3.6 | 7.8 | | 図版2 23 |
| | 坏 | 第38 図23 | BIIb | 床面 | 3/4 | 内→淡橙色 外→淡橙色、浅黄橙色 | 砂少量混入 密 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.7 5.3 | 7.4 | | 図版3 23 |
| | 坏 | 第38 図24 | BIIb | 床面 | 1/2 | 内→灰白色 外→灰白色 | 砂少量混入 密 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.2〕 3.5 | 〔17.3〕 | | 図版4 23 |
| | 鉢 | 第39 図1 | A2a ① | 床面 | 1/4 | 内→黒色 外→灰白色、黒色 | 砂多めに混入 かすかに粗 | やや軟 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | | | 〔20.3〕 (11.5) | | | 図版13 23上 |
| | 鉢 | 第39 図2 | A2a ① | 第4層 | 1/5 | 内→黒色 外→浅黄橙色、黒色 | 砂少量混入 普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔16.1〕 ( 6.9) | | | |
| | 鉢 | 第39 図3 | A2a ② | 第4層 | 1/5 | 内→黒色 外→灰白色、黒色 | 砂かすかに混入 密 | 普 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔19.8〕 ( 9.4) | | | 図版13 23下 |
| | 鉢 | 第39 図4 | A2a ② | 埋土中 | 1/5 | 内→黒色 外→浅黄橙色 | 砂少量混入 かすかに粗 | やや軟 | | | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ( 5.0) | 〔 5.8〕 | | |
| | 壺 | 第39 図5 | BII | 床面 | 1/20 | 内→褐灰色 外→暗灰色 | 砂少量混入 かなり密 | かなり硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | | | 〔 9.8〕 ( 2.2) | | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 測定値（cm） 〔 〕復元値 ( ) 現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第11号住居跡 | 壺 | 第39図6 | A3a (1)(i) | 床面 | 1/10 | 内→褐灰色、淡橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>わりと粗 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラミガキ | 刷毛目 | | | | | 口径〔12.7〕<br>器高( 3.0) | 底径<br>脚高 | 頸径〔10.8〕<br>胴径 | |
| | 甕 | 第39図7 | A1a (1)(i) | 埋土中 | 1/2 | 内→にぶい橙色、褐灰色<br>外→にぶい橙色、黒褐色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 〔19.4〕<br>〔17.0〕 | | 〔15.6〕<br>〔16.9〕 | 図版15 23 |
| | 甕 | 第39図8 | A1a (1)(i) | 埋土中 | 1/10 | 内→浅黄橙色、黒色<br>外→にぶい橙、黒色 | 砂少量混入<br>普 | わりに軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | 〔21.3〕<br>( 8.5) | | <br>〔17.4〕 | |
| | 甕 | 第39図9 | A2a (2)(i) | 焼土埋土中 | 1/4 | 内→浅黄橙色、黒色、にぶい褐色<br>外→にぶい橙色、灰白色、褐灰色 | 砂少量混入<br>やや粗 | 普 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | 〔18.1〕<br>20.5 | 〔9.3〕 | 〔15.5〕<br>〔16.0〕 | 図版14 23 |
| | 壺 | 第39図10 | A2a (1)(i) | 床面 | 3/4 | 内→灰白色、暗褐色<br>外→灰白色、淡橙色 | 砂少量混入 | | 〃 | 〃 | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラナデ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | 20.0<br>20.6 | 10.3 | 16.1<br>21.1 | 図版16 23 |
| 第12号住居跡 | 坏 | 第42図1 | BII | 床面 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→灰色 | 砂少量混入<br>密 | 硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 〔15.0〕<br>〔13.8〕 | | | |
| | 坏 | 第42図2 | BIIa | 床面 | 1/6 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂少量混入<br>ごく密 | たいへん硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | 〔15.4〕<br>6.0 | 〔6.8〕 | | |
| | 坏 | 第42図3 | BIc −H3 | 床面 | 3/5 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔13.8〕<br>4.0 | 〔 7.0〕 | | 図版1 24 |
| | 坏 | 第42図4 | BIc −H1 | カマド | 3/4 | 内→黒色、明褐色、浅黄橙色<br>外→浅黄橙色、橙色、黒色 | 砂少量混入<br>普 | 少々軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔14.0〕<br>4.3 | 6.8 | | 図版2 24 |
| | 坏 | 第42図5 | BI | 床面 | 1/5 | 内→黒色、にぶい黄橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | | | 〔12.5〕<br>( 4.5) | | | |
| | 高台付坏 | 第42図6 | BI2 ①(2) | 床面 | 1/5 | 内→黒色、にぶい黄橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>普 | 少々軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 菊花状のヘラ刻み | ヘラミガキ | 〔15.8〕<br>16.8 | 〔 6.1〕<br>1.3 | 高台径(7.6) | |
| | 坏 | 第42図7 | A2 | 床面 | 1/5 | 内→黒色、にぶい黄橙色<br>外→ | 砂少量混入<br>やや密 | 普 | 横ナデ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔11.2〕<br>3.3 | 〔 4.7〕 | | |
| | 坏 | 第42図8 | A2 | 床面 | 9/10 | 内→黒色、にぶい黄橙色<br>外→浅黄色、黒色、にぶい橙色 | 砂多めに混入<br>やや密 | やや硬 | 横ナデ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 12.9<br>5.9 | 6.3 | | 図版4 24 |
| | 坏 | 第42図9 | A2 | ピット5 | 4/7 | 内→黒色、浅黄橙色<br>外→黒色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | 少々軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.5〕<br>4.7 | 6.0 | | 図版6 24 |
| | 坏 | 第42図10 | A2 | 床面 | 1/5 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂かすかに混入<br>やや密 | 普 | ヘラケズリ | 横ナデ | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.9〕<br>3.8 | 〔 6.6〕 | | |
| | 坏 | 第42図11 | A2 | カマド付近 | 1/2 | 内→黒色<br>外→浅黄色、明褐灰色、黒色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 横ナデ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔13.1〕<br>4.6 | 5.4 | | 図版10 24 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 測定値(cm) 〔 〕復元値 ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12号住居跡 | 坏 | 第42図12 | A2 | カマド付近 | 1/3 | 内→にぶい橙色、黒色<br>外→橙色、浅黄色、黒色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 横ナデ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 口径〔12.2〕<br>器高 3.8 | 底径〔7.2〕<br>脚高 | 類径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第42図13 | A2 | 床面 | 2/5 | 内→黒色<br>外→黒色、灰白色、にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | 少々軟 | 〃 | 横ナデ<br>ヘラミガキ | ナデ | 〃 | ナデ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔12.5〕<br>5.7 | 〔6.0〕 | | 図版5 24 |
| | 坏 | 第42図14 | A2 | 床面 | 2/3 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | ヘラミガキ | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔12.5〕<br>3.9 | 5.3 | | 図版7 24 |
| | 坏 | 第42図15 | A2 | 床面 | 2/5 | 内→黒色<br>外→褐灰色、浅黄橙色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | 軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.0〕<br>5.1 | 〔7.6〕 | | 図版8 24 |
| | 坏 | 第42図16 | A2 | 床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→明褐色、黒色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ<br>ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.1〕<br>4.5 | 〔7.4〕 | | 図版11 24 |
| | 坏 | 第42図17 | A2 | 床面 | 2/3 | 内→黒色<br>外→橙色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔11.6〕<br>3.8 | 5.5 | | 図版3 24 |
| | 坏 | 第42図18 | A2 | ピット5 | 2/5 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ<br>ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔11.7〕<br>4.0 | 〔6.2〕 | | |
| | 坏 | 第42図19 | A2 | ピット1 | 1/3 | 内→黒色、明褐色<br>外→橙色、明赤褐色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔11.6〕<br>4.0 | 〔5.7〕 | | |
| | 坏 | 第42図20 | A2 | カマド付近 | 2/3 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色、黒褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.2<br>5.2 | 6.3 | | 図版9 24 |
| | 坏 | 第42図21 | A2 | 床面 | ほぼ完形 | 内→黒色、<br>外→褐灰色、黒色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 12.8<br>4.0 | 15.5 | | 図版12 24 |
| | 甕 | 第43図1 | A1a (1)(i) | カマド内 | 1/8 | 内→橙色<br>外→明褐色 | 砂少量混入<br>少々密 | やや硬 | 刷毛目<br>横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 〔20.4〕<br>〔16.1〕 | | 〔13.8〕<br>17.3 | 図版14 24 |
| | 甕 | 第43図2 | A1b (2)(i) | 床面 | 1/3 | 内→橙色、にぶい赤褐色<br>外→橙色、明赤褐色<br>にぶい赤褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 横ナデ | 〃 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 〃 | ヘラナデ | | | 20.0<br>(17.5) | | 15.9 | 図版13 24 |
| | 甕 | 第43図3 | A1b (1)(i) | カマド付近 | ほぼ完形 | 内→にぶい橙色、橙色、褐色<br>外→灰白色、黒褐色、橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 横ナデ | 〃 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | ヘラケズリ | 刷毛目 | 21.6<br>30.1 | 7.2 | 16.9 | 図版1 25 |
| | 甕 | 第43図4 | A2b (1)(i) | 床面 | 1/10 | 内→褐色、赤褐色<br>外→明赤褐色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 刷毛目 | | | 〔14.5〕<br>( 8.8) | | 〔10.6〕<br>12.1 | 図2 版左 25(1) |
| | 鉢 | 第43図5 | A1b | カマド内 | 1/10 | 内→浅黄橙色、褐灰色<br>外→橙色、淡橙色 | 砂多めに混入<br>少々粗 | 少し軟 | 〃 | 〃 | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラナデ | 刷毛目 | ヘラナデ | | | 〔16.6〕<br>( 9.0) | 14.3 | | 図版6 25下 |
| | 甕 | 第43図6 | A2b (1)(i) | カマド付近 | 1/10 | 内→にぶい橙色、灰赤色<br>外→にぶい橙色<br>にぶい赤褐色 | 砂少量混入<br>密 | やや硬 | 横ナデ | 〃 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 〔16.2〕<br>( 8.6) | | 〔12.5〕 | 図版6 25上 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分版番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 測定値 (cm) 〔 〕復元値 ( ) 現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12号住居跡 | 甕 | 第44図1 | A I a (2)(i) | カマド付近 | ほぼ完型 | 内→橙色、暗褐色、明褐色<br>外→にぶい橙色、橙色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 横ナデ<br>刷毛目 | 横ナデ<br>刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | 口径 23.3<br>器高 33.7 | 底径 10.1<br>脚高 | 頸径 19.2<br>胴径 21.0 | 図版5 25 |
| | 壺 | 第44図2 | A 1(1) | 床面(埋設土器) | 2/3 | 内→にぶい橙色<br>外→浅黄橙色、橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや硬 | | | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 器高<br>(18.8) | 11.5 | 23.3 | 図版4 25 |
| | 甕 | 第44図3 | A 2 b (1)(ii) | 床面 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→褐灰色、明褐灰色 | 砂ごく少量混入<br>やや密 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | | | 〔14.4〕<br>( 6.2) | | | 図2 右25(2) |
| | 甕 | 第44図4 | A 2 | カマド付近 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→にぶい橙色、褐灰色 | 砂少量混入<br>かなり密 | やや硬 | | | | | 〃 | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ( 5.3) | 8.7 | | |
| | 甕 | 第44図5 | A 2 | カマド内 | 1/6 | 内→橙色、にぶい橙色<br>外→橙色、明赤褐色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | | | ヘラケズリ | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | (10.0) | 8.3 | | 図版3 25 |
| | 甕 | 第44図6 | A 3 b (2)(ii) | カマド付近 | 1/8 | 内→橙色、にぶい橙色<br>外→明赤褐色、赤灰色 | 砂多めに混入<br>少々粗 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 〃 | ナデ | ヘラケズリ | ナデ | | | 〔10.8〕<br>( 6.7) | | 〔 9.5〕<br>9.6 | 図2 右25(2) |
| | 甕 | 第44図7 | A 3 b (1)(i) | 床面 | 1/10 | 内→灰白色、浅黄橙色<br>外→にぶい橙色、褐灰色 | 砂少量混入<br>やや密 | 普 | 〃 | 〃 | 刷毛目 | ヘラナデ | 刷毛目 | ヘラナデ | | | 〔13.0〕<br>( 6.2) | | 〔11.0〕<br>11.6 | 図2 右25(3) |
| 第13号住居跡 | 坏 | 第48図1 | A 2 | カマド付近 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂微量混入<br>やや密 | 普 | 横ナデ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 11.6<br>4.5 | 6.0 | | 図版6 26 |
| | 坏 | 第48図2 | A 2 | カマド右 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや軟 | 横ナデ<br>ヘラミガキ | 横ナデ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔14.8〕<br>4.8 | 〔 6.6〕 | | |
| | 坏 | 第48図3 | A 2 | ピット8 | ほぼ完型 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 横ナデ<br>ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラナデ<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〔13.3〕<br>4.3 | 〔 6.5〕 | | 図版8 26 |
| | 坏 | 第48図4 | A 2 | 第4層 | ほぼ1/2 | 内→橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔11.8〕<br>3.4 | 〔 5.7〕 | | |
| | 坏 | 第48図5 | A 2 | ピット3 | 4/5 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 横ナデ<br>ヘラミガキ | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.4〕<br>4.2 | 〔 6.6〕 | | 図版10 26 |
| | 坏 | 第48図6 | A 2 | 北壁際床面 | ほぼ完型 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 横ナデ<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〔12.4〕<br>4.5 | 〔 6.8〕 | | 図版5 26 |
| | 坏 | 第48図7 | A 2 | カマド付近 | 1/2 | 内→黒色<br>外→黒色、褐灰色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや硬 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔12.7〕<br>4.3 | 〔 6.0〕 | | 図版1 26 |
| | 坏 | 第48図8 | A 2 | カマド右 | 1/3 | 内→黒色<br>外→黒色、明褐灰色 | 砂少量混入<br>密 | やや硬 | 横ナデ<br>ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔13.6〕<br>4.5 | 〔 7.2〕 | | |
| | 坏 | 第48図9 | A 2 | カマド付近 | 1/2 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 破少量混入<br>密 | やや硬 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラミガキ | 〃 | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.1〕<br>3.9 | 〔 6.1〕 | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13号住居跡 | 坏 | 第48図10 | A2 | 北壁際第3層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 横ナデ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 口径〔11.2〕<br>器高 3.6 | 底径〔5.9〕<br>脚高 | 頸径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第48図11 | A2 | 北壁際第3層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→明褐灰色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔12.9〕<br>4.7 | 〔5.9〕 | | |
| | 坏 | 第48図12 | A2 | ピット6 | 1/4 | 内→黒色<br>外→明褐灰色、黒色、灰褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | 普 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔14.7〕<br>4.0 | 〔7.6〕 | | |
| | 坏 | 第48図13 | A2 | 第2層 | ほぼ完型 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 12.5<br>4.2 | 6.2 | | 図版7 26 |
| | 坏 | 第48図14 | A2 | 床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | 普 | 横ナデ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | 〔11.6〕<br>4.9 | 〔6.1〕 | | 図版2 26 |
| | 坏 | 第48図15 | A2 | 第2層 | ほぼ完型 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂多めに混入<br>普 | やや軟 | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 9.0<br>3.9 | 5.3 | | 図版9 26 |
| | 坏 | 第48図16 | A2 | カマド付近 | 1/3 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>若干粗 | やや軟 | 横ナデ<br>ヘラミガキ | 横ナデ | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ<br>ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔12.0〕<br>( 4.6) | | | |
| | 坏 | 第48図17 | A2 | ピット11 | 3/4 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや軟 | 横ナデ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 12.8<br>5.1 | 5.9 | | |
| | 坏 | 第48図18 | A2 | カマド右 | 1/4 | 内→黒色<br>外→黒色、浅黄橙色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔14.1〕<br>5.0 | 〔6.8〕 | | |
| | 坏 | 第48図19 | BIIa | 第3層 | 1/3 | 内→灰色<br>外→灰色、暗青灰色 | 砂少量混入<br>かなり密 | かなり硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 〔13.4〕<br>3.8 | 〔7.1〕 | | |
| | 坏 | 第48図20 | BIIb | 第2層 | 1/3 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂少量混入<br>密 | かなり硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転ヘラ切り | 〃 | 〔12.4〕<br>3.1 | 〔6.5〕 | | |
| | 坏 | 第48図21 | BIIb | 第3層 | 3/5 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂少量混入<br>密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 12.3<br>3.4 | 5.9 | | |
| | 坏 | 第48図22 | BIIb | 第3層 | 1/5 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色、にぶい橙色 | 砂少量混入<br>だいぶ密 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.0〕<br>3.3 | 〔6.5〕 | | |
| | 坏 | 第48図23 | BIId<br>−W3 | カマド付近 | 5/6 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 13.0<br>5.5 | 6.4 | | 図版3 26 |
| | 蓋 | 第48図24 | BII | 北壁際床面 | 4/5 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 10.7<br>4.9 | 3.3 | | 図版4 26 |
| | 甕 | 第49図1 | A2a<br>(1)(i) | ピット14 | 1/10 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや硬 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 〔18.2〕<br>〔11.1〕 | | 〔15.2〕<br>〔16.6〕 | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 器面 体部下半 外 | 器面 体部下半 内 | 器面 底部 外 | 器面 底部 内 | 法量 測定値(cm) 〔 〕復元値 ( ) 現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13号住居跡 | 甕 | 第49図2 | A1a (1)(i) | カマド | 1/3 | 内→にぶい橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 口径 22.5<br>器高(12.5) | 底径<br>脚高 | 頸径 17.7<br>胴径 18.8 | |
| | 甕 | 第49図3 | A1a (1)(i) | カマド | 9/10 | 内→橙色、にぶい橙色<br>外→にぶい赤褐色 明赤褐色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 刷毛目<br>横ナデ | 〃 | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 〃 | | | 22.3<br>(29.3) | | 16.9<br>18.5 | 図版16 26 |
| | 甕 | 第49図4 | A2a (1)(i) | 床面 | 1/4 | 内→にぶい橙色、橙色、暗褐色<br>外→にぶい橙色、橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 横ナデ | 〃 | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | | | 16.4<br>(11.2) | | 13.4<br>14.1 | |
| | 甕 | 第49図5 | A2a (1)(i) | カマド付近 | 1/4 | 内→浅黄橙色、橙色<br>外→にぶい褐色、明褐灰色 | 砂少量混入<br>普 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 刷毛目 | | | | | 15.6<br>( 8.5) | | 11.6<br>13.4 | 図版13 26 |
| | 甕 | 第49図6 | A2a (2)(i) | カマド付近 | 1/9 | 内→にぶい橙色<br>外→橙色、にぶい橙色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | 〔17.0〕<br>( 9.0) | | 〔12.3〕<br>〔13.5〕 | |
| | 甕 | 第49図7 | A2a (2)(i) | 床面 | 1/10 | 内→にぶい橙<br>外→にぶい褐橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 〔19.7〕<br>(11.9) | | 〔14.1〕<br>〔14.8〕 | |
| | 甕 | 第49図8 | A1 | 煙出部 | 1/8 | 内→にぶい赤褐色、暗赤褐色<br>外→にぶい褐色、明褐色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | | | | | 〃 | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | | 10.9 | | 図版8 25 |
| | 甕 | 第50図1 | A1a (1) (i) | カマド | ほぼ完型 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色、橙色 | 砂少量混入<br>若干混入 | 普 | 横ナデ<br>刷毛目 | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 22.2<br>28.2 | 11.2 | 17.9<br>20.5 | 図版18 26 |
| | 甕 | 第50図2 | A1a (1)(ii) | 第3層 | 1/10 | 内→明褐灰色<br>外→明赤褐色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やいぶ軟 | 〃 | 〃 | 刷毛目 | 刷毛目<br>ヘラナデ | | | | | 〔26.1〕<br>( 5.4) | | 〔22.9〕 | |
| | 甕 | 第50図3 | A1a (1)(ii) | カマド | 1/6 | 内→橙色<br>外→橙色、黒色 | 砂多めに混入<br>かすかに粗 | かすかに軟 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | | | 〔21.6〕<br>(12.3) | | 〔19.6〕<br>〔20.5〕 | |
| | 壺 | 第50図4 | BIa | 床面 | 1/10 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | だいぶ軟 | タタキ目<br>ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 刷毛目<br>ロクロナデ | | | | | 〔21.7〕<br>( 6.3) | | 〔17.5〕 | |
| | 鉢 | 第50図5 | A1b | 床面 | 1/8 | 内→にぶい橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>だいぶ粗 | だいぶ硬 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目 | ヘラナデ | 刷毛目 | ヘラナデ | | | 〔11.5〕<br>( 6.0) | | 〔 9.9〕<br>〔10.1〕 | |
| | 甕 | 第50図6 | A2 | 第3層 | 1/8 | 内→にぶい褐色<br>外→橙色、黒褐色 | 砂若干混入<br>若干粗 | やや硬 | | | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ<br>刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | | 8.8 | | |
| | 甕 | 第50図7 | A2 | 第3層 | 1/9 | 内→橙色<br>外→にぶい赤褐色、明赤褐色 | 砂若干混入<br>かすかに密 | やや硬 | | | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラナデ | 〃 | ヘラナデ | | 〔8.0〕 | | |
| | 甕 | 第50図8 | A2 | 第2層 | 1/8 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | かすかに軟 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | 8.0 | | |
| | 甕 | 第50図9 | A2a (1)(ii) | 北壁際床面 | ほぼ完型 | 内→橙色、にぶい橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 〃 | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 15.9<br>18.2 | 10.5 | 13.7<br>14.2 | 図版17 26 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13号住居跡 | 壺 | 第50図10 | A2a(1)(i) | カマド内 | 1/8 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | 軟 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | | | 口径〔15.8〕<br>器高(10.0) | 底径<br>脚高 | 頸径 12.8<br>胴径〔16.6〕 | 図版7 25 |
| | 鉢 | 第51図1 | A2a① | 第3層 | 1/3 | 内→橙色<br>外→明褐色、褐色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 刷毛目 | ヘラナデ | 刷毛目 | 〃 | 刷毛目 | 〃 | ヘラケズリ | ヘラナデ | 7.0<br>5.9 | 4.0 | | |
| | 鉢 | 第51図2 | A2b① | カマド内 | 2/3 | 内→にぶい橙色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂微量混入<br>密 | やや硬 | ヘラナデ | 〃 | ヘラナデ | 〃 | ヘラナデ | 刷毛目 | 〃 | 〃 | 7.3<br>5.8 | 4.4 | 7.8 | 図版14 26 |
| | 鉢 | 第51図3 | A2b② | 北壁際床面 | 1/2 | 内→黒色<br>外→黒色、浅黄橙色 | 砂若干混入<br>密 | やや硬 | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラミガキ<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔13.9〕<br>7.7 | 〔 7.9〕 | | |
| | 鉢 | 第51図4 | A2b① | 北壁際床面 | 1/3 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 〔17.5〕<br>10.5 | 〔 9.0〕 | 〔18.1〕 | 図版15 26 |
| | 鉢 | 第51図5 | A2b② | 北壁際床面 | 1/3 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂若干混入<br>密 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | 刷毛目<br>ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〔16.3〕<br>9.8 | 〔 8.5〕 | | 図版12 26 |
| | 甕 | 第52図1 | BII | ピット6 | 1/20 | 内→灰色、暗褐色<br>外→褐灰、暗褐 | 砂若干混入<br>やや粗 | かなり硬 | ロクロナデ<br>波状文 | ロクロナデ | | | | | | | 〔30.3〕<br>( 6.1) | | | |
| | 甕 | 第52図2 | BII | 床面 | 1/20 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂ほとんど無<br>だいぶ密 | かなり硬 | | | ロクロナデ<br>タタキ目 | ロクロナデ | | | | | | | 〔30.1〕 | |
| | 甕 | 第52図3 | BII | 第2層 | 1/20 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>だいぶ密 | かなり硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | | | 〔48.8〕<br>( 9.5) | | | |
| | 壺 | 第52図8 | 小形手捏土器 | 北壁際第3層 | ほぼ完形 | 内→褐灰色<br>外→褐灰色 | 砂若干混入<br>やや粗 | だいぶ軟 | オサエ | オサエ | オサエ<br>ヘラケズリ | オサエ | ヘラケズリ | オサエ | ヘラケズリ | オサエ | 1.9<br>2.8 | 1.4 | 1.5<br>2.7 | 図版11 26(4) |
| | 埦 | 第52図9 | 〃 | 北壁際床面 | 1/8 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂若干混入<br>普 | だいぶ軟 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | | | 1.6<br>( 1.9) | | 3.0 | 図版11 26(3) |
| | 埦 | 第52図10 | 〃 | 南壁際第3層 | 完形 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>やや粗 | だいぶ軟 | 〃 | 〃 | オサエ<br>ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | オサエ | 1.8<br>2.4 | | 3.5 | 図版11 26(1) |
| | 鉢 | 第52図11 | 〃 | 第3層 | 2/3 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 4.5<br>2.0 | 2.6 | | 図版11 26(2) |
| 第14号住居跡 | 坏 | 第55図1 | A2 | 第2層 | 1/6 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | 普 | 横ナデ<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔12.6〕<br>4.9 | 〔 6.1〕 | | |
| | 坏 | 第55図2 | BII | 第3層 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂少量混入<br>かなり密 | 硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 〔14.0〕<br>( 2.4) | | | |
| | 坏 | 第55図3 | BIII | ピット1 | 1/5 | 内→浅黄橙色、灰白色<br>外→浅黄橙色、灰白色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 〔13.6〕<br>( 3.5) | | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値（cm） （ ）現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第14号住居跡 | 坏 | 第55図4 | BⅢ | ピット1 | 1/6 | 内→浅黄橙色、灰白色<br>外→浅黄橙色、灰白色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 口径〔12.2〕<br>器高 3.5 | 底径〔 6.1〕<br>脚高 | 頸径<br>脚径 | |
| | 坏 | 第55図5 | BIc<br>−H | ピット1 | 2/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | | | 〔14.7〕<br>（ 4.6） | | | |
| | 坏 | 第55図6 | BIa | ピット1 | 3/7 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色、浅黄橙色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 〔14.1〕<br>4.6 | 〔 4.8〕 | | 図版427 |
| | 坏 | 第55図7 | BIa | ピット1 | 2/5 | 内→黒色<br>外→にぶい黄橙色、黒色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.7〕<br>4.8 | 〔 4.7〕 | | 図版527 |
| | 壺 | 第55図8 | BⅡ | 埋土中 | 1/10 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂かすかに混入<br>かなり密 | かなり硬 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | | | | | 〔15.4〕<br>（ 4.7） | | 〔11.8〕 | 図版627中 |
| | 甕 | 第55図9 | BI2<br>(1) | ピット1 | 1/10 | 内→灰白色、褐灰色<br>外→灰白色、褐灰色 | 砂少量混入<br>若干粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔14.4〕<br>（ 7.1） | | 〔13.0〕<br>〔13.0〕 | 図版627上 |
| 第15号住居跡 | 甕 | 第57図1 | A'1 | ピット4<br>カマド袖 | 2/3 | 内→にぶい赤褐色、灰白色<br>外→灰白色、黒褐色 | 砂多めに混入<br>密 | だいぶ硬 | 横ナデ | 横ナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | ヘラケズリ | ヘラナデ | 〔23.1〕<br>〔30.9〕 | 9.4 | 〔21.1〕<br>〔 23.3〕 | |
| | 甕 | 第57図2 | BI1<br>(2)(i) | 煙道第3層<br>カマド内 | 1/8 | 内→灰白色、暗褐色<br>外→灰白色、浅黄橙色 | 砂多量に混入<br>やや粗 | 少々硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | 〔21.2〕<br>〔27.5〕 | 〔 8.3〕 | 〔18.6〕<br>〔21.2〕 | 図版1231右 |
| | 坏 | 第57図3 | BI<br>−M | ピット4 | 1/4 | 内→黒色<br>外→黒色、橙色 | 砂ほとんど無<br>密 | やや硬 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | | | 〔15.1〕<br>（ 5.0） | | | |
| | 坏 | 第57図4 | BI | ピット4 | 1/4 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂ほとんど無<br>密 | やや軟 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | | | 〔13.1〕<br>（ 4.5） | | | |
| | 坏 | 第57図5 | BIa | ピット4 | 1/4 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂かすかに混入<br>密 | かすかに軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ヘラミガキ | 13.7<br>4.9 | 4.8 | | |
| | 坏 | 第57図6 | BIa | ピット4 | 1/2 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂微量混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.0〕<br>5.7 | 5.2 | | 図版831 |
| | 坏 | 第57図7 | BIa | ピット4 | 完型 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒褐色 | 砂少量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.9<br>4.7 | 6.0 | | 図版931 |
| | 高台付坏 | 第57図8 | BI1<br>③−M | カマド付近 | 1/6 | 内→にぶい橙色、黒色<br>外→にぶい橙色、黒色、赤褐色 | 砂微量混入<br>密 | かすかに硬 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ヘラミガキ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 〔14.9<br>（ 7.2） | 〔 6.3〕 | | |
| | 高台付坏 | 第57図9 | BI2<br>① | カマド内 | 1/6 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂微量に混入<br>密 | やや軟 | | | | | ロクロナデ | 〃 | 菊花状ヘラ刻み | 〃 | （ 2.2） | 5.8<br>1.3 | 高台径 7.1 | |
| | 甕 | 第5図10 | BI2 | ピット3 | 1/10 | 内→黒色<br>外→赤色、明赤灰色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | 少々軟 | | | | | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | （ 2.7） | 8.4 | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 測定値(cm) 〔 〕復元値 ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15号住居跡 | 甕 | 第58図1 | B I 1 (1)(i) | ピット4 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | 少々硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | 口径〔21.6〕<br>器高( 7.4) | 底径<br>脚高 | 頸径(19.4)<br>胴径(20.2) | |
| | 壺 | 第58図2 | B I c | カマド付近 | 1/8 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>密 | 少々軟 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | 刷毛目状<br>ロクロナデ | ヘラケズリ | ロクロナデ | | | 〔23.6〕<br>〔11.4〕 | | 〔21.1〕<br>〔24.6〕 | 図12版左31下 |
| | 壺 | 第58図3 | B II | ピット2 | 1/10 | 内→灰白色<br>外→明褐灰色 | 砂少量混入<br>だいぶ密 | たいへん硬 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | 〔13.9〕<br>(14.5) | | 〔14.8〕 | |
| | 坏 | 第58図4 | B III | カマド付近 | 1/4 | 内→浅黄橙色<br>外→にぶい橙色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 〔14.7〕<br>( 4.6) | | | |
| | 坏 | 第58図5 | B III | ピット4 | 完形 | 内→浅黄橙色、黒褐色<br>外→にぶい赤橙色、灰白色 | 砂少量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | 15.2<br>4.4 | 6.0 | | 図版10 31 |
| | 高台付坏 | 第58図6 | B III 1 ③ | ピット4 | 1/6 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | | | | | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 1.4 | 6.3<br>0.9 | 6.7 | |
| | 高台付坏 | 第58図7 | B III 2 ① | カマド付近 | 1/2 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂少々多め混入<br>やや粗 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 菊花状のヘラ刻み | ロクロナデ | 〔14.7〕<br>6.4 | 〔6.5〕<br>1.8 | 〔 7.6〕 | 図版11 31 |
| 第16号住居跡 | 坏 | 第60図1 | A 2 | 埋土下部 | 1/6 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 横ナデ<br>ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 〔13.8〕<br>3.8 | 〔7.2〕 | | |
| | 坏 | 第60図2 | A 2 | 第2層一括 | 1/8 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂少量混入<br>やや寒 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.0〕<br>4.0 | 〔7.1〕 | | |
| | 坏 | 第60図3 | A 2 | 第2層一括 | 1/5 | 内→浅黄橙色、橙色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 横ナデ | 〃 | 〃 | 〃 | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ<br>刷毛目 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.7〕<br>5.2 | 〔7.3〕 | | 図3版左27(2) |
| | 坏 | 第60図4 | B I c −W 1 | 床面 | 1/4 | 内→黒色、明黄褐色<br>外→にぶい橙色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〔 5.1〕<br>5.1 | 5.3 | | 図版1 27 |
| | 坏 | 第60図5 | B II a | 埋土下部 | 1/6 | 内→灰色<br>外→灰色 | 砂少量混入<br>たいへん密 | たいへん硬 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 〔14.6〕<br>4.3 | 〔5.6〕 | | |
| | 坏 | 第60図6 | B II a | 埋土下部 | 1/4 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂少量混入<br>たいへん密 | たいへん硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.8〕<br>4.4 | 〔7.8〕 | | |
| | 甕 | 第60図7 | A 2 a (2)(i) | 埋土下部 | 1/10 | 内→にぶい橙色、黒褐色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | ナデ | ヘラナデ | | | | | 〔15.2〕<br>( 4.2) | | 〔12.2〕 | 図3版右27(2) |
| | 甕 | 第60図8 | B I | 床面 | 1/4 | 内→褐色、暗褐色、橙色<br>外→灰白色、明褐色、暗褐色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | | | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | 刷毛目 | ヘラケズリ | 刷毛目 | | 〔6.6〕 | | 図版2 27 |
| | 壺 | 第60図9 | A 1 a (2)(i) | 床面 | 1/10 | 内→灰白色、浅黄橙色<br>外→明褐色、灰色、朱彩 | 砂少量混入<br>若干密 | やや軟 | 横ナデ | 横ナデ | 刷毛目<br>ヘラミガキ | 刷毛目 | | | | | 〔15.8〕<br>5.9 | | 〔14.5〕 | 図3版左27(1) |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 調整 体部下半 外 | 調整 体部下半 内 | 調整 底部 外 | 調整 底部 内 | 法量 測定値(cm) ( )復元値 ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 壺 | 第60図10 | BIa | 床面 | 1/10 | 内→にぶい橙色、浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 平行叩き目<br>ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 刷毛目状<br>ロクロナデ | | | | | 口径〔22.5〕<br>器高(10.9) | 底径<br>脚高 | 頸径〔16.8〕<br>胴径 | 図3<br>版右<br>27(1) |
| 第17号住居路 | 坏 | 第62図1 | BIII | 床面 | 4/5 | 内→浅黄橙色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや硬 | ロクロナデ | 〃 | 〃 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ロクロナデ | 14.0<br>5.6 | 5.6 | | 図版1<br>29 |
| | 坏 | 第62図2 | BIII | ピット埋土中 | 1/8 | 内→浅黄色、橙色<br>外→明赤褐色、灰白色、明褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔15.2〕<br>〔4.1〕 | | | |
| | 坏 | 第62図3 | BIII | 埋土中 | 1/9 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔8.5〕<br>〔4.1〕 | | | |
| | 坏 | 第62図4 | BIII | ピット埋土中 | 9/10 | 内→黒色、灰白色、にぶい褐色<br>外→灰白色、浅黄橙色、黒褐色 | 砂若干混入<br>わりと密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 回転糸切り | ロクロナデ | 15.2<br>5.3 | 5.6 | | 図版2<br>29 |
| | 坏 | 第62図5 | BIII | 焼土西側埋中 | 3/5 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色、褐灰色 | 砂若干混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔16.7〕<br>5.8 | 〔6.9〕 | | 図版3<br>29 |
| | 坏 | 第62図6 | BIII | ピット埋土中 | 2/5 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>かなり密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔16.0〕<br>5.1 | 6.6 | | |
| | 甕 | 第62図7 | BI | 焼土東側直上 | 1/5 | 内→にぶい黄橙色<br>外→褐灰色、にぶい黄橙色 | 砂若干混入<br>やや密 | わりと硬 | | | | | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | ロクロナデ | ( 5.4) | 7.8 | (13.6) | |
| | 坏 | 第62図8 | BIII | ピット埋土中 | 2/5 | 内→灰白色、浅黄色<br>外→灰白色、浅黄橙色 | 砂若干混入<br>やや粗 | やや軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 〃 | 回転糸切り | 〃 | 15.8<br>5.5 | 6.8 | | |
| 第18号住居跡 | 坏 | 第64図1 | BIc<br>−M6 | 埋土下部 | 3/4 | 内→黒色、明褐色<br>外→黒色、にぶい褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | ヘラミガキ | 15.8<br>15.5 | 5.4 | | 図版7<br>28 |
| | 坏 | 第64図2 | BIc<br>−M6 | ピット11一括 | 3/4 | 内→黒色<br>外→黒色 | 砂微量に混入<br>密 | 軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 17.0<br>5.2 | 7.0 | | 図版1<br>28 |
| | 坏 | 第64図3 | BIe<br>−H6 | 埋土下部 | 1/5 | 内→黒色、褐色<br>外→橙色、黒色 | 砂微量に混入<br>普 | 軟 | ヘラケズリ | 〃 | ヘラケズリ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.0〕<br>3.9 | 〔4.8〕 | | |
| | 坏 | 第64図4 | BIc<br>−H2 | ピット17 | ほぼ完型 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂少量混入<br>かなり密 | かなり硬 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.9<br>5.5 | 5.4 | | 図版8<br>28 |
| | 坏 | 第64図5 | BIc<br>−H3 | ピット7 | 1/3 | 内→黒色、にぶい橙色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | 普 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.9〕<br>4.3 | 7.0 | | 図版9<br>28 |
| | 坏 | 第64図6 | BIc<br>−H1 | 東壁外焼土部 | 1/2 | 内→黒色<br>外→黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.0〕<br>5.1 | 5.0 | | |
| | 坏 | 第64図7 | BIc<br>−H1 | 埋土下部 | 1/4 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔4.2〕<br>4.7 | 〔6.3〕 | | |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面調整 口縁部 外 | 口縁部 内 | 体部上半 外 | 体部上半 内 | 体部下半 外 | 体部下半 内 | 底部 外 | 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値(cm) ( )現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第18号住居跡 | 坏 | 第64図8 | BIa | 埋土中 | 1/4 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂若干混入<br>少々粗 | 少々軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 口径〔14.3〕<br>器高 4.1 | 底径 5.7<br>脚高 | 頸径<br>胴径 | |
| | 坏 | 第64図9 | BIa | ピット17 | 1/4 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂多めに混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.5〕<br>4.4 | 〔5.7〕 | | |
| | 坏 | 第64図10 | BIa | ピット11第1層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→明褐灰色 | 砂少量混入<br>かなり密 | かなり硬 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | <br>2.8 | 5.0 | | |
| | 坏 | 第64図11 | BIa | ピット11 | 1/2 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂微量混入<br>密 | やや軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.7〕<br>4.2 | 5.7 | | |
| | 坏 | 第64図12 | BIa | 埋土下部 | 1/2 | 内→黒色<br>外→褐灰色、黒色 | 砂少量混入<br>かなり密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.9〕<br>4.7 | 6.0 | | |
| | 坏 | 第64図13 | BIa | ピット2 | 1/3 | 内→黒色<br>外→灰白色、黒色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.6〕<br>4.8 | 5.5 | | |
| | 坏 | 第64図14 | BIa | ピット8 | 1/2 | 内→赤橙色、赤灰色<br>外→赤橙色、淡橙色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.1〕<br>5.1 | 5.9 | | 図版228 |
| | 坏 | 第64図15 | BIa | ピット3一括 | 1/3 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色、黒色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.5〕<br>4.4 | 〔6.6〕 | | |
| | 坏 | 第64図16 | BIa | 東壁外焼土部 | 2/3 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.5〕<br>5.3 | 5.9 | | 図版328 |
| | 坏 | 第64図17 | BIa | ピット8一括 | 1/4 | 内→浅黄橙色、褐灰色<br>外→灰白色、にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〔15.9〕<br>4.6 | 〔6.9〕 | | |
| | 坏 | 第64図18 | BIa | ピット8一括 | 1/2 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.3〕<br>4.5 | 5.8<br>5.3 | | 図版1028 |
| | 坏 | 第64図19 | BIa | ピット17 | 3/5 | 内→黒色<br>外→浅黄橙色 | 砂若干混入<br>若干密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.9〕<br>4.2 | | | |
| | 高台付坏 | 第65図1 | BI1 ③ | 焼土内 | 1/6 | 内→にぶい赤褐色<br>外→橙色 | 砂若干混入<br>密 | やや軟 | | | | | 〃 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | <br>3.0 | 6.0<br>1.6 | 7.8 | |
| | 高台付坏 | 第65図2 | BI2 ①-(2) | ピット14 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂若干混入<br>密 | やや硬 | | | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 菊花状ヘラ刻み | 〃 | <br>( 3.3) | 5.9<br>1.0 | 6.5 | |
| | 高台付坏 | 第65図3 | BI2 ①-(2) | 埋土下部 | 1/5 | 内→黒色<br>外→灰白色 | 砂若干混入<br>密 | やや硬 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | <br>( 2.0) | 6.4<br>0.9 | 6.6 | |
| | 高台付坏 | 第65図4 | BI2 ①-(3) | ピット7第4層 | 3/4 | 内→黒色<br>外→橙色 | 砂少量混入<br>普 | かなり軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.0<br>3.8 | 5.5<br>1.1 | 6.0 | 図版428 |

| 遺構名 | 器種 | 図版番号 | 分類番号 | 出土状況 | 遺存 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 器面 口縁部 外 | 器面 口縁部 内 | 器面 体部上半 外 | 器面 体部上半 内 | 器面 体部下半 外 | 器面 体部下半 内 | 器面 底部 外 | 器面 底部 内 | 法量 〔 〕復元値 測定値（cm） （ ）現存値 | | | 写真番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第18号住居跡 | 坏 | 第65図5 | BIa | ピット2第2層 | 1/2 | 内→黒色<br>外→橙色、黒色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | | | ロクロナデ | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラミガキ | 回転糸切り | ヘラミガキ | 口径<br>器高（2.8） | 底径 5.4<br>脚高 | 筒径<br>脚径 | |
| | 坏 | 第65図6 | BIa | ピット14 | 1/4 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | <br>3.9 | 5.3 | | |
| | 坏 | 第65図7 | BIa | 埋土中 | 1/5 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | ロクロナデ | ヘラミガキ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.6〕<br>4.7 | 〔3.8〕 | | |
| | 坏 | 第65図8 | BIa | ピット14底部 | 1/4 | 内→黒色<br>外→にぶい橙色、黒色 | 砂若干混入<br>若干密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.6〕<br>5.3 | 〔4.9〕 | | |
| | 坏 | 第66図1 | BIII | ピット2 | 1/4 | 内→灰白色<br>外→灰白色 | 砂少量混入<br>普 | やや軟 | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〃 | ロクロナデ | 〔12.2〕<br>3.7 | 〔5.8〕 | | |
| | 坏 | 第66図2 | BIII | 埋土下層 | 6/7 | 内→浅黄橙色<br>外→灰白色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.5<br>3.5 | 6.4 | | 図版528 |
| | 坏 | 第66図3 | BIII | ピット2 | 3/5 | 内→橙色<br>外→明褐色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.7〕<br>3.8 | 5.3 | | 図版628 |
| | 坏 | 第66図4 | BIII | 埋土下層 | 1/4 | 内→浅黄橙色<br>外→淡橙色、浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや軟 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔12.8〕<br>3.5 | 〔4.5〕 | | |
| | 坏 | 第66図5 | BIII | ピット16一括 | 1/4 | 内→橙色<br>外→橙色 | 砂多めに混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.1〕<br>4.6 | 5.2 | | |
| | 坏 | 第66図6 | BIII | 埋土中層 | 1/3 | 内→灰白色、褐色<br>外→灰白色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 14.8<br>4.3 | 〔6.1〕 | | |
| | 坏 | 第66図7 | BIII | 東壁外焼土 | 1/2 | 内→浅黄橙色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔14.5〕<br>5.0 | 〔5.8〕 | | 図版1328 |
| | 坏 | 第66図8 | BIII | ピット16一括 | 3/4 | 内→橙色<br>外→浅黄橙色、浅橙色 | 砂少量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 15.2<br>5.4 | 5.2 | | 図版1428 |
| | 坏 | 第66図9 | BIII | ピット7<br>第4層、第5層 | 1/2 | 内→灰褐色、浅黄橙色<br>外→浅黄橙色、にぶい橙色 | 砂少量混入<br>やや密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔15.9〕<br>5.1 | 6.8 | | |
| | 坏 | 第66図10 | BIII | 埋土下層 | 1/2 | 内→灰白色、黒褐色<br>外→浅黄橙色 | 砂少量混入<br>だいぶ密 | だいぶ硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〔13.6〕<br>4.5 | 5.2 | | 図版1128 |
| | 坏 | 第66図11 | BIII | ピット2第2層 | 完型 | 内→浅黄橙色<br>外→橙色、明褐赤色 | 砂少量混入<br>やや粗 | やや硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 13.8<br>4.7 | 5.1 | | 図版1228 |
| | 坏 | 第66図12 | BIII | カマド袖内 | 1/5 | 内→浅黄橙色<br>外→明褐灰色、灰白色 | 砂多めに混入<br>普 | 硬 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 〔13.9〕<br>（4.7） | | | |